

市町村別鳥類生息密度調査報告書

第 13 次鳥獣保護管理事業計画（令和 4 年度～令和 8 年度）第二次報告

令和 6 年 9 月

群馬県

序

群馬県は三方を山に囲まれ、県土の約3分の2を森林が占め、利根川水系を中心とした河川は網の目のように流れ、関東平野につながっています。このような群馬県には、数多くの野鳥の生息が確認されていますが、生息する野鳥の種や数は、生息環境の変化に伴い、次第に変わりつつあります。

このような中、野鳥の生息状況の調査を行うことは、単に野鳥の生息状況を知るだけでなく、私たちを取り巻く環境の変化を知るうえでも極めて大切なことであります。

この生息密度調査は、県内を河川の流域別に5つのブロックに分け、昭和47年度から「市町村別鳥獣生息調査」として始まりましたが、昭和57年度からは「市町村別鳥類生息密度調査」と名称を変え、現在に至っております。調査は、「鳥獣保護管理事業計画」に基づき5か年で県内全体を一巡する形となっております。

本報告書は、「第13次鳥獣保護管理事業計画」に基づき実施する調査の第二次報告で、令和5年度において、碓氷川、烏川及び利根川（中流）流域を調査した結果をまとめたものです。野鳥保護のための基礎資料となるものですが、広く県民の皆様が野鳥に親しむための一助となれば幸いです。

なお、本調査の実施にあたり、日本野鳥の会群馬をはじめとする多くの関係者の皆様に御協力をいただきましたことに厚く御礼申し上げます。

令和6年9月

群馬県環境森林部自然環境課長

臼田 栄慈

目 次

1. はじめに	1
2. 調査メッシュ区画図	3
3. 渋川市（旧渋川市）〔伊香保 a、金井 b〕	5
4. 渋川市（旧子持村）〔鯉沢 c〕	13
5. 渋川市（旧小野上村）〔金井 a〕	19
6. 渋川市（旧伊香保町）〔伊香保 c〕	25
7. 榛東村〔伊香保 b〕	31
8. 吉岡町〔渋川 d〕	37
9. 高崎市（旧高崎市）〔高崎 a・c・d、富岡 a、下室田 b〕	43
10. 高崎市（旧榛名町）〔下室田 c・d、榛名湖 a・b〕	57
11. 高崎市（旧倉渕村）〔三ノ倉 a・c、榛名湖 d、浅間隠山 b・d〕	69
12. 高崎市（旧箕郷町）〔伊香保 d、下室田 a〕	83
13. 高崎市（旧群馬町）〔前橋 c〕	91
14. 安中市（旧安中市）〔富岡 c、松井田 a、三ノ倉 b・d〕	97
15. 安中市（旧松井田町）〔軽井沢 a・b・c・d、松井田町 c〕	109

はじめに

本調査は、鳥類の生息数および生息環境等を把握するため、県内を流域別に5ブロックに分け、順次ブロックごとに繁殖期の生息密度および越冬期における生息状況について、メッシュ調査をおこなうものである。調査は、日本野鳥の会群馬に委託して実施した。

1. 調査地

国土地理院発行の2万5千分の1の地形図を縦横各2等分し、4分割となった1区画（東西約6.0km×南北約4.5km）を1メッシュとし、各メッシュの中で鳥類の生息が比較的良好と思われる地域に4kmの調査コースを設けた。安全な調査ルートが確保できず調査できない場所を除外し、今回は33メッシュの調査を実施した。

2. 調査方法

各メッシュに設けた4kmの調査コース上を時速約2kmで歩き、コースの左右25m（全幅50m）の範囲で、観察または鳴声等により確認された鳥の種類および個体数等を記録した。さらに、この範囲外（左右25m以遠）で確認できた鳥がいた場合には、種類のみを記録した。調査時期は、繁殖期の5月～7月と越冬期の11月～1月である。調査回数は、繁殖期に4回（2往復）と越冬期に2回（1往復）の計6回とした。調査対象種は、外来種を含めた鳥類全種である。なお、繁殖に関係する行動などは、繁殖鳥の全国調査と同様の基準で記録した。

3. 結果の集計方法

結果は調査メッシュごとに集計し、旧市町村ごとに、調査コースの環境の概要、繁殖期と越冬期の結果、および過去の記録との比較について簡潔にまとめた。その際、越冬期の調査回数は第10次計画までが1回、第11次計画からが2回であるため、個体数の比較には調査1回あたりの平均を用いた。1メッシュが2つ以上の旧市町村にまたがる場合は、面積の一番多い旧市町村に区分するか、旧市町村名を併記した。各メッシュの集計表には調査日ごとの記録種とその個体数を示し、繁殖期・越冬期とも、合計と平均個体数を示した。調査範囲外で記録されたものについては○で示し、個体数の集計からは除外した。また、

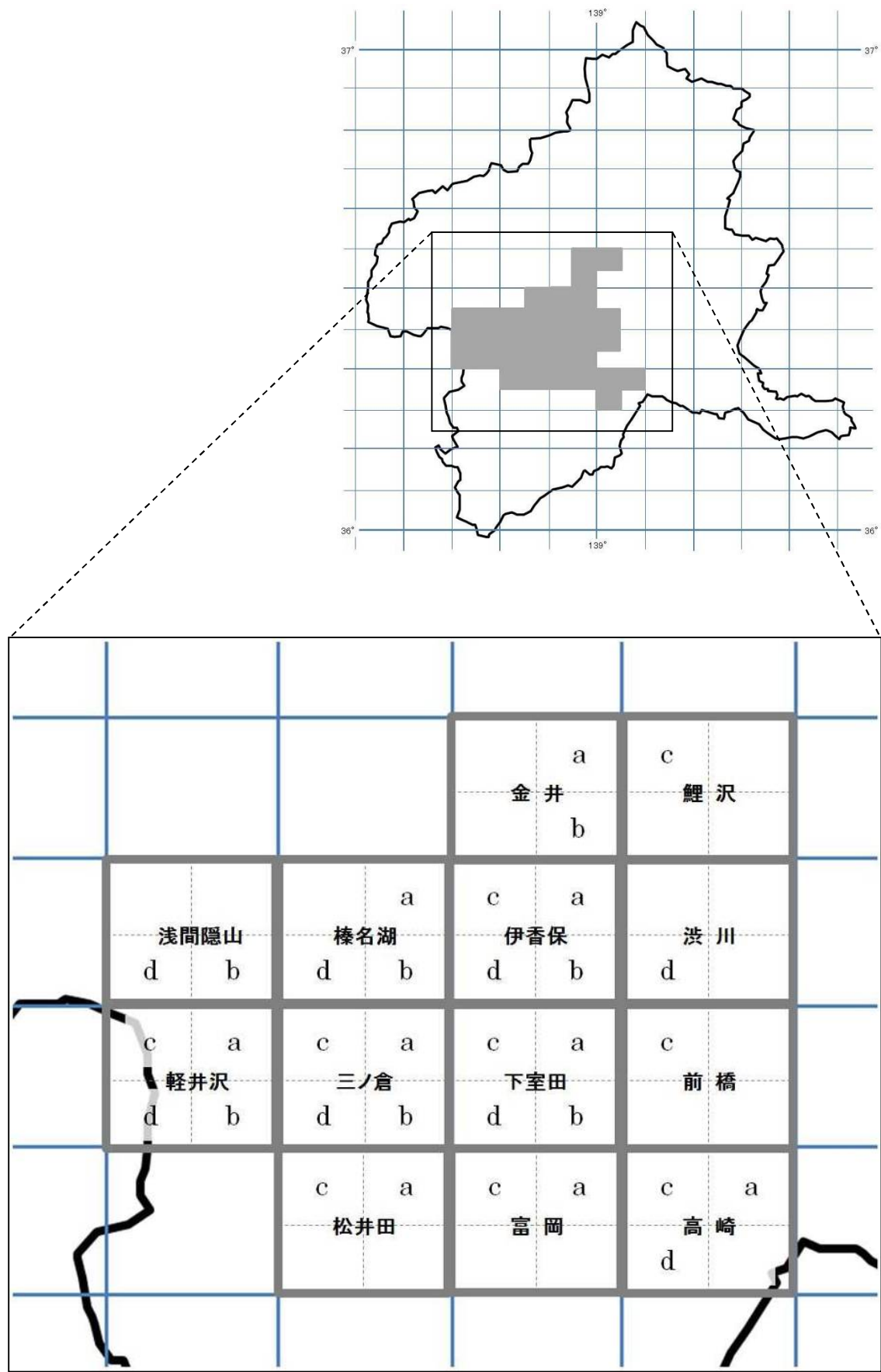
繁殖期に関しては、密度、種優占度、相対出現頻度を算出し、繁殖可能性ランクを示した。
 計算方法は次のとおりである。繁殖可能性ランクについては、繁殖に直接関わる行動を観察したAランクと、繁殖は確認できなかったが繁殖の可能性が高いBランクのみを示した。
 過去の記録との比較では、越冬期の調査回数が過去の調査と異なるため、繁殖期・越冬期とも平均個体数を比較に用いた。

- ① 1時間当たり密度 = $\frac{\text{観察個体数}}{\text{調査時間}}$
- ② 1ha 当たり密度 = $\frac{\text{観察個体数}}{\text{調査面積}}$
- ③ 種 優 占 度 = $\frac{\text{その種の観察個体数}}{\text{全種類の観察個体数}} \times 100(\%)$ (その種がその地域で占める
個体数の割合)
- ④ 相 対 出 現 頻 度 = $\frac{\text{その種の観察個体数}}{\text{最多出現種の個体数}} \times 100(\%)$ (最多出現種の観察個体数を
100としたときの相対値)

4. 第13次鳥獣保護管理事業計画（令和4年度～令和8年度）の調査概要

対 象 鳥 獣 名	調査年度	調査方法 内 容	調査地域			調査時期
			流域別	市町村(旧区分)	メッシュ数	
外 来 種 を 含 む 全 て の 鳥 類	令 和 4 年 度 (第一次報告)	市町村別に2万5千分の1地形図を4分割したメッシュごとに現地調査をおこなう。	神 流 川 鎗 川	藤岡市、鬼石町、吉井町、万場町、中里村、上野村、富岡市、妙義町、下仁田町、南牧村、甘楽町 11市町村	38	繁殖期 (5～7月) に4回
	令 和 5 年 度 (第二次報告)		碓 氷 川 鳥 川 利 根 川 (中 流)	渋川市、子持村、小野上村、伊香保町、榛東村、吉岡町、高崎市、安中市、榛名町、倉渕村、箕郷町、群馬町、松井田町 13市町村	33	
	令 和 6 年 度 (第三次報告)		吾 妻 川	中之条町、(吾)東村、吾妻町、長野原町、嬬恋村、草津町、六合村、高山町 8市町村	44	
	令 和 7 年 度 (第四次報告)		奥 利 根 川	沼田市、利根村、白沢村、片品村、川場村、月夜野町、水上町、新治村、昭和村 9市町村	43	
	令 和 8 年 度 (第五次報告)	調査結果は報告書として印刷製本する。	利 根 川 渡 良 瀬 川	前橋市、桐生市、玉村町、太田市、館林市、北橋村、赤城村、富士見村、大胡町、宮城村、粕川村、黒保根村、(勢)東村、大間々町、赤堀町、新田町、藪塚本町、笠懸町、板倉町、明和町、千代田町、大泉町、邑楽町 23市町村	61	越冬期 (12～1月)に2回
			合 計 64市町村			219

調査メッシュ区画図



澁川市（旧澁川市）鳥類生息密度調査結果

1. 調査地の環境

渋川市（旧渋川市）に含まれる調査地は下表の 2 メッシュである。標高からは両メッシュとも低山帯に属し、植林地や雑木林、農耕地を含む里山的環境を中心としたコースである。調査コースは両メッシュとも前回と同じで、環境にも大きな変化はみられなかった。

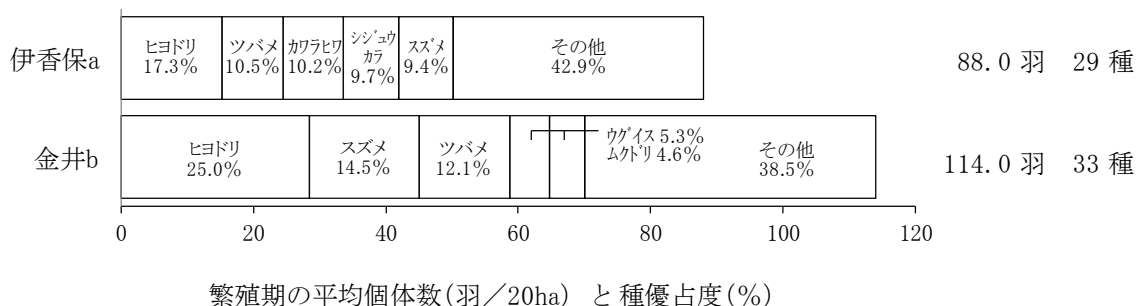
調査 メッシュ	標高	環境要素								調査コース
		広葉樹林	針葉樹林	植林地	草地草原	農耕地	里山集落	市街地	河川湖沼	
伊香保a	265 ～ 480	○	—	◎	—	○	○	—	—	前回と同じ
金井b	250 ～ 450	○	—	◎	—	○	○	—	○	前回と同じ

2. 調査結果と考察

今年度の調査では、渋川市（旧渋川市）全体で繁殖期に 39 種、越冬期に 29 種、年間では 47 種が記録された。なお、前々回（平成 25 年度実施）は年間 51 種、前回（平成 30 年度実施）も年間 51 種が記録されている。

(1) 繁殖期

繁殖期の調査結果は下図のとおりである。今回の調査地域全体の平均と比較すると、両メッシュとも個体数・種数ともに平均的な値であった。両メッシュとも市街地や集落に近い場合、ヒヨドリやスズメ、ツバメ、ムクドリといった人里に生息する種が優占した。特筆すべき種として、群馬県版 RDB に掲載されているサンコウチョウ、カシラダカ、アオバト、ツツドリ、オオタカと、環境省の特定外来生物に指定されているガビチョウ、カオジロガビチョウが記録された。このうち、絶滅危惧Ⅱ類のサンコウチョウ（金井 b）は、県内では回復傾向にあるもののまだ個体数は少ない。また準絶滅危惧のオオタカ（金井 b）は生態系の頂点付近に位置する中型の猛禽類である。両種とも、良好な環境の指標としても重要である。一方、ガビチョウ（両メッシュ）とカオジロガビチョウ（金井 b）は渋川市（旧渋川市）では前々回の調査で初めて記録され、今回は個体数がやや増加した。両種は県内の分布を拡大しており、在来種への影響が懸念されるため、今後の動向に注目したい。



(2) 越冬期

越冬期の優占種は次表のとおりである。今回の調査地域全体の平均と比較すると、伊香

保 a は種数がやや少なかったものの、その他は両メッシュとも平均的な値であった。繁殖期と同様に、ヒヨドリやムクドリといった人里に生息する種のほか、こういった環境を越冬期に利用するシジュウカラなど森林性の種が優占した。また、冬鳥として渡来するカシラダカが金井 b で最優占種となった。カシラダカは、かつては県内にも多数が渡来し越冬していたが、全国的に個体数の減少が著しい種である。一方、特定外来生物のカオジロガビチョウ（金井 b）が優占種に入り、ガビチョウ 2 種が周年生息することが確認された。

調査メッシュ	優占種（上位 5 種*）					平均個体数 (羽/20ha)	種数 (種)
	1位	2位	3位	4位	5位		
伊香保a	シジュウカラ	メジロ	カワラヒワ	ヒヨドリ	ホオジロ	83.5	18
金井b	カシラダカ	ヒヨドリ	シジュウカラ	カオジロガビチョウ	ムクドリ	140.0	23

* 同率の場合は分類順に5種まで掲載

(3)過去の調査結果との比較

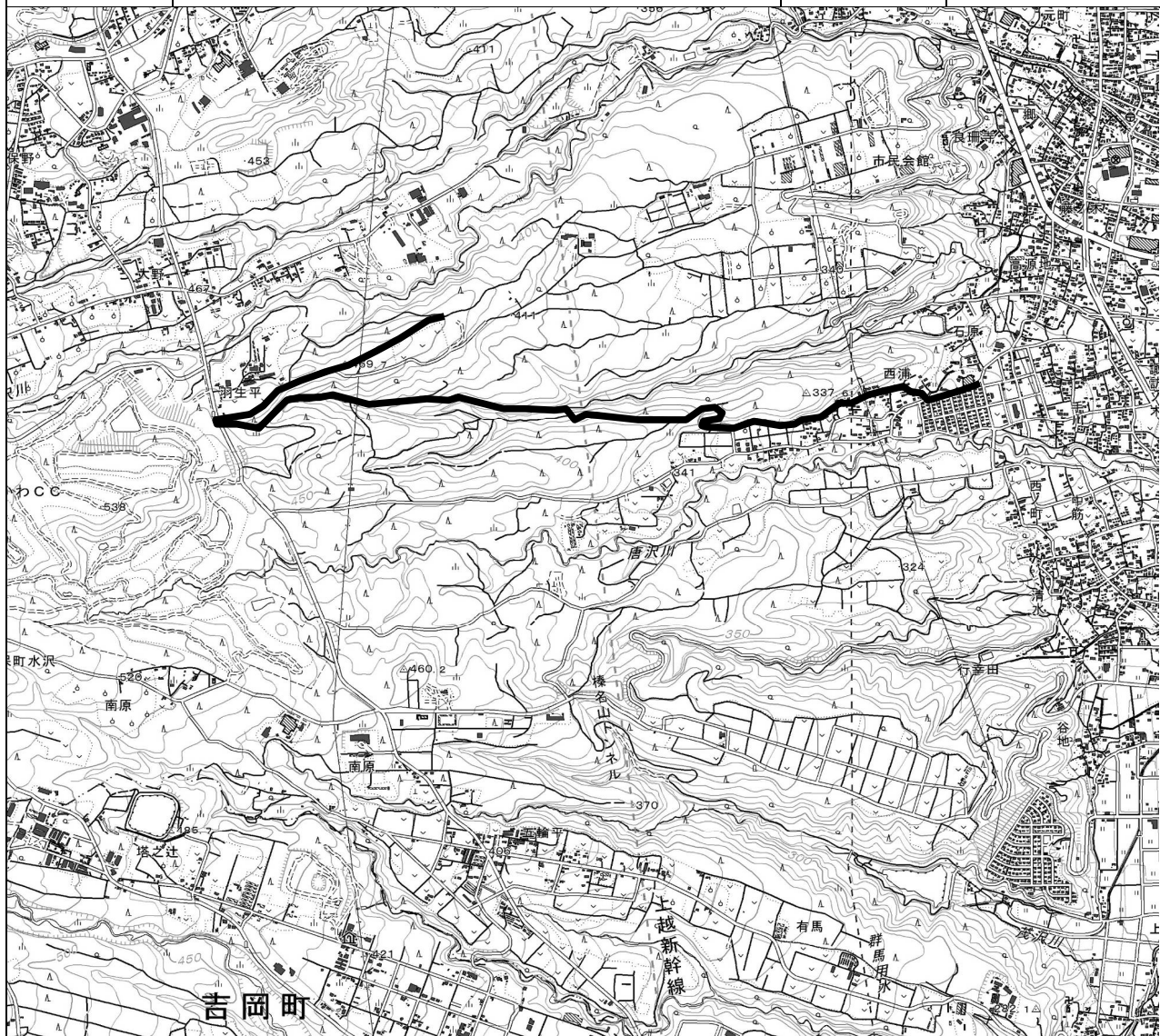
直近 3 回分の調査結果は下表のとおりである。繁殖期と越冬期の種数・個体数とも、多少の変動がみられたものの、全体としては種数・個体数ともに大きな変化はなかった。前述のように、今年度の調査地域全体の平均と比較して、越冬期の伊香保 a の種数がやや少なかったが、その他は繁殖期も含め平均的な値であり、調査コース周辺の鳥類相に大きな変化はないものと考えられる。

過去 2 回の調査で記録が無く今回新たに記録された種は、オオタカとゴジュウカラの 2 種であった。一方、過去 2 回とも記録があるのに今回記録されなかったのはカルガモ、ヤブサメ、アトリ、アオジの 4 種であった。このうち、アトリは越冬期に群れで移動するため、生息していても記録されないことがある種である。これに対し、夏鳥のヤブサメは潜行性が強く、姿を観察できる機会は多くないが、特徴的な囀りで生息を確認できる。本種は前回の調査まで継続して毎回記録されていたが、今回の調査で記録されなかった。今後の動向に注目したい。

調査メッシュ	繁殖期						越冬期					
	種数(種)			平均個体数(羽/20ha)			種数(種)			平均個体数(羽/20ha)		
	H25	H30	R5	H25	H30	R5	H25	H30	R5	H25	H30	R5
伊香保a	26	26	29	105.0	74.0	88.0	23	26	18	130.5	76.0	83.5
金井b	36	33	33	147.3	174.8	114.0	27	22	23	177.5	123.0	140.0

調 査 地 の 概 況

市町村名	渋川市（旧渋川市）	地形図名	伊香保a	調 査 者	高橋 哲郎
調査範囲	4 k m（調査距離）×50 m（幅）=20ha			調査地の標高	265 ～ 480 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

○	広葉樹林（自然林・雑木林）	榛名山麓の豊秋団地から榛名広域農道までのコースで、スギの植林地と農地がある。水場となる沢は冬も枯れない。夏に工事をして治山工事の堰堤が完成し、越冬期の調査時には堆砂敷に100㎡程の池が誕生していた。 今回の調査では、育雛中のツバメと、巣と思しき場所から雛の音が聞こえたスズメの繁殖が確認された。
—	針葉樹林（自然林）	
◎	植林地（人工林）	
—	草地・草原・ヨシ原	
○	農耕地（田・畑・果樹園）	
○	里山・疎らな民家	
—	市街地・工業団地	
—	河川湖沼・河川敷	

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じである。治山工事期間は5/8～11/30とあった。繁殖期4回目の調査時にアナグマを、越冬期にシカ1頭を観察した。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

伊香保a

調査者

高橋 哲郎

調 査 年 月 日			R5. 5. 23	R5. 5. 23	R5. 6. 20	R5. 6. 20	R5. 12. 26	R5. 12. 26	繁殖期								越冬期	
調 査 時 間			4 : 45 6 : 30 (105分)	6 : 40 8 : 45 (125分)	4 : 30 6 : 30 (120分)	6 : 45 8 : 40 (115分)	6 : 30 8 : 20 (110分)	8 : 40 10 : 25 (105分)	合 計	平 均	密度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均	
天 候			雨	雨	曇	曇	晴	晴	Σ①～④	⑦／ 4	1h当り	1ha当り				Σ⑤～⑥	⑧／ 2	
種 類 / 結 果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	⑦							⑧		
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦									
5	キジ					1			1	0.25	0.13	0.01	0.3	1.6				
	キジバト			3	7	7	2	1	1	19	4.75	2.45	0.24	5.4	31.1	B	2	1.00
	アオバト					1	1			2	0.50	0.26	0.03	0.6	3.3			
	ホトトギス					1	1			2	0.50	0.26	0.03	0.6	3.3			
	ツツドリ					1				1	0.25	0.13	0.01	0.3	1.6			
10	ノスリ					2	2			4	1.00	0.52	0.05	1.1	6.6			
	コゲラ			1				1		1	0.25	0.13	0.01	0.3	1.6		1	0.50
	アカゲラ					1	2	1	1	3	0.75	0.39	0.04	0.9	4.9		2	1.00
	カケス				1					1	0.25	0.13	0.01	0.3	1.6			
	ハシボソガラス					4	3			7	1.75	0.90	0.09	2.0	11.5			
15	ハシブトガラス					1		3	4	1	0.25	0.13	0.01	0.3	1.6		7	3.50
	コガラ					2				2	0.50	0.26	0.03	0.6	3.3			
	ヤマガラ				2	1	2	1	4	5	1.25	0.65	0.06	1.4	8.2	B	5	2.50
	シジュウカラ			3	5	11	15	21	19	34	8.50	4.39	0.43	9.7	55.7	B	40	20.00
	ツバメ			3	9	11	14			37	9.25	4.77	0.46	10.5	60.7	A		
20	ヒヨドリ			11	10	17	23	9	7	61	15.25	7.87	0.76	17.3	100.0	B	16	8.00
	ウグイス			8	7	6	4	3	6	25	6.25	3.23	0.31	7.1	41.0	B	9	4.50
	エナガ							2	4								6	3.00
	メジロ			5	4	9	7	15	15	25	6.25	3.23	0.31	7.1	41.0	B	30	15.00
	ムクドリ				2					2	0.50	0.26	0.03	0.6	3.3			
25	クロツグミ					1	2			3	0.75	0.39	0.04	0.9	4.9			
	シロハラ							1									1	0.50
	ツグミ							4									4	2.00
	キビタキ			3	2	2	1			8	2.00	1.03	0.10	2.3	13.1	B		
	オオルリ					1				1	0.25	0.13	0.01	0.3	1.6			
30	スズメ			7	6	6	14	5	3	33	8.25	4.26	0.41	9.4	54.1	A	8	4.00
	キセキレイ			1						1	0.25	0.13	0.01	0.3	1.6			
	セグロセキレイ						1		1	1	0.25	0.13	0.01	0.3	1.6		1	0.50
	カワラヒワ			2	4	15	15	7	10	36	9.00	4.65	0.45	10.2	59.0	B	17	8.50
	シメ							1									1	0.50
35	ホオジロ			3	6	8	8	6	8	25	6.25	3.23	0.31	7.1	41.0	B	14	7.00
	コジュケイ			1						1	0.25	0.13	0.01	0.3	1.6			
	ガビチョウ			1	1	5	3	3		10	2.50	1.29	0.13	2.8	16.4	B	3	1.50
40																		
45																		
50																		
計	範 囲 内	個体数	52	66	114	120	84	83	352	88.00	45.42	4.40				167	83.50	
		種 数	14	14	23	19	17	13	29							18		
		全 種 数	14	14	23	19	17	13	29							18		

調 査 地 の 概 況

市町村名	渋川市（旧渋川市）	地形図名	金井b	調 査 者	飯塚 博文
調査範囲	4 k m（調査距離）× 50 m（幅）= 20 ha			調査地の標高	250 ～ 450 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

☐	広葉樹林（自然林・雑木林）	調査コースは金井上ノ町（旧金井町）の金蔵寺を起点とし、県道沿いに金井中ノ町の住宅地を経て、スカイランドパーク遊園地の北までのコースである。コース中程までは住宅地の間に耕地もあるが、後半は殆どスギやヒノキの植林地と、ナラなどの広葉樹林で、周辺は近年手入れがされず荒れていて林内はうす暗い。コース沿いの登沢川は水が殆どないが、伏流水が地表に現れるわずかな部分は貴重な水場となっている。登沢川の河川敷はススキや低木が茂り、鳥類の餌となる食餌植物や昆虫類も多い。 今回の調査では、営巣・育雛中のシジュウカラとツバメ、スズメ、ホオジロ、巣立ち雛を観察したモズとハシボソガラス、ムクドリ、キセキレイ、カワラヒワの繁殖が確認された。
—	針葉樹林（自然林）	
◎	植林地（人工林）	
—	草地・草原・ヨシ原	
☐	農耕地（田・畑・果樹園）	
☐	里山・疎らな民家	
—	市街地・工業団地	
☐	河川湖沼・河川敷	

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じである。繁殖期2日目には木々の葉が茂り、山林の荒廃もあり見通しが悪かった。越冬期1回目は逆光で観察しづらかった。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

金井b

調査者

飯塚 博文

調 査 年 月 日			R5. 5. 21	R5. 5. 21	R5. 6. 4	R5. 6. 4	R5. 12. 1	R5. 12. 1	繁殖期								越冬期	
調 査 時 間			5 : 25 ㄱ	7 : 30 ㄱ	5 : 10 ㄱ	7 : 30 ㄱ	8 : 00 ㄱ	10 : 15 ㄱ	合 計	平 均 (114分)	密度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計 Σ⑤~⑥	平 均 (113分) ⑧ / 2	
			7 : 15 (110分)	9 : 15 (105分)	7 : 10 (120分)	9 : 30 (120分)	10 : 00 (120分)	12 : 00 (105分)			1h当り	1ha当り						⑧
天 候			曇	晴	晴	晴	晴	晴	Σ①~④	⑦ / 4								
種 類 / 結 果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数										
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦									
5	キジ			1	○	2	1	1	4	1. 00	0. 53	0. 05	0. 9	3. 5		2	1. 00	
	キジバト			5	7	3	2	1	17	4. 25	2. 24	0. 21	3. 7	14. 9	B	1	0. 50	
	アオバト			○	○	○			○						B			
	カワウ			○					○									
	ホトトギス					1	○		1	0. 25	0. 13	0. 01	0. 2	0. 9				
10	トビ			○		3	○	○	3	0. 75	0. 40	0. 04	0. 7	2. 6		○		
	オオタカ						○		○									
	ノスリ				○		○		○									
	コゲラ			1		1		1	2	0. 50	0. 26	0. 03	0. 4	1. 8		2	1. 00	
	アオゲラ			1			2		3	0. 75	0. 40	0. 04	0. 7	2. 6				
15	サンコウチョウ				1				1	0. 25	0. 13	0. 01	0. 2	0. 9				
	モズ			3	4		6		13	3. 25	1. 71	0. 16	2. 9	11. 4	A			
	カケス							5	2							7	3. 50	
	ハシボソガラス			2	1	4	5		○	12	3. 00	1. 58	0. 15	2. 6	10. 5	A	○	
	ハシブトガラス			○				3	○	○						3	1. 50	
20	ヤマガラ			2	5		2	5	1	9	2. 25	1. 19	0. 11	2. 0	7. 9	B	6	3. 00
	ヒガラ								2							2	1. 00	
	シジュウカラ			6	3	5	4	15	16	18	4. 50	2. 37	0. 23	3. 9	15. 8	A	31	15. 50
	ツバメ			19	12	13	11			55	13. 75	7. 25	0. 69	12. 1	48. 2	A		
	ヒヨドリ			30	18	37	29	42	24	114	28. 50	15. 03	1. 43	25. 0	100. 0	B	66	33. 00
25	ウグイス			6	3	8	7			24	6. 00	3. 16	0. 30	5. 3	21. 1	B		
	メジロ			1	3	2	4	5		10	2. 50	1. 32	0. 13	2. 2	8. 8	B	5	2. 50
	ゴジュウカラ					○				○								
	ムクドリ			7	3	3	8	13		21	5. 25	2. 77	0. 26	4. 6	18. 4	A	13	6. 50
	クロツグミ			1	1	1	2			5	1. 25	0. 66	0. 06	1. 1	4. 4	B		
30	ルリビタキ							2	2							4	2. 00	
	ジョウビタキ							2	1							3	1. 50	
	キビタキ			5	2	5	5			17	4. 25	2. 24	0. 21	3. 7	14. 9	B		
	スズメ			28	14	15	9	9		66	16. 50	8. 70	0. 83	14. 5	57. 9	A	9	4. 50
	キセキレイ			1			1			2	0. 50	0. 26	0. 03	0. 4	1. 8	A		
35	ハクセキレイ			2	1		1	1	2	4	1. 00	0. 53	0. 05	0. 9	3. 5		3	1. 50
	カワラヒワ			2	1	○	3		1	6	1. 50	0. 79	0. 08	1. 3	5. 3	A	1	0. 50
	シメ								1							1	0. 50	
	イカル			1		1				2	0. 50	0. 26	0. 03	0. 4	1. 8	B		
	ホオジロ			3	4	6	3	2	2	16	4. 00	2. 11	0. 20	3. 5	14. 0	A	4	2. 00
40	カシラダカ							84	16							100	50. 00	
	コジュケイ			1		1				2	0. 50	0. 26	0. 03	0. 4	1. 8			
	ガビチョウ			8	2	7	3	1	○	20	5. 00	2. 64	0. 25	4. 4	17. 5	B	1	0. 50
	カオジロガビチョウ			1	4	4		11	5	9	2. 25	1. 19	0. 11	2. 0	7. 9		16	8. 00
45																		
50																		
計	範 囲 内	個 体 数	137	89	122	108	203	77	456	114. 00	60. 13	5. 70				280	140. 00	
		種 数	24	19	20	20	18	15	27							21		
		全 種 数	28	22	23	24	18	19	33							23		

澁川市（旧子持村）鳥類生息密度調査結果

1. 調査地の環境

渋川市（旧子持村）に含まれる調査地は下表の1メッシュである。標高からは低山帯に属し、植林地や広葉樹、農耕地を含んでいる。コースの南半分は里山的環境であるが、北半分は河川に沿った林道であり、植林地が当地の主要な環境要素となっている。調査コースは前回と同じであり、環境にも大きな変化はみられなかった。

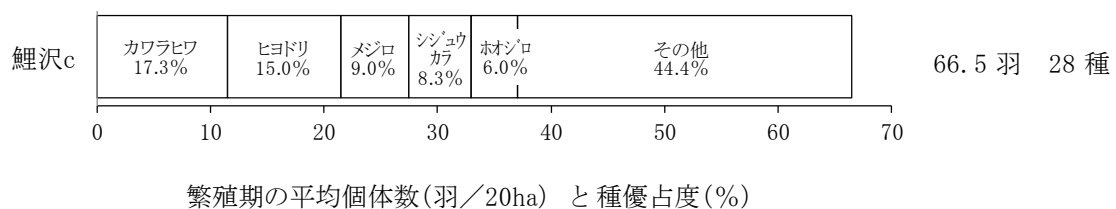
調査メッシュ	標高	環境要素								調査コース
		広葉樹林	針葉樹林	植林地	草地草原	農耕地	里山集落	市街地	河川湖沼	
鯉沢c	370 ～ 730	○	—	◎	—	○	○	—	○	前回と同じ

2. 調査結果と考察

今年度の調査では、繁殖期に28種、越冬期に20種、年間では35種が記録された。なお、前々回（平成25年度実施）は年間38種、前回（平成30年度実施）は年間39種が記録されている。

(1) 繁殖期

繁殖期の調査結果は下図のとおりである。調査地には植林地や広葉樹の雑木林が多く、里山集落的な環境要素もあることから、カワラヒワやヒヨドリ、メジロ、シジュウカラ、ホオジロといった森林や里山に多い種が優占した。今回の調査地域全体と比較すると、種数がやや少なかったものの、個体数は平均的な値であった。特筆すべき種として、群馬県版RDBに掲載されているアオバトと、環境省の特定外来生物に指定されているガビチョウが記録された。アオバトは塩水や鉱泉水などを飲む特異な生態が知られている種であるが、近年、県内の繁殖期の分布が拡大している。一方、ガビチョウは前々回の調査で初めて記録され、今回は個体数が増加した。本種は県内の分布が拡大しており、在来種への影響が懸念される。



(2) 越冬期

越冬期の優占種は次表のとおりである。今回の調査地域全体と比較して、個体数は平均的な値であったが、種数がやや少なかった。繁殖期と同様に、ヒヨドリとカラ類が優占したほか、冬鳥として渡来するアトリとマヒワが上位に入った。群馬県版RDB掲載種は越冬期には記録されなかったが、特定外来生物のガビチョウが越冬期にも記録された。

調査メッシュ	優占種（上位5種*）					平均個体数 (羽/20ha)	種数 (種)
	1位	2位	3位	4位	5位		
鯉沢c	アトリ	ヒヨドリ	ヒガラ	マヒワ	ヤマガラ	101.0	20

* 同率の場合は分類順に5種まで掲載

(3)過去の調査結果との比較

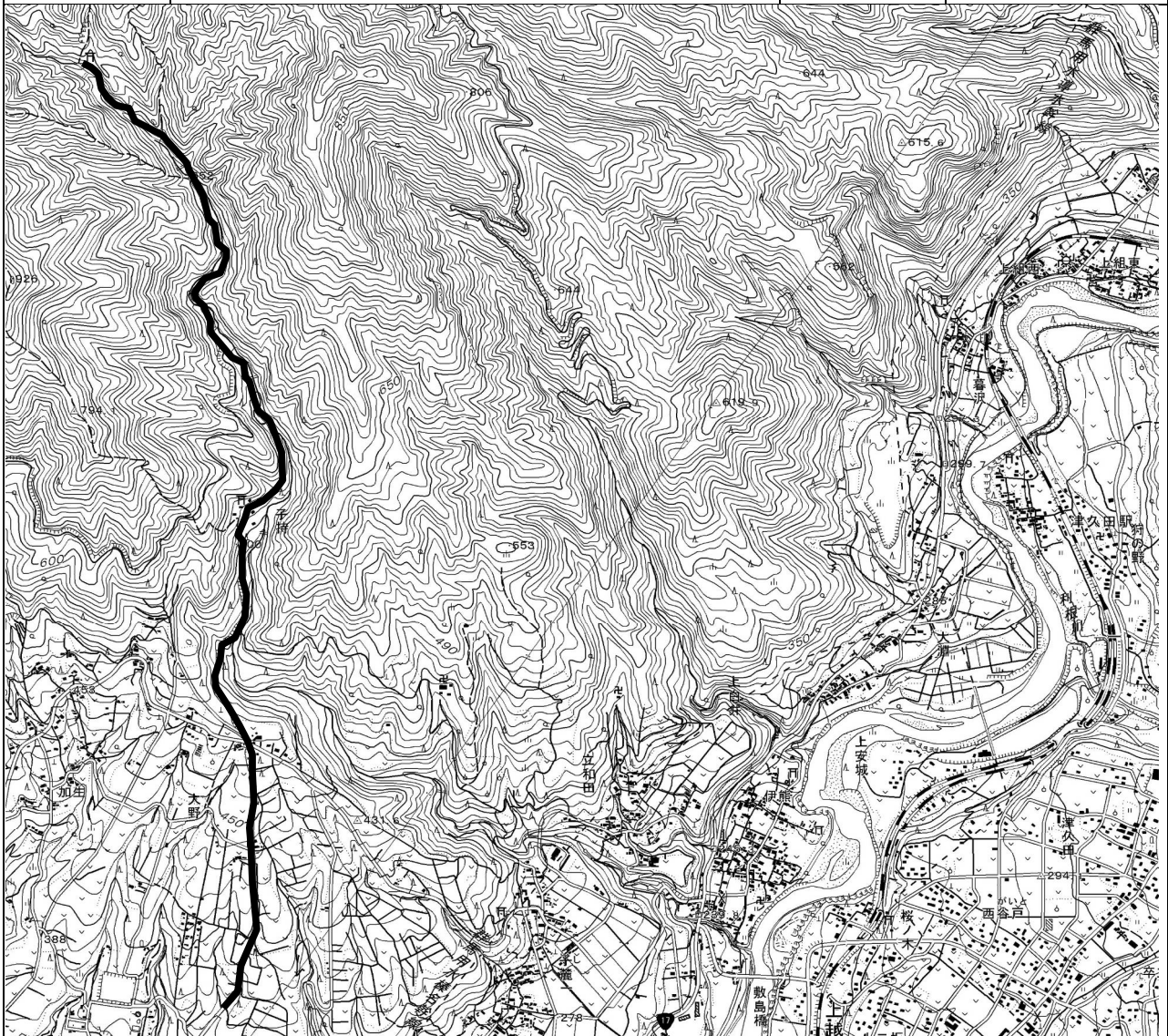
直近 3 回分の調査結果は下表のとおりである。繁殖期・越冬期とも、種数と個体数は多少の変動があるものの、著しい増加または減少傾向はみられなかった。前述のように、今回の調査地域全体と比較して、種数はやや少なかったものの、個体数は平均的な値であったことから、調査コース周辺の鳥類相に大きな変化はないものと考えられる。

過去 2 回の調査で記録が無く今回新たに記録された種は、トビ、オオムシクイ、マヒワ、シメ、コジュケイの 5 種であった。前述のように、前々回初めて記録されたガビチョウは個体数が増加傾向を示し、越冬期にも記録されたことから、当地での定着が示唆された。一方、過去 2 回とも記録があるのに今回記録されなかったのはホトトギス、センダイムシクイ、スズメ、アオジの 4 種であった。また、以前はほぼ毎回記録されながら、近年記録が途絶えている種としてオナガがあげられる。本種は県内では低地部を中心に分布しているが、近年分布を縮小し、当地のようなやや標高の高い山間部からは姿を消している。平成 15 年の第 9 次調査を最後に記録されなくなったが、当地に生息しなくなった原因は不明である。この他に、過去 3 回の調査において、個体数が著しく変化した種は、繁殖期・越冬期ともにみられなかった。

調査メッシュ	繁殖期						越冬期					
	種数(種)			平均個体数(羽/20ha)			種数(種)			平均個体数(羽/20ha)		
	H25	H30	R5	H25	H30	R5	H25	H30	R5	H25	H30	R5
鯉沢c	31	35	28	77.0	66.8	66.5	22	22	20	99.5	65.5	101.0

調 査 地 の 概 況

市町村名	渋川市（旧子持村）	地形図名	鯉沢c	調 査 者	飯塚 浩
調査範囲	4 k m（調査距離）× 50 m（幅）= 20 ha			調査地の標高	370 ～ 730 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース 

☐	広葉樹林（自然林・雑木林）	子持神社の参道とその脇の林道で、唐沢川沿いのコースである。コース南側には畑地や民家がある。南端近くの参道部分は桜並木と松並木だが、林道に入ると途中から林道に入ると、スギやヒノキの植林地と雑木林になっている。水場となる唐沢川は、冬季は伏流水水となり一部にしか水場がなくなる。冬季の林道部は水場以外に鳥は少ない。 今回の調査では、繁殖が確認された種はいなかった。
☐	針葉樹林（自然林）	
☒	植林地（人工林）	
☐	草地・草原・ヨシ原	
☐	農耕地（田・畑・果樹園）	
☐	里山・疎らな民家	
☐	市街地・工業団地	
☐	河川湖沼・河川敷	

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じである。繁殖期には川の水量が多く、水音がうるさくて鳥の声を聞き取りにくかった。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

鯉沢c

調査者

飯塚 浩

調 査 年 月 日	R5. 6. 4	R5. 6. 4	R5. 6. 17	R5. 6. 17	R5. 12. 23	R5. 12. 23	繁殖期							越冬期	
	5 : 10 5 7 : 05 (115分)	7 : 25 5 9 : 20 (115分)	5 : 10 5 7 : 15 (125分)	7 : 40 5 9 : 35 (115分)	7 : 15 5 9 : 30 (135分)	9 : 40 5 11 : 30 (110分)	合 計	平 均	密度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均
調 査 時 間							Σ①～④	⑦ / 4	1h当り	1ha当り				Σ⑤～⑥	⑧ / 2
天 候	曇	曇	曇	曇	晴	晴									
種 類 / 結 果	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦							⑧	
キジ	2	1	3	○			6	1.50	0.77	0.08	2.3	13.0	B		
キジバト	2	3	○		2	1	5	1.25	0.64	0.06	1.9	10.9		3	1.50
アオバト				○			○								
トビ						1								1	0.50
5 ノスリ		○					○								
コゲラ		1	1	2	1		4	1.00	0.51	0.05	1.5	8.7		1	0.50
アカゲラ	1						1	0.25	0.13	0.01	0.4	2.2			
カケス	3	3	4	1	1	4	11	2.75	1.40	0.14	4.1	23.9		5	2.50
ハシボソガラス			2	3			5	1.25	0.64	0.06	1.9	10.9			
10 ハシブトガラス				1			1	0.25	0.13	0.01	0.4	2.2			
コガラ					8									8	4.00
ヤマガラ	3	4	1	1	7	6	9	2.25	1.15	0.11	3.4	19.6		13	6.50
ヒガラ			1	2	8	13	3	0.75	0.38	0.04	1.1	6.5		21	10.50
シジュウカラ	7	3	6	6	1	8	22	5.50	2.81	0.28	8.3	47.8	B	9	4.50
15 ツバメ	1	1		2			4	1.00	0.51	0.05	1.5	8.7			
ヒヨドリ	5	9	10	16	16	14	40	10.00	5.11	0.50	15.0	87.0		30	15.00
ウグイス	○	3	2	2			7	1.75	0.89	0.09	2.6	15.2	B		
ヤブサメ	2	1	5	2			10	2.50	1.28	0.13	3.8	21.7	B		
エナガ				3	2	8	3	0.75	0.38	0.04	1.1	6.5		10	5.00
20 オオムシクイ			1				1	0.25	0.13	0.01	0.4	2.2			
メジロ		4	12	8	4		24	6.00	3.06	0.30	9.0	52.2	B	4	2.00
ミソサザイ	1	1	1	1		4	4	1.00	0.51	0.05	1.5	8.7	B	4	2.00
クロツグミ			1	2			3	0.75	0.38	0.04	1.1	6.5			
ツグミ					8									8	4.00
25 ジョウビタキ						1								1	0.50
キビタキ	2	3	1				6	1.50	0.77	0.08	2.3	13.0	B		
オオルリ	1	3	2	5			11	2.75	1.40	0.14	4.1	23.9	B		
アトリ					40	8								48	24.00
カワラヒワ	31	5	8	2		4	46	11.50	5.87	0.58	17.3	100.0		4	2.00
30 マヒワ					21									21	10.50
シメ					1									1	0.50
イカル			3	5			8	2.00	1.02	0.10	3.0	17.4			
ホオジロ	2	4	3	7	3	5	16	4.00	2.04	0.20	6.0	34.8	B	8	4.00
コジュケイ		○					○								
35 ガビチョウ	4	7	3	2	1	1	16	4.00	2.04	0.20	6.0	34.8		2	1.00
40															
45															
50															
計	範囲内	個体数	67	56	70	73	124	78	266	66.50	33.96	3.33		202	101.00
		種 数	15	17	20	20	16	14	25					20	
		全 種 数	16	19	21	22	16	14	28					20	

渋川市（旧小野上村）鳥類生息密度調査結果

1. 調査地の環境

渋川市（旧小野上村）に含まれる調査地は下表の 1 メッシュである。標高からは低山帯に属する。沢沿いの林道を中心に、植林地や雑木林、集落と農耕地を含んだ里山的環境要素も含んでいる。調査コースは前回と同じであり、環境にも大きな変化はみられなかった。

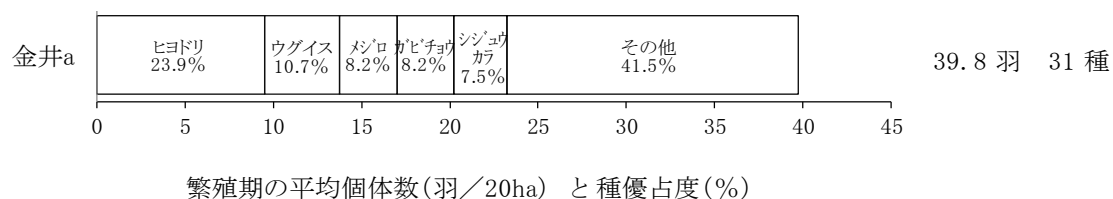
調査 メッシュ	標高	環境要素								調査コース
		広葉樹林	針葉樹林	植林地	草地草原	農耕地	里山集落	市街地	河川湖沼	
金井a	300 ～ 450	○	—	◎	—	○	○	—	○	前回と同じ

2. 調査結果と考察

今年度の調査では、繁殖期に 31 種、越冬期に 25 種、年間では 42 種が記録された。なお、前々回（平成 25 年度実施）は年間 34 種、前回（平成 30 年度実施）は年間 37 種が記録されている。

(1) 繁殖期

繁殖期の調査結果は下図のとおりである。今回の調査地域全体の平均と比較すると、種数は平均的であったが、個体数が少なかった。個体数が少なかった原因は不明である。植林地や雑木林を中心とした沢沿いの林道と里山集落が主な環境要素であるため、ヒヨドリやシジュウカラといった森林性の種と、ウグイスやメジロといった人里に生息する種が優占した。今回の調査では、群馬県版 RDB に掲載されている種はアオバト、ジュウイチ、サンコウチョウの 3 種が記録された。このうちジュウイチは県内での個体数が減少している種であるが、アオバトは近年分布を拡大し、サンコウチョウは個体数が回復傾向にある種である。一方、環境省の特定外来生物に指定されているガビチョウが記録された。本種は当地では前々回の調査で初めて記録され、その後は継続して記録されている。個体数もやや増加傾向にあり、在来種への影響が懸念される。それぞれ、今後の動向に注目したい。



(2) 越冬期

越冬期の優占種は次表のとおりである。今回の調査地域全体の平均と比較すると、種数は平均的であったが、個体数はやや少なかった。繁殖期と同様にヒヨドリやシジュウカラが優占したほか、冬季に高標高地から降りてくるルリビタキが上位に入った。RDB 掲載種は準絶滅危惧種のカシラダカとクロジが記録された。特定外来生物は、ガビチョウのほかカオジロガビチョウも記録された。

調査メッシュ	優占種（上位 5 種*）					平均個体数 (羽/20ha)	種数 (種)
	1位	2位	3位	4位	5位		
金井a	ヒヨドリ	シジュウカラ	カワラヒワ	ルリビタキ	メジロ	44.0	25

* 同率の場合は分類順に5種まで掲載

(3)過去の調査結果との比較

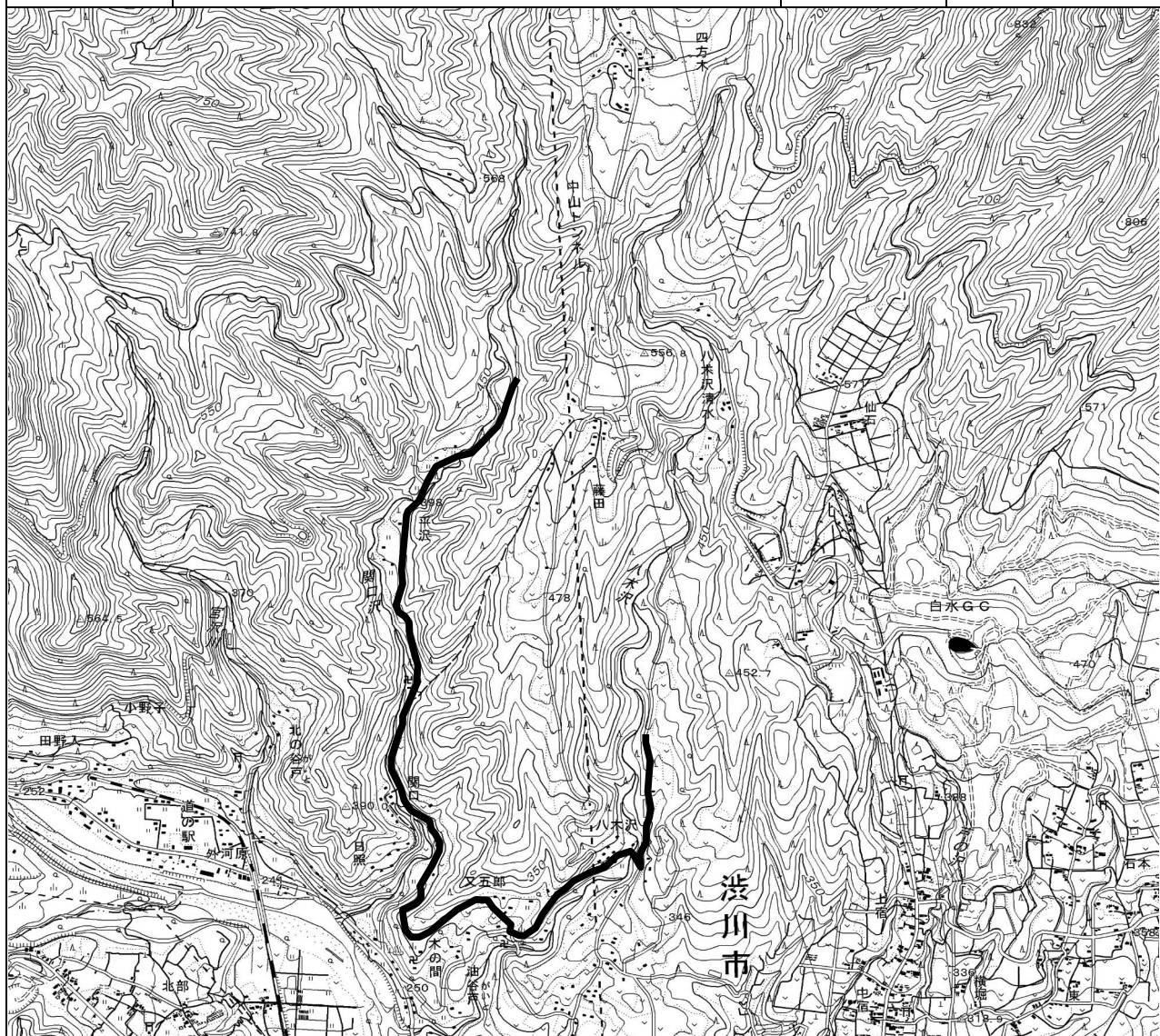
直近 3 回分の調査結果は下表のとおりである。繁殖期と越冬期、種数と個体数ともに増減があるが、大きな変化はないと思われる。

過去 2 回の調査で記録が無く今回新たに記録された種は、アオバト、ジュウイチ、アカゲラ、ヤブサメ、オオムシクイ、クロツグミ、ルリビタキ、カヤクグリ、アトリ、ベニマシコ、シメ、イカル、クロジの 13 種であった。一方、過去 2 回とも記録があるのに今回記録されなかったのはカルガモ、コガモ、ノスリ、モズ、スズメ、セグロセキレイ、アオジの 7 種であった。在来種のクロツグミとヤブサメが前々回と前回の調査で記録されず、特定外来生物のガビチョウとカオジロガビチョウが前々回から記録されるようになったことから、外来種による在来種への影響があったのではないかと考えられた。しかし、今回の調査でクロツグミとヤブサメが再び記録されたことから、外来種がどの程度在来種に影響を及ぼすのかについては、今後も注視していく必要がある。

調査メッシュ	繁殖期						越冬期					
	種数(種)			平均個体数(羽/20ha)			種数(種)			平均個体数(羽/20ha)		
	H25	H30	R5	H25	H30	R5	H25	H30	R5	H25	H30	R5
金井a	25	22	31	36.8	25.5	39.8	21	26	25	52.0	47.0	44.0

調 査 地 の 概 況

市町村名	渋川市（旧小野上村）	地形図名	金井a	調 査 者	瀧川 二士男
調査範囲	4 k m（調査距離）×50m（幅）=20ha			調査地の標高	300 ～ 450 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

○ 広葉樹林（自然林・雑木林）

— 針葉樹林（自然林）

◎ 植林地（人工林）

— 草地・草原・ヨシ原

○ 農耕地（田・畑・果樹園）

○ 里山・疎らな民家

— 市街地・工業団地

○ 河川湖沼・河川敷

調査コースは主にスギやヒノキの植林地を通るため、薄暗い場所が多い。集落がいくつかあるが、又五郎地区以外は人家は疎らで、八木沢と平沢上部に貯水池がある。水田や田んぼが人家近くにあるが、耕作放棄地も多く、太陽光発電のソーラーパネルが5カ所あった。水場となる河川と貯水池がある。

今回の調査で繁殖が確認された種はなかった。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じである。繁殖期2回目にアナグマ1頭を平沢で、繁殖期4回目にツキノワグマ1頭を関口不動尊近くで観察した。越冬期には、小野子浄水場の関口沢貯水池はほとんど水がなかった。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

金井a

調査者

瀧川 二士男

調 査 年 月 日		R5. 5. 28	R5. 5. 28	R5. 6. 15	R5. 6. 15	R5. 12. 7	R5. 12. 7	繁殖期							越冬期	
調 査 時 間		4 : 50 〃 6 : 30 (100分)	6 : 40 〃 8 : 10 (90分)	5 : 00 〃 6 : 45 (105分)	6 : 55 〃 8 : 30 (95分)	8 : 30 〃 10 : 05 (95分)	10 : 15 〃 11 : 45 (90分)	合 計	平 均	密度		種 優 占 度	相 対 出 現 頻 度	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均
天 候		曇	曇	曇	曇	晴	晴	Σ①~④	⑦ / 4	1h当り	1ha当り	(%)	(%)		Σ⑤~⑥	⑧ / 2
種 類 / 結 果		羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数									
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦							⑧	
5	ヤマドリ		○					○								
	キジ	○	○	○				○						B		
	キジバト	2	1	2	○	1	1	5	1.25	0.77	0.06	3.1	13.2		2	1.00
	アオバト		○					○								
	ジュウイチ			○				○								
10	ホトトギス		○	○	○			○						B		
	トビ	○	○				1	○							1	0.50
	コゲラ	1		1	3		○	5	1.25	0.77	0.06	3.1	13.2		○	
	アカゲラ		1					1	0.25	0.15	0.01	0.6	2.6			
	アオゲラ	1	○					1	0.25	0.15	0.01	0.6	2.6			
15	サンコウチョウ				○			○								
	カケス		1			1		1	0.25	0.15	0.01	0.6	2.6		1	0.50
	ハシブトガラス		○	○	○	○	2	○							2	1.00
	ヤマガラ	4	2		2	1	1	8	2.00	1.23	0.10	5.0	21.1	B	2	1.00
	ヒガラ			○			1	○							1	0.50
20	シジュウカラ	3	5	3	1	4	9	12	3.00	1.85	0.15	7.5	31.6	B	13	6.50
	ツバメ	3	3	1	2			9	2.25	1.38	0.11	5.7	23.7			
	ヒヨドリ	8	10	8	12	7	10	38	9.50	5.85	0.48	23.9	100.0		17	8.50
	ウグイス	5	5	2	5	2	1	17	4.25	2.62	0.21	10.7	44.7	B	3	1.50
	ヤブサメ	○	2	○	1			3	0.75	0.46	0.04	1.9	7.9	B		
25	エナガ	1					5	1	0.25	0.15	0.01	0.6	2.6		5	2.50
	オオムシクイ		○													
	メジロ	1	3	2	7	2	4	13	3.25	2.00	0.16	8.2	34.2	B	6	3.00
	ミソサザイ					3	1								4	2.00
	クロツグミ	○	○	2	○			2	0.50	0.31	0.03	1.3	5.3	B		
30	ルリビタキ					4	3								7	3.50
	ジョウビタキ					3	○								3	1.50
	キビタキ	1	3	1	1			6	1.50	0.92	0.08	3.8	15.8	B		
	オオルリ	1	1					2	0.50	0.31	0.03	1.3	5.3			
	カヤクグリ					○	○								○	
35	キセキレイ	2		2				4	1.00	0.62	0.05	2.5	10.5			
	アトリ					○									○	
	カワラヒワ	3	2	3	○	○	11	8	2.00	1.23	0.10	5.0	21.1		11	5.50
	ベニマシコ					○	○								○	
	シメ					1	○								1	0.50
40	イカル		1					1	0.25	0.15	0.01	0.6	2.6			
	ホオジロ	1	2	3	3	2		9	2.25	1.38	0.11	5.7	23.7	B	2	1.00
	カシラダカ						4								4	2.00
	クロジ					3									3	1.50
	コジュケイ	○			○			○						B		
45	ガビチョウ	4	3	3	3	○	○	13	3.25	2.00	0.16	8.2	34.2	B	○	
	カオジロガビチョウ					○									○	
50																
計	範囲内	41	45	33	40	34	54	159	39.75	24.46	1.99				88	44.00
	個体数	16	16	13	11	13	14	21							19	
	種 数	21	24	19	18	20	20	31							25	

渋川市（旧伊香保町）鳥類生息密度調査結果

1. 調査地の環境

渋川市（旧伊香保町）に含まれる調査地は下表の 1 メッシュである。標高からは山地帯に属する。榛名山の二ッ岳をほぼ周回するコースで、伊香保森林公園内の広葉樹林を中心に、一部に針葉樹林や植林地といった環境要素も含んでいる。前回、二ッ岳南面の登山道が一部廃道となり通行できなかったため、別ルートを迂回して実施したが、今回も前回と同様のコースで実施した。

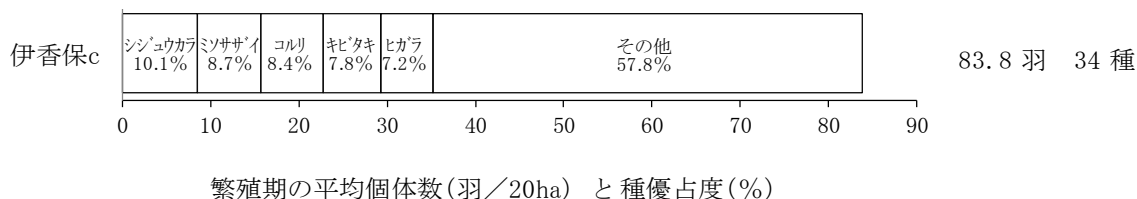
調査 メッシュ	標高	環境要素								調査コース
		広 葉 樹 林	針 葉 樹 林	植 林 地	草 地 草 原	農 耕 地	里 山 集 落	市 街 地	河 川 湖 沼	
伊香保c	992 ～ 1152	◎	○	○	—	—	—	—	—	前回と同じ

2. 調査結果と考察

今年度の調査では、繁殖期に 34 種、越冬期に 14 種、年間では 38 種が記録された。なお、前々回（平成 25 年度実施）は年間 36 種、前回（平成 30 年度実施）は年間 34 種が記録されている。

(1) 繁殖期

繁殖期の調査結果は下図のとおりである。今回の調査地域全体と比較すると、種数・個体数ともに平均的な値であった。広葉樹を中心とした森林が環境要素の中であるため、シジュウカラなどのカラ類やコルリ、キビタキといった森林性の種が優占した。特筆すべき種として、群馬県版 RDB に掲載されているアオバトとジュウイチ、ツツドリ、アカハラ、コマドリの 5 種が記録された。一方、環境省の特定外来生物に指定されているガビチョウも記録された。本種は、旧伊香保町では平成 20 年の調査で初めて記録されたものの、その後は記録されていなかった。個体数は多くはないが、藪を好み、地上近くで採食することが多いため、生息環境が似ているアカハラやコマドリなど、貴重な在来種への影響が危惧される。今後の動向に注目したい。



(2) 越冬期

越冬期の優占種は次表のとおりである。今回の調査地域全体と比較すると、個体数は平均的だが種数がやや少なかった。当調査地は標高が高いため、越冬期に生息できる種が限られるためと考えられる。エナガやヤマガラ、シジュウカラのように当調査地に周年生息する森林性のカラ類のほか、冬鳥として渡来するツグミとアトリが優占した。RDB 掲載種や特定外来生物は、越冬期には記録されなかった。

調査メッシュ	優占種（上位5種*）					平均個体数 (羽/20ha)	種数 (種)
	1位	2位	3位	4位	5位		
伊香保c	エナガ	ツグミ	アトリ	ヤマガラ	シジュウカラ	79.0	14

*同率の場合は分類順に5種まで掲載

(3)過去の調査結果との比較

直近3回分の調査結果は下表のとおりである。なお、登山道の廃道により前回から調査コースの一部が変更され、標高の高い部分がカットされたが、環境的には大きな影響はないと考えられるため、比較に当たり、特に補正はおこなわなかった。過去3回の調査結果を比較しても、繁殖期・越冬期、種数・個体数ともに、旧コースの前々回（H25）と、新コースの前回（H30）と今回で、大きな違いはみられなかった。調査コース周辺の鳥類相に大きな変化はないものと考えられる。

過去2回の調査で記録が無く今回新たに記録された種は、キクイタダキ、アカハラ、コマドリ、シメ、コジュケイ、ガビチョウの6種であった。このうちアカハラとコマドリは、平成20年の調査以降記録が途切れていた種である。RDB掲載種の記録が復活したことはよい傾向のように思われるが、一方で外来種のガビチョウも再び記録されるようになっており、これらの種の今後の動向に注目する必要がある。過去2回とも記録があるのに今回記録されなかったのは、ハシブトガラスとウソの2種であった。当地は標高が高く、人里から離れているため元々ハシブトガラスの個体数は多くはない。また、冬季にさらに標高が高い地域から降りてくるウソは、小群で移動することが多いため、本調査のような方法では補足されない場合もある。したがって、今回記録されなかったことが、両種の減少を示すものではないと考えられる。

調査メッシュ	繁殖期						越冬期					
	種数(種)			平均個体数(羽/20ha)			種数(種)			平均個体数(羽/20ha)		
	H25	H30	R5	H25	H30	R5	H25	H30	R5	H25	H30	R5
伊香保c	31	29	34	77.0	69.8	83.8	16	15	14	98.0	52.5	79.0

調 査 地 の 概 況

市町村名	渋川市（旧伊香保町）	地形図名	伊香保c	調 査 者	田口 雅之
調査範囲	4 k m（調査距離）× 50 m（幅）＝ 20 ha			調査地の標高	992 ～ 1152 m

調査地の環境（調査コースの植生、地形など）		調査コース
◎	広葉樹林（自然林・雑木林）	榛名山の寄生火山であるニッ岳をほぼ一周するコースである。アカマツやミズナラ、リョウブ、カエデ類やツツジ類と、植林されたスギとヒノキが混交林を形成している。樹木と下草が程よく茂り、豊かな自然環境となっている。コース内には水場もあり、食餌植物も豊富である。 今回の調査では、巣に出入りするアカゲラと巣立ち雛が観察されたコガラの繁殖が確認された。 ← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。
○	針葉樹林（自然林）	
○	植林地（人工林）	
—	草地・草原・ヨシ原	
—	農耕地（田・畑・果樹園）	
—	里山・疎らな民家	
—	市街地・工業団地	
—	河川湖沼・河川敷	

<備考>

調査コースはオンマ谷を通るルートに変更した前回と同じである。繁殖期調査の初日はイベントがあったようで、早朝から車の音が響いていた。繁殖期は両日とも7時前からハルゼミが鳴き始めた。越冬期の調査の際、森林公園管理棟の広場でヤマガラを餌付けている人達がいた。カモシカを1頭観察した。

地形図名	伊香保c	調査者	田口 雅之
------	------	-----	-------

-29-

榛東村鳥類生息密度調査結果

1. 調査地の環境

榛東村に含まれる調査地は下表の 1 メッシュである。標高からは低山帯に属し、榛名山の東面で、自衛隊の相馬原演習場に隣接する。集落や農耕地、雑木林、植林地などが混在する里山的環境で、鳥類の生息には適した環境である。調査コースは前回と同じであり、環境にも大きな変化はみられなかった。

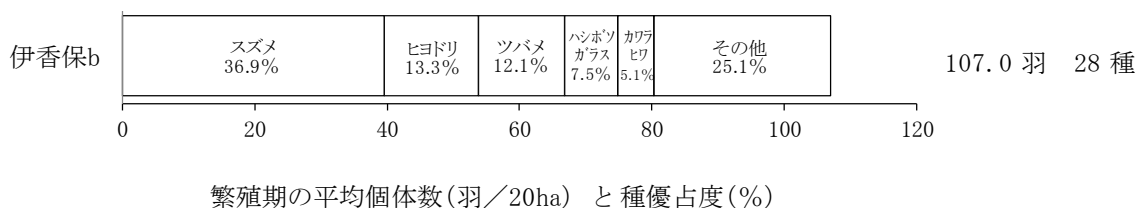
調査 メッシュ	標高	環境要素								調査コース
		広葉樹林	針葉樹林	植林地	草地草原	農耕地	里山集落	市街地	河川湖沼	
伊香保b	300 ～ 530	○	○	○	—	○	◎	—	○	前回と同じ

2. 調査結果と考察

今年度の調査では、繁殖期に 28 種、越冬期に 21 種、年間では 33 種が記録された。なお、前々回（平成 25 年度実施）は年間 46 種、前回（平成 30 年度実施）は年間 39 種が記録されている。

(1) 繁殖期

繁殖期の調査結果は下図のとおりである。今回の調査地域全体と比較すると、種数はやや少なかったが、個体数は平均的な値であった。里山集落が環境要素の中心であるため、スズメやヒヨドリ、ツバメ、ハシボソガラスといった人里に生息する種が多くを占めた。特筆すべき種として、群馬県版 RDB に掲載されているオナガと、環境省の特定外来生物に指定されているガビチョウ、カオジログビチョウが記録された。このうち、準絶滅危惧のオナガは、県内では個体数が減少し分布域が縮小しているため、貴重な記録である。一方、ガビチョウは渋川市では前々回の調査から、カオジログビチョウは前回の調査から記録されるようになった。まだ個体数は多くはないが、両種とも県内で分布を拡大しており、今後は在来種への影響が危惧される。



(2) 越冬期

越冬期の優占種は次表のとおりである。今回の調査地域全体と比較すると、種数・個体数ともに平均的な値であった。繁殖期同様、スズメとヒヨドリが優占したほか、コース沿いの貯水池をカモ類が利用していたため、ハシビロガモ、キンクロハジロ、ホシハジロが優占種に入った。群馬県版 RDB 掲載種ではコガモが、特定外来生物ではガビチョウが冬季にも記録された。

調査メッシュ	優占種（上位 5 種*）					平均個体数 (羽/20ha)	種数 (種)
	1位	2位	3位	4位	5位		
伊香保b	スズメ	ハシビロガモ	キンクロハジロ	ヒヨドリ	ホシハジロ	160.5	21

* 同率の場合は分類順に5種まで掲載

(3)過去の調査結果との比較

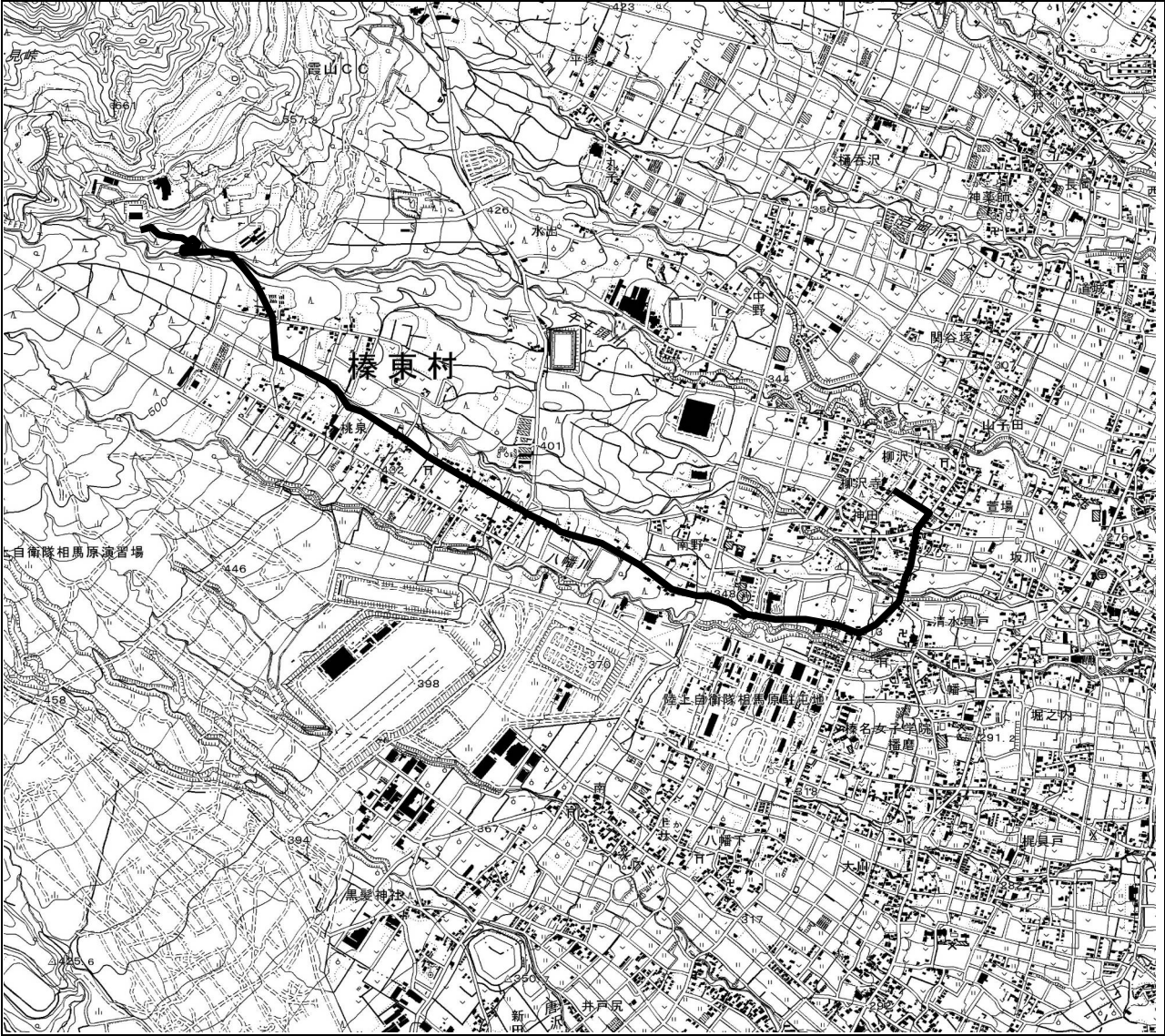
直近 3 回分の調査結果は下表のとおりである。繁殖期・越冬期の種数・個体数ともに変動があるが著しい増加傾向や減少傾向はみられなかった。前述のように、今回の調査地域全体との比較でも、繁殖期の種数がやや少なかったものの、その他は平均的な値であり、調査コース周辺の鳥類相に大きな変化はないものと考えられる。

過去 2 回の調査で記録が無く今回新たに記録された種は、キセキレイの 1 種であった。一方、過去 2 回とも記録があるのに今回記録されなかったのは、カルガモ、カワウ、サンコウチョウ、カケスの 4 種であった。また、前々回記録が途絶えたクロツグミとオオルリは今回も記録されなかった。このうち、クロツグミはガビチョウ類と生態的地位（ニッチ）が重複し、競合する可能性が考えられる種である。クロツグミの記録が途絶えたことに、ガビチョウ類の増加がどの程度影響しているのかは不明である。これらの種の今後の動向に注目したい。

調査メッシュ	繁殖期						越冬期					
	種数(種)			平均個体数(羽/20ha)			種数(種)			平均個体数(羽/20ha)		
	H25	H30	R5	H25	H30	R5	H25	H30	R5	H25	H30	R5
伊香保b	36	29	28	125.3	120.0	107.0	32	20	21	154.5	102.0	160.5

調 査 地 の 概 況

市町村名	榛東村	地形図名	伊香保b	調 査 者	小林 廣喜
調査範囲	4 k m（調査距離）×50 m（幅）=20ha			調査地の標高	300 ～ 530 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース 

☐ 広葉樹林（自然林・雑木林）	調査コースは全て舗装道で、コース沿いには民家が多く、農耕地が隣接している。里山的環境であり、野鳥にとっての生息条件はよい。水場は豊富とは言えないが、コース沿いには八幡川と上野貯水池がある。 今回の調査では、営巣中のカイツブリとツバメ、スズメが観察され、繁殖が確認された。 ← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。
☐ 針葉樹林（自然林）	
☐ 植林地（人工林）	
☐ 草地・草原・ヨシ原	
☐ 農耕地（田・畑・果樹園）	
☒ 里山・疎らな民家	
☐ 市街地・工業団地	
☐ 河川湖沼・河川敷	

<備考>

調査コースは前回と同じである。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

伊香保b

調査者

小林 廣喜

調 査 年 月 日	R5. 5. 25	R5. 5. 25	R5. 6. 15	R5. 6. 15	R5. 12. 9	R5. 12. 9	繁殖期							越冬期	
	6:00 7:50 (110分)	8:00 9:50 (110分)	5:30 7:15 (105分)	7:30 9:20 (110分)	7:00 8:55 (115分)	9:05 10:55 (110分)	合計	平均	密度		種優占度	相対出現頻度	繁殖可能性ランク	合計	平均
種類 / 結果	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	Σ①~④	⑦ / 4	1h当り	1ha当り	(%)	(%)		Σ⑤~⑥	⑧ / 2
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦							⑧	
キジ	1	○	○	1			2	0.50	0.28	0.03	0.5	1.3			
ハシビロガモ					15	15								30	15.00
コガモ					2	2								4	2.00
ホシハジロ					8	8								16	8.00
5 キンクロハジロ	4	6			12	15	10	2.50	1.38	0.13	2.3	6.3		27	13.50
カイツブリ			1	1			2	0.50	0.28	0.03	0.5	1.3	A		
キジバト	1	1	10	5			17	4.25	2.34	0.21	4.0	10.8			
ホトトギス			○	○			○								
ノスリ					○	○								○	
10 コゲラ	2		2			1	4	1.00	0.55	0.05	0.9	2.5		1	0.50
アカゲラ	1				1		1	0.25	0.14	0.01	0.2	0.6		1	0.50
モズ			3	○	1	1	3	0.75	0.41	0.04	0.7	1.9		2	1.00
オナガ			3				3	0.75	0.41	0.04	0.7	1.9			
ハシボソガラス	5	9	8	10			32	8.00	4.41	0.40	7.5	20.3			
15 ハシブトガラス	1	3	2	1	○	2	7	1.75	0.97	0.09	1.6	4.4		2	1.00
ヤマガラ	2	2			9	2	4	1.00	0.55	0.05	0.9	2.5		11	5.50
シジュウカラ	5	3	5	1	6	2	14	3.50	1.93	0.18	3.3	8.9	B	8	4.00
ツバメ	9	8	21	14			52	13.00	7.17	0.65	12.1	32.9	A		
ヒヨドリ	18	15	10	14	12	5	57	14.25	7.86	0.71	13.3	36.1		17	8.50
20 ウグイス	2	1	○	○	2	1	3	0.75	0.41	0.04	0.7	1.9	B	3	1.50
メジロ	1	○		○	5	5	1	0.25	0.14	0.01	0.2	0.6	B	10	5.00
ムクドリ			1	2	7		3	0.75	0.41	0.04	0.7	1.9		7	3.50
ジョウビタキ					1	1								2	1.00
キビタキ	2	3	1	2			8	2.00	1.10	0.10	1.9	5.1	B		
25 スズメ	28	41	35	54	76	92	158	39.50	21.79	1.98	36.9	100.0	A	168	84.00
キセキレイ	1			3			4	1.00	0.55	0.05	0.9	2.5			
ハクセキレイ			1		2		1	0.25	0.14	0.01	0.2	0.6		2	1.00
セグロセキレイ	2	1	1	1			5	1.25	0.69	0.06	1.2	3.2			
カワラヒワ	12	1	7	2	1	2	22	5.50	3.03	0.28	5.1	13.9	B	3	1.50
30 ホオジロ	1	2	2	2	1		7	1.75	0.97	0.09	1.6	4.4	B	1	0.50
コジュケイ				○			○								
ガビチョウ	1	1	2	○	6	○	4	1.00	0.55	0.05	0.9	2.5	B	6	3.00
カオジロガビチョウ	1		2	1			4	1.00	0.55	0.05	0.9	2.5			
35															
40															
45															
50															
計	範囲内	個体数	100	97	117	114	167	154	428	107.00	59.03	5.35		321	160.50
		種 数	21	15	19	16	18	15	26					20	
		全 種 数	21	17	22	22	20	17	28					21	

吉岡町鳥類生息密度調査結果

1. 調査地の環境

吉岡町に含まれる調査地は下表の 1 メッシュで、標高からは丘陵部に属する。利根川中流域の河川敷に沿ったコースで、農耕地や雑木林、水辺環境などを有する。調査地を縦断する国道 17 号線のバイパスにより、コース上の道路が付け替えられたため、前回の調査時に一部で迂回路に変更したが、今回も前回と同じコースで調査を実施した。周辺の交通量が増え、環境面では鳥類の生息に適さない要因が増加したように思われる。

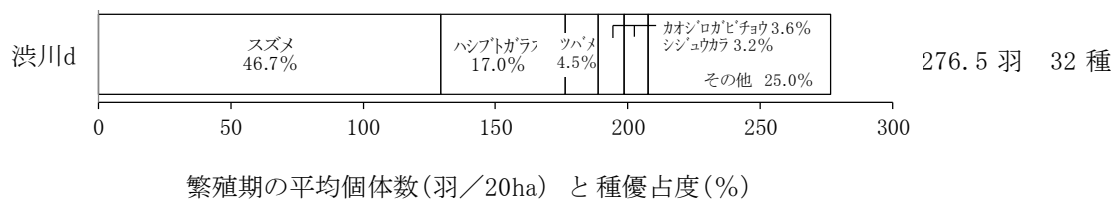
調査 メッシュ	標高	環境要素								調査コース
		広葉樹林	針葉樹林	植林地	草地草原	農耕地	里山集落	市街地	河川湖沼	
渋川d	130 ～ 145	○	—	○	—	◎	○	—	○	前回と同じ

2. 調査結果と考察

今年度の調査では、繁殖期に 32 種、越冬期に 33 種、年間では 42 種が記録された。なお、前々回（平成 25 年度実施）は年間 39 種、前回（平成 30 年度実施）は年間 43 種が記録されている。

(1) 繁殖期

繁殖期の調査結果は下図のとおりである。河川敷に沿った農耕地が主な環境要素であるため、スズメやハシブトガラス、ツバメといった人里に生息する種が大半を占めた。今回の調査地域全体と比較すると、種数は平均的であるが、個体数は多かった。個体数が多かったのは、多数のスズメとハシブトガラスが記録されたためである。繁殖期には、群馬県版 RDB 掲載種は記録されなかった。一方、環境省の特定外来生物に指定されているガビチョウとカオジロガビチョウが記録された。カオジロガビチョウは前々回の調査から、ガビチョウは前回の調査から記録されるようになり、個体数も増加傾向にある。両種とも県内で分布を拡大しており、今後は在来種への影響が懸念される。



(2) 越冬期

越冬期の優占種は次表のとおりである。今回の調査地域全体と比較すると、種数・個体数ともにやや多かった。種数が多かったのは、調査コースが河川敷であったため、サギ類やセキレイ類などの水辺の鳥と、ツグミやホオジロ類などの小鳥が記録されたためである。個体数が多かったのは、繁殖期と同様に多数のスズメとヒヨドリが記録されたことが原因である。群馬県版 RDB に掲載されている準絶滅危惧のハイタカとオオタカが記録された。

両種は生態系の頂点付近に位置する猛禽であり、良好な環境の指標としても重要である。特定外来生物に指定されているガビチョウとカオジロガビチョウは越冬期にも記録され、当地に定着していることが示唆された。

調査メッシュ	優占種（上位5種*）					平均個体数 (羽/20ha)	種数 (種)
	1位	2位	3位	4位	5位		
渋川d	スズメ	ヒヨドリ	ハシブトガラス	ヒバリ	カオジロガビチョウ	254.0	33

* 同率の場合は分類順に5種まで掲載

(3)過去の調査結果との比較

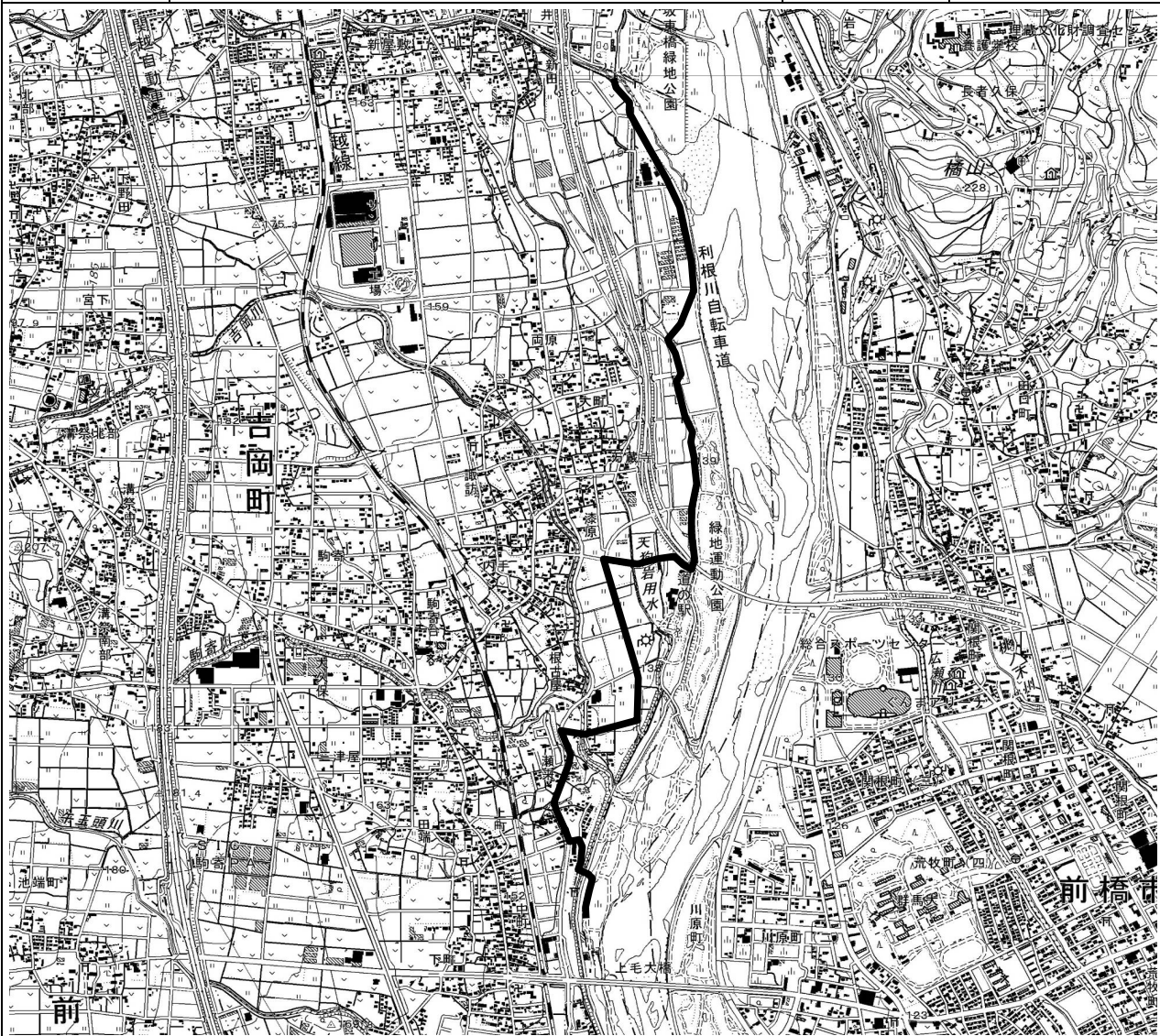
直近 3 回分の調査結果は下表のとおりである。繁殖期・越冬期ともに、種数や個体数の変動がみられるが、大きな増加・減少傾向はみられなかった。前述のように、国道 17 号線バイパスの開通による交通量の増加によって鳥類の生息には適さない要因が増加したと考えられるが、調査で記録された種数と個体数に大きな減少はみられないことから、今のところ、環境の変化が鳥類の生息状況に与える影響はあまり深刻ではないのかもしれない。

過去 2 回の調査で記録が無く今回新たに記録された種は、ハイタカ、アオゲラ、ヤマガラ、タヒバリの 4 種であった。一方、過去 2 回とも記録があるのに今回記録されなかったのはキセキレイ 1 種であった。このほか、平成 15 年の調査から記録が途絶えているオナガは今回も記録されなかった。オナガは、県内では東部の平野部を中心に生息しており、それ以外の地域では分布が縮小している種である。

調査メッシュ	繁殖期						越冬期					
	種数(種)			平均個体数(羽/20ha)			種数(種)			平均個体数(羽/20ha)		
	H25	H30	R5	H25	H30	R5	H25	H30	R5	H25	H30	R5
渋川d	29	32	32	226.8	219.5	276.5	29	32	33	361.5	559.5	254.0

調査地の概況

市町村名	吉岡町	地形図名	渋川d	調査者	関口 裕
調査範囲	4 k m（調査距離）×50m（幅）=20ha			調査地の標高	130 ～ 145 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース 

☐ 広葉樹林（自然林・雑木林）	利根川右岸の雑木林や運動公園を含む河川敷とその周辺を通るルートである。北側半分はサイクリングロードと緑地公園を通り、南側半分は水田や民家近くを通る。利根川沿いは雑木林が成長し、川の水面はほとんど見えなくなった。サイクリングロード沿線に植えられた樹木もかなり大きく成長し、野鳥の観察はしづらくなった。水田は冬季ほとんど耕作されておらず、前回までは観察されなかったタヒバリの群れがみられた。群馬農協チキンフーズ株式会社周辺に集まっていたハシブトガラスの群れは、昨年と同じく冬期調査では見られなかった。 今回の調査では、繁殖が確認された種はなかった。 ← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。
☐ 針葉樹林（自然林）	
☐ 植林地（人工林）	
☐ 草地・草原・ヨシ原	
☒ 農耕地（田・畑・果樹園）	
☐ 里山・疎らな民家	
☐ 市街地・工業団地	
☐ 河川湖沼・河川敷	

<備考>

調査コースは前回と同じである。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

渋川d

調査者

関口 裕

調 査 年 月 日			R5. 5. 25	R5. 5. 25	R5. 6. 8	R5. 6. 8	R5. 12. 18	R5. 12. 18	繁殖期							越冬期		
調 査 時 間			4 : 50 ＼ 6 : 40 (110分)	6 : 55 ＼ 9 : 00 (125分)	4 : 45 ＼ 6 : 45 (120分)	7 : 00 ＼ 9 : 05 (125分)	7 : 05 ＼ 9 : 05 (120分)	9 : 20 ＼ 11 : 30 (130分)	合 計	平 均 (120分)	密度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計 Σ⑤～⑥	平 均 (125分) ⑧／2	
天 候			曇	曇	曇	晴	晴	Σ①～④			⑦／4	1h当り						1ha当り
種 類 / 結 果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数										
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦						⑧			
5	キジ			1	○	2	○			3	0.75	0.38	0.04	0.3	0.6	B		
	カルガモ					7			7	1.75	0.88	0.09	0.6	1.4				
	キジバト			○	2	5	3	7	10	2.50	1.25	0.13	0.9	1.9		7	3.50	
	カワウ			1			○		1	0.25	0.13	0.01	0.1	0.2				
	アオサギ			2		1		1	1	3	0.75	0.38	0.04	0.3	0.6		2	1.00
10	ダイサギ								1								1	0.50
	コチドリ				1		2			3	0.75	0.38	0.04	0.3	0.6			
	トビ			1	○	○	1	1	3	2	0.50	0.25	0.03	0.2	0.4		4	2.00
	ハイタカ								1								1	0.50
	オオタカ								○								○	
15	カワセミ						1			1	0.25	0.13	0.01	0.1	0.2			
	コゲラ				3	3	4	1	1	10	2.50	1.25	0.13	0.9	1.9		2	1.00
	アオゲラ						○	1	1	○							2	1.00
	チョウゲンボウ				1					1	0.25	0.13	0.01	0.1	0.2			
	モズ			1		1	2	2	1	4	1.00	0.50	0.05	0.4	0.8		3	1.50
20	ハシボソガラス			4	2	1	5	3	2	12	3.00	1.50	0.15	1.1	2.3		5	2.50
	ハシブトガラス			38	22	119	9	22	22	188	47.00	23.50	2.35	17.0	36.4		44	22.00
	ヤマガラ							2									2	1.00
	シジュウカラ			5	5	10	15	5	5	35	8.75	4.38	0.44	3.2	6.8	B	10	5.00
	ヒバリ			10	3	4	2	23	4	19	4.75	2.38	0.24	1.7	3.7	B	27	13.50
25	ツバメ			11	14	12	13			50	12.50	6.25	0.63	4.5	9.7			
	ヒヨドリ			8	1	8	8	38	39	25	6.25	3.13	0.31	2.3	4.8		77	38.50
	ウグイス			3	2	5	2	3	1	12	3.00	1.50	0.15	1.1	2.3	B	4	2.00
	エナガ						8			8	2.00	1.00	0.10	0.7	1.5			
	メジロ			5	3	13	9	3	6	30	7.50	3.75	0.38	2.7	5.8	B	9	4.50
30	オオヨシキリ				○	○	○			○						B		
	ムクドリ			1	3	3	4		1	11	2.75	1.38	0.14	1.0	2.1		1	0.50
	ツグミ							3	1								4	2.00
	ジョウビタキ							2	3								5	2.50
	スズメ			71	84	198	164	94	77	517	129.25	64.63	6.46	46.7	100.0	B	171	85.50
35	ハクセキレイ			5	5	4	3	10	13	17	4.25	2.13	0.21	1.5	3.3	B	23	11.50
	セグロセキレイ			1	3	2	7	3	4	13	3.25	1.63	0.16	1.2	2.5		7	3.50
	タヒバリ							17	8								25	12.50
	カワラヒワ			7	6	4	1	19	5	18	4.50	2.25	0.23	1.6	3.5		24	12.00
	シメ							7	2								9	4.50
40	イカル								○								○	
	ホオジロ			2	7	5	8	6		22	5.50	2.75	0.28	2.0	4.3	B	6	3.00
	アオジ							1	1								2	1.00
	コジュケイ			2	2	○		○	○	4	1.00	0.50	0.05	0.4	0.8	B	○	
	カワラバト (ドバト)			21	2	3		○	5	26	6.50	3.25	0.33	2.4	5.0		5	2.50
45	ガビチョウ			2	○	5	7	○		14	3.50	1.75	0.18	1.3	2.7	B	○	
	カオジロガビチョウ			9	12	18	1	26		40	10.00	5.00	0.50	3.6	7.7		26	13.00
50																		
計	範 囲 内	個体数	211	183	433	279	300	208	1106	276.50	138.25	13.83					508	254.00
		種 数	23	21	23	23	25	25	30								29	
		全 種 数	24	25	26	27	28	28	32								33	

高崎市（旧高崎市）鳥類生息密度調査結果

1. 調査地の環境

高崎市（旧高崎市）に含まれる調査地は下表の 5 メッシュで、いずれも低地帯の平野部から丘陵部に属する。調査コースは河川に沿ったコース（高崎 a・c、下室田 b）と丘陵地を主体とするコース（高崎 d、富岡 a）で、いずれも市街地に近い地域である。このうち高崎 a は前回、工事に伴う通行止め区間を迂回して実施したが、今回は工事が終了したため元のコースに戻して実施した。従って前回の調査コースとは一部変更となっているが、今回が従来のコースと同じである。その他は前回と同じコースであり、環境にも大きな変化はみられなかった。

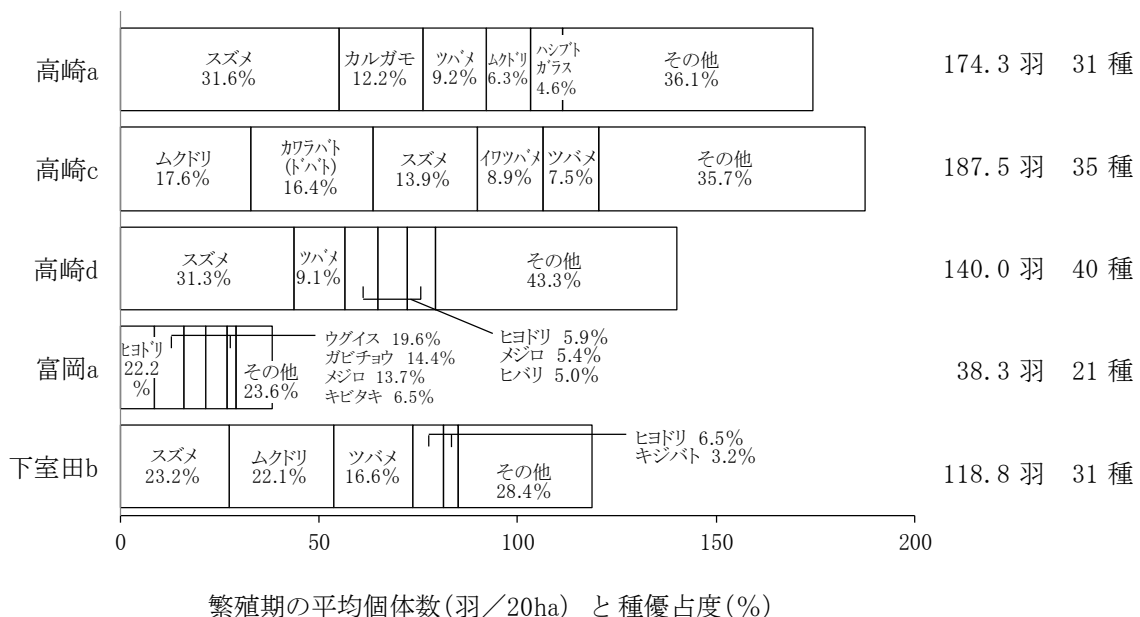
調査 メッシュ	標高	環境要素								調査コース
		広葉樹林	針葉樹林	植林地	草地草原	農耕地	里山集落	市街地	河川湖沼	
高崎a	70 ～ 80	○	—	○	—	○	—	◎	◎	一部変更
高崎c	90 ～ 180	○	—	—	○	—	—	◎	◎	前回と同じ
高崎d	75 ～ 200	○	—	○	—	◎	○	—	○	前回と同じ
富岡a	227 ～ 260	○	—	◎	—	—	○	—	○	前回と同じ
下室田b	100 ～ 110	○	—	—	◎	○	—	○	◎	前回と同じ

2. 調査結果と考察

今年度の調査では、繁殖期に 49 種、越冬期に 54 種、年間では 70 種が記録された。なお、前々回（平成 25 年度実施）は年間 71 種、前回（平成 30 年度実施）は年間 66 種が記録されている。

(1) 繁殖期

繁殖期の調査結果は下図のとおりである。いずれのメッシュも市街地に近く、河川敷や農耕地が主な環境要素であるため、スズメやツバメ、ヒヨドリ、ムクドリといった人里に



生息する種が大半を占めた。今回の調査地域全体の平均と比較すると富岡 a が種数・個体数とも少なかったが、他は、やや多いか平均的な値であった。特筆すべき種として、群馬県版 RDB に掲載されているアオバト、ゴイサギ、オオタカ、サンコウチョウ、オナガ、コヨシキリの 6 種が記録された。このうちオオタカ（高崎 c・d）は、生態系の頂点付近に位置する猛禽であり、良好な環境の指標としても重要である。一方、環境省の特定外来生物に指定されているガビチョウとカオジログビチョウが記録された。両種の急激な分布の拡大と個体数の増加により、在来種への影響が懸念される。

(2) 越冬期

越冬期の優占種は下表のとおりである。繁殖期同様、スズメとムクドリ、カラス類が優占したほか、ヒヨドリ、ホオジロ、カワラヒワといった河川敷や丘陵地で越冬する種が優占した。群馬県版 RDB に掲載されているコガモ、イソシギ、オナガ、ビンズイ、カシラダカが記録され、特定外来生物はガビチョウとカオジログビチョウのほか、ソウシチョウも記録された。

調査メッシュ	優占種（上位 5 種*）					平均個体数 (羽/20ha)	種数 (種)
	1位	2位	3位	4位	5位		
高崎a	スズメ	コガモ	マガモ	ダイサギ	カワラバト(ドンバト)	569.0	39
高崎c	カワラバト(ドンバト)	スズメ	ヒヨドリ	カルガモ	ムクドリ	218.0	32
高崎d	スズメ	ヒヨドリ	メジロ	カワラヒワ	キジバト	97.0	31
富岡a	ヒヨドリ	シジュウカラ	メジロ	ヒガラ	カケス	52.0	20
下室田b	ヒヨドリ	コガモ	スズメ	ツグミ	キジバト	135.0	27

* 同率の場合は分類順に5種まで掲載

(3)過去の調査結果との比較

直近 3 回の調査結果は下表のとおりである。メッシュによって多少の変動があるが、高崎市（旧高崎市）全体でみると、繁殖期・越冬期とも、種数に大きな変化はない。過去 2 回の調査で記録が無く今回新たに記録された種は、ハシビロガモ、オナガガモ、ゴイサギ、アマツバメ、ヒメアマツバメ、ビンズイ、ソウシチョウの 7 種であった。一方、過去 2 回とも記録があるのに今回記録されなかったのは、カッコウ、イカルチドリ、ニュウナイスズメ、ベニマシコの 4 種であった。また、前々回に記録が途絶えたコサギは今回も記録されなかった。

調査メッシュ	繁殖期						越冬期					
	種数(種)			平均個体数(羽/20ha)			種数(種)			平均個体数(羽/20ha)		
	H25	H30	R5	H25	H30	R5	H25	H30	R5	H25	H30	R5
高崎a	32	25	31	156.3	142.0	174.3	29	32	39	222.0	174.0	569.0
高崎c	33	32	35	137.0	178.5	187.5	25	30	32	79.0	154.0	218.0
高崎d	33	34	40	261.8	147.5	140.0	27	25	31	196.5	29.0	97.0
富岡a	25	24	21	53.8	45.0	38.3	24	16	20	92.0	69.0	52.0
下室田b	31	28	31	210.8	174.8	118.8	24	24	27	163.5	163.5	135.0

調 査 地 の 概 況

市町村名	高崎市（旧高崎市）	地形図名	高崎a	調 査 者	谷畑 藤男
調査範囲	4 k m（調査距離）×50 m（幅）=20ha			調査地の標高	70 ～ 80 m

調査地の環境（調査コースの植生、地形など）		調査コース
○ 広葉樹林（自然林・雑木林）	井野川右岸に沿ったサイクリングロード（群馬の森～高崎東高校）が調査コースである。かつてコースの南側には耕地が広がっていたが、10年前より工業団地の造成と井野川の河川工事が始まり、環境は激変した。今回の調査では工事は終了し、井野川では6月に雛をつれたカルガモ親子3組を確認した。また新たに出現した2カ所の調整池ではカワセミ・カイツブリ（繁殖期）、ダイサギ、アオサギ、カワウ、カモ類が見られた。越冬期のカモ類の記録はカルガモ以外は全て調整池での記録である。また井野川沿いの工場の屋根にアオサギ1羽を含むダイサギの群れ（25羽）が休息していた。 今回の調査では、営巣中のイワツバメとセグロセキレイが観察され、繁殖が確認された。 ← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。	
— 針葉樹林（自然林）		
○ 植林地（人工林）		
— 草地・草原・ヨシ原		
○ 農耕地（田・畑・果樹園）		
— 里山・疎らな民家		
◎ 市街地・工業団地		
◎ 河川湖沼・河川敷		

<備考>

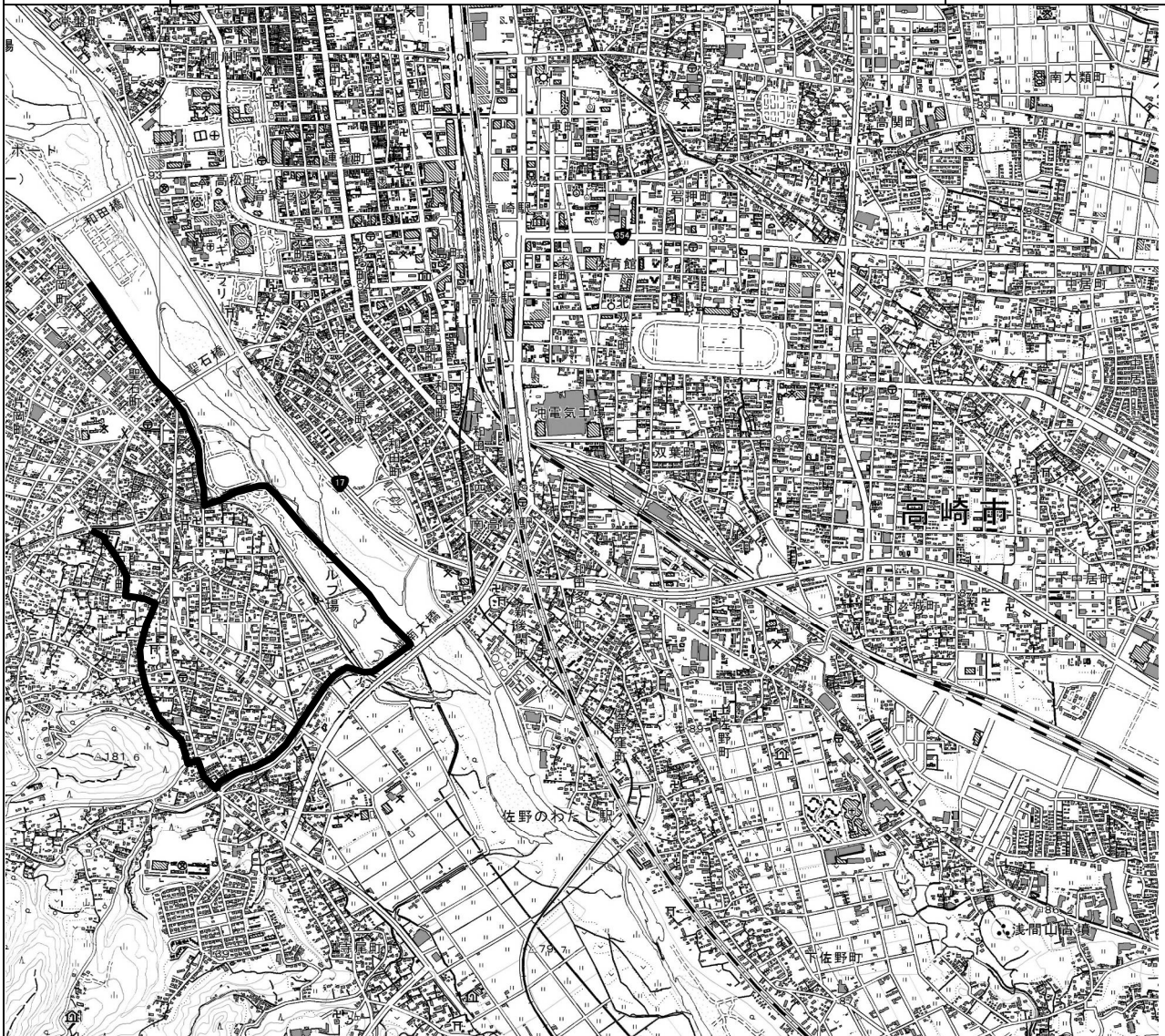
前回、工業団地の造成・道路工事に伴って堤防上のサイクリングロードが通行止めとなっていたためコース中央付近で堤防内に迂回したが、工事が終了したため、今回は前々回までの調査と同じコースに戻して実施した。

生 息 調 査 集 計 表

生 息 調 査 集 計 表								地形図名		高崎a		調査者		谷畑 藤男		
調 査 年 月 日		R5. 5. 24	R5. 5. 24	R5. 6. 12	R5. 6. 12	R5. 12. 11	R5. 12. 11	繁殖期						越冬期		
調 査 時 間		5 : 30 〃 7 : 00 (90分)	7 : 30 〃 9 : 00 (90分)	6 : 00 〃 7 : 30 (90分)	7 : 45 〃 9 : 15 (90分)	7 : 00 〃 9 : 00 (120分)	9 : 10 〃 11 : 10 (120分)	合 計	平 均	密度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均
天 候		晴	晴	曇	曇	晴	晴	Σ①～④	⑦／4	1h当り	1ha当り				Σ⑤～⑥	⑧／2
種 類 / 結 果		羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	⑦							⑧	
		①	②	③	④	⑤	⑥									
	キジ	8	8	5	2			23	5.75	3.83	0.29	3.3	10.5	B		
	オカヨシガモ					42	20								62	31.00
	ヨシガモ					3	3								6	3.00
	マガモ					60	35								95	47.50
5	カルガモ	24	20	18	23	32	19	85	21.25	14.17	1.06	12.2	38.6	B	51	25.50
	ハシビロガモ					1									1	0.50
	オナガガモ					1	1								2	1.00
	コガモ					90	100								190	95.00
	カイツブリ	1	1	2	2	1	1	6	1.50	1.00	0.08	0.9	2.7	B	2	1.00
0	キジバト	1	2	2	3	4	5	8	2.00	1.33	0.10	1.1	3.6	B	9	4.50
	カワウ	1		2	5	14	3	8	2.00	1.33	0.10	1.1	3.6		17	8.50
	アオサギ	6		2	6	4	4	14	3.50	2.33	0.18	2.0	6.4		8	4.00
	ダイサギ					34	61								95	47.50
	オオバン					2	2								4	2.00
5	コチドリ	1	3					4	1.00	0.67	0.05	0.6	1.8			
	イソシギ					1									1	0.50
	トビ					1	1								2	1.00
	カワセミ				1			1	0.25	0.17	0.01	0.1	0.5			
	コゲラ		1	1			1	2	0.50	0.33	0.03	0.3	0.9		1	0.50
0	アカゲラ						1								1	0.50
	アオゲラ		3				1	3	0.75	0.50	0.04	0.4	1.4		1	0.50
	モズ					2									2	1.00
	オナガ				1			1	0.25	0.17	0.01	0.1	0.5			
	ハシボソガラス	3	7	7	4	2	7	21	5.25	3.50	0.26	3.0	9.5	B	9	4.50
5	ハシブトガラス	10	12	5	5	7	3	32	8.00	5.33	0.40	4.6	14.5		10	5.00
	ヤマガラ						4								4	2.00
	シジュウカラ	2	2	4	5		5	13	3.25	2.17	0.16	1.9	5.9	B	5	2.50
	ヒバリ	1						1	0.25	0.17	0.01	0.1	0.5			
	ツバメ	20	19	10	15			64	16.00	10.67	0.80	9.2	29.1	B		
0	イワツバメ	10	5	4	4			23	5.75	3.83	0.29	3.3	10.5	A		
	ヒヨドリ	3	2	4	5	20	38	14	3.50	2.33	0.18	2.0	6.4		58	29.00
	ウグイス	2	3					5	1.25	0.83	0.06	0.7	2.3			
	エナガ	10	12				5	22	5.50	3.67	0.28	3.2	10.0		5	2.50
	メジロ			3	4		5	7	1.75	1.17	0.09	1.0	3.2		5	2.50
5	オオヨシキリ	1						1	0.25	0.17	0.01	0.1	0.5			
	ムクドリ	2	10	25	7	3	6	44	11.00	7.33	0.55	6.3	20.0		9	4.50
	ツグミ					10	15								25	12.50
	ジョウビタキ					2	2								4	2.00
	スズメ	103	78	14	25	220	93	220	55.00	36.67	2.75	31.6	100.0	B	313	156.50
0	キセキレイ					1									1	0.50
	ハクセキレイ	2	2	4	7	2	2	15	3.75	2.50	0.19	2.2	6.8		4	2.00
	セグロセキレイ	2	1	4	3	4	4	10	2.50	1.67	0.13	1.4	4.5	A	8	4.00
	ビンズイ					3									3	1.50
	カワラヒワ	5	12		6	3	25	23	5.75	3.83	0.29	3.3	10.5		28	14.00
5	シメ					11	10								21	10.50
	ホオジロ	2		5	3	3	4	10	2.50	1.67	0.13	1.4	4.5	B	7	3.50
	カシラダカ						3								3	1.50
	カワラバト (ドバト)	3				64	2	3	0.75	0.50	0.04	0.4	1.4		66	33.00
	ガビチョウ			2	1			3	0.75	0.50	0.04	0.4	1.4			
0	カオジロガビチョウ	5	4	2				11	2.75	1.83	0.14	1.6	5.0			
計	範囲内	個体数	228	207	125	137	647	491	697	174.25	116.17	8.71			1138	569.00
		種 数	25	21	21	22	31	34	31						39	
		全 種 数	25	21	21	22	31	34	31						39	

調 査 地 の 概 況

市町村名	高崎市（旧高崎市）	地形図名	高崎c	調 査 者	清水 伸彦
調査範囲	4 k m（調査距離）×50 m（幅）＝20ha			調査地の標高	90 ～ 180 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース 

○ 広葉樹林（自然林・雑木林）

－ 針葉樹林（自然林）

－ 植林地（人工林）

○ 草地・草原・ヨシ原

－ 農耕地（田・畑・果樹園）

－ 里山・疎らな民家

◎ 市街地・工業団地

◎ 河川湖沼・河川敷

烏川右岸の河川敷には、サッカー場や野球場、芝生の公園が整備されており、河川は直線化され蛇行しない。瀬や淵がなく砂礫地も少ないため、カイツブリなどの水辺の鳥が少ない。一方、公園の芝生はムクドリ採食地に利用されている。また、河川の増水や氾濫が少ないため中州がニセアカシアなどで樹林化し、藪を好むカオジロガビチョウやウグイスが生息している。

今回の調査では、ツバメとムクドリ、スズメの営巣と、カルガモとコゲラ、シジュウカラ、エナガ、セグロセキレイの巣立ち雛が観察され、繁殖が確認された。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じである。

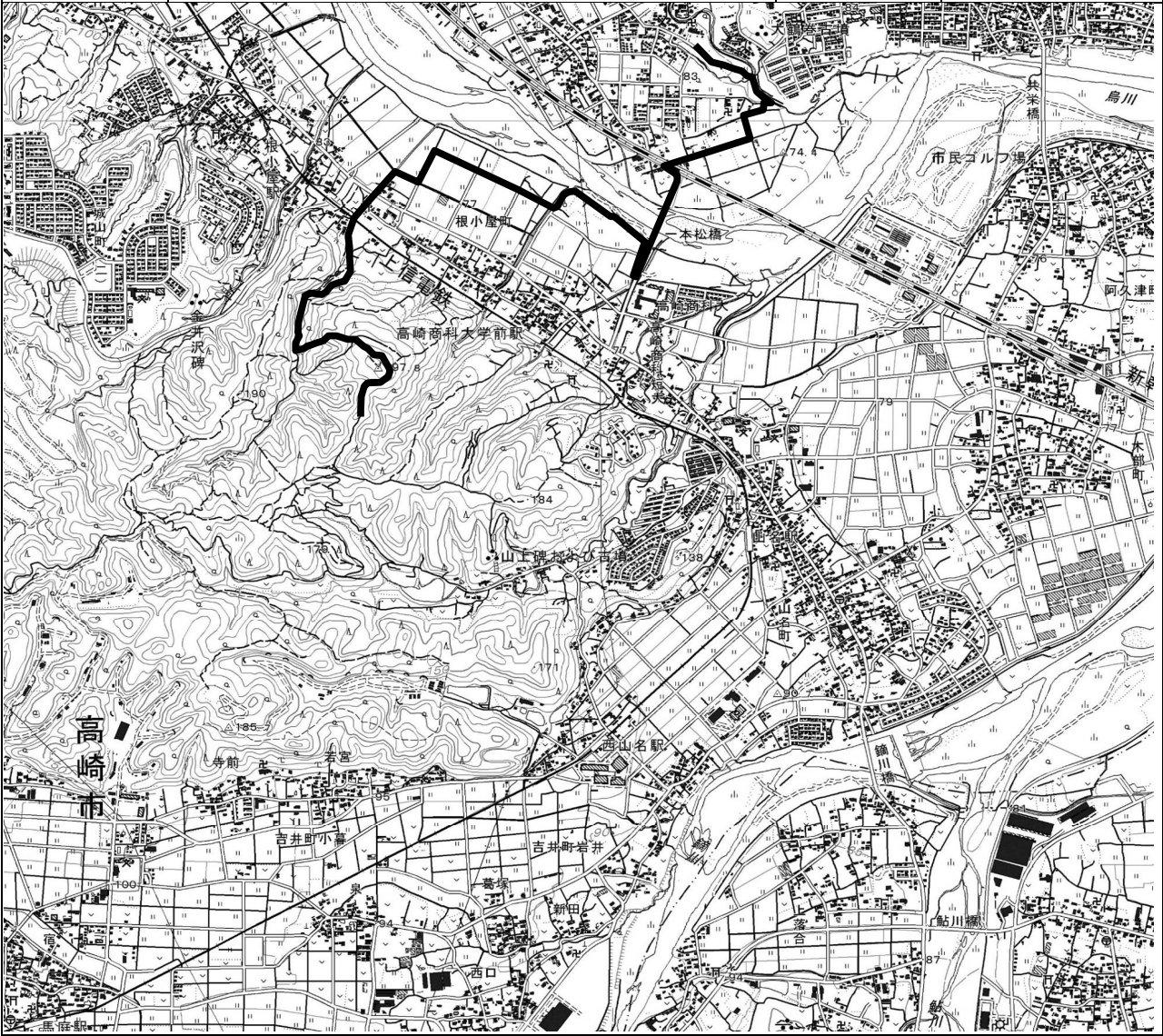
生 息 調 査 集 計 表

地形図名	高崎c	調査者	清水 伸彦
------	-----	-----	-------

調査年月日										繁殖期								越冬期	
調査時間			R5. 5. 21	R5. 5. 21	R5. 6. 17	R5. 6. 17	R5. 12. 18	R5. 12. 18	合計	平均 (120分)	密度		種優占度	相対出現頻度	繁殖可能性 ランク	合計	平均 (120分)		
			4 : 45 〆 6 : 45 (120分)	6 : 55 〆 8 : 55 (120分)	5 : 00 〆 7 : 00 (120分)	7 : 10 〆 9 : 10 (120分)	7 : 00 〆 9 : 00 (120分)	9 : 15 〆 11 : 15 (120分)											
天 候			曇	晴	晴	晴	晴	晴	Σ①～④	⑦／4	1h当り	1ha当り	(%)	(%)		Σ⑤～⑥	⑧／2		
種類 / 結果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	⑦							⑧			
5				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦									
	キジ			2	1	1				4	1.00	0.50	0.05	0.5	3.0				
	カルガモ			5	5	19	12	8	6	41	10.25	5.13	0.51	5.5	31.1	A	14	7.00	
	コガモ								〇								〇		
	カイツブリ							3	2								5	2.50	
10	キジバト			4	6	3	3	2	2	16	4.00	2.00	0.20	2.1	12.1	B	4	2.00	
	カワウ			1	〇	1		10	〇	2	0.50	0.25	0.03	0.3	1.5		10	5.00	
	ゴイサギ			〇	1					1	0.25	0.13	0.01	0.1	0.8				
	アオサギ			1	1	1		1	1	3	0.75	0.38	0.04	0.4	2.3		2	1.00	
	ダイサギ			〇	1			1	1	1	0.25	0.13	0.01	0.1	0.8		2	1.00	
15	ヒメアマツバメ					2	2	1		4	1.00	0.50	0.05	0.5	3.0		1	0.50	
	トビ			〇				1		〇							1	0.50	
	オオタカ						1			1	0.25	0.13	0.01	0.1	0.8				
	ノスリ								〇								〇		
	カワセミ								〇								〇		
20	コゲラ				1	1		〇		2	0.50	0.25	0.03	0.3	1.5	A	〇		
	アカゲラ								1								1	0.50	
	モズ			4	2	1	3	1	2	10	2.50	1.25	0.13	1.3	7.6	B	3	1.50	
	オナガ			〇		5	3			8	2.00	1.00	0.10	1.1	6.1				
	ハシボソガラス			3	9	6	7	1	7	25	6.25	3.13	0.31	3.3	18.9	B	8	4.00	
25	ハシブトガラス			3	1	2	〇	7	〇	6	1.50	0.75	0.08	0.8	4.5		7	3.50	
	シジュウカラ				2	3	3		〇	8	2.00	1.00	0.10	1.1	6.1	A	〇		
	ヒバリ				1	〇				1	0.25	0.13	0.01	0.1	0.8				
	ツバメ			7	12	19	18			56	14.00	7.00	0.70	7.5	42.4	A			
	イワツバメ			2	10	50	5			67	16.75	8.38	0.84	8.9	50.8				
30	ヒヨドリ			6	6	9	6	8	10	27	6.75	3.38	0.34	3.6	20.5		18	9.00	
	ウグイス			5	6	5	3	1	1	19	4.75	2.38	0.24	2.5	14.4	B	2	1.00	
	エナガ					2				2	0.50	0.25	0.03	0.3	1.5	A			
	メジロ				1	2	2	1	3	5	1.25	0.63	0.06	0.7	3.8		4	2.00	
	オオヨシキリ			6	4	6	6			22	5.50	2.75	0.28	2.9	16.7	B			
35	セッカ					1				1	0.25	0.13	0.01	0.1	0.8				
	ムクドリ			20	31	30	51	8	4	132	33.00	16.50	1.65	17.6	100.0	A	12	6.00	
	ツグミ							1	〇								1	0.50	
	ジョウビタキ								1								1	0.50	
	スズメ			31	25	15	33	40	16	104	26.00	13.00	1.30	13.9	78.8	A	56	28.00	
40	ハクセキレイ			3	6	2	2	3	3	13	3.25	1.63	0.16	1.7	9.8		6	3.00	
	セグロセキレイ			1	4	1	4	2	2	10	2.50	1.25	0.13	1.3	7.6	A	4	2.00	
	カワラヒワ				2	2	1	〇	4	5	1.25	0.63	0.06	0.7	3.8		4	2.00	
	シメ							8	1								9	4.50	
	ホオジロ			4	1	2	〇	1	3	7	1.75	0.88	0.09	0.9	5.3	B	4	2.00	
45	アオジ							1	1								2	1.00	
	コジュケイ			〇		〇				〇									
	カワラバト（ドバト）			28	11	84		250	5	123	30.75	15.38	1.54	16.4	93.2		255	127.50	
	ガビチョウ			3	2	1	2			8	2.00	1.00	0.10	1.1	6.1	B			
	カオジロガビチョウ			11	3	2	〇	〇		16	4.00	2.00	0.20	2.1	12.1		〇		
50																			
計	範囲内	個体数	150	155	278	167	360	76	750	187.50	93.75	9.38				436	218.00		
		種 数	21	27	29	20	23	21	33							26			
		全 種 数	26	28	31	23	26	28	35							32			

調 査 地 の 概 況

市町村名	高崎市（旧高崎市）	地形図名	高崎d	調 査 者	浅川 千佳夫
調査範囲	4 k m（調査距離）× 50 m（幅）＝ 20 ha			調査地の標高	75 ～ 200 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）	調査コース
-----------------------	-------

☐ 広葉樹林（自然林・雑木林）	大鶴巻古墳西の住宅地から農耕地、一本松橋を通り、根小屋の農耕地から金井沢碑東の丘陵地までの環境の変化に富んだコース。河川敷にはヨシ原や河辺林があり、丘陵部にはアカマツ、クヌギ、シラカシなど、林床にはササが生える雑木林が広がっており、一部に竹林もある。水場となる沢もあるが、水量は少ない。 今回の調査では、巣にいるムクドリの雛の声が記録され、繁殖が確認された。 ← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。
☐ 針葉樹林（自然林）	
☐ 植林地（人工林）	
☐ 草地・草原・ヨシ原	
☒ 農耕地（田・畑・果樹園）	
☐ 里山・疎らな民家	
☐ 市街地・工業団地	
☐ 河川湖沼・河川敷	

<備考>

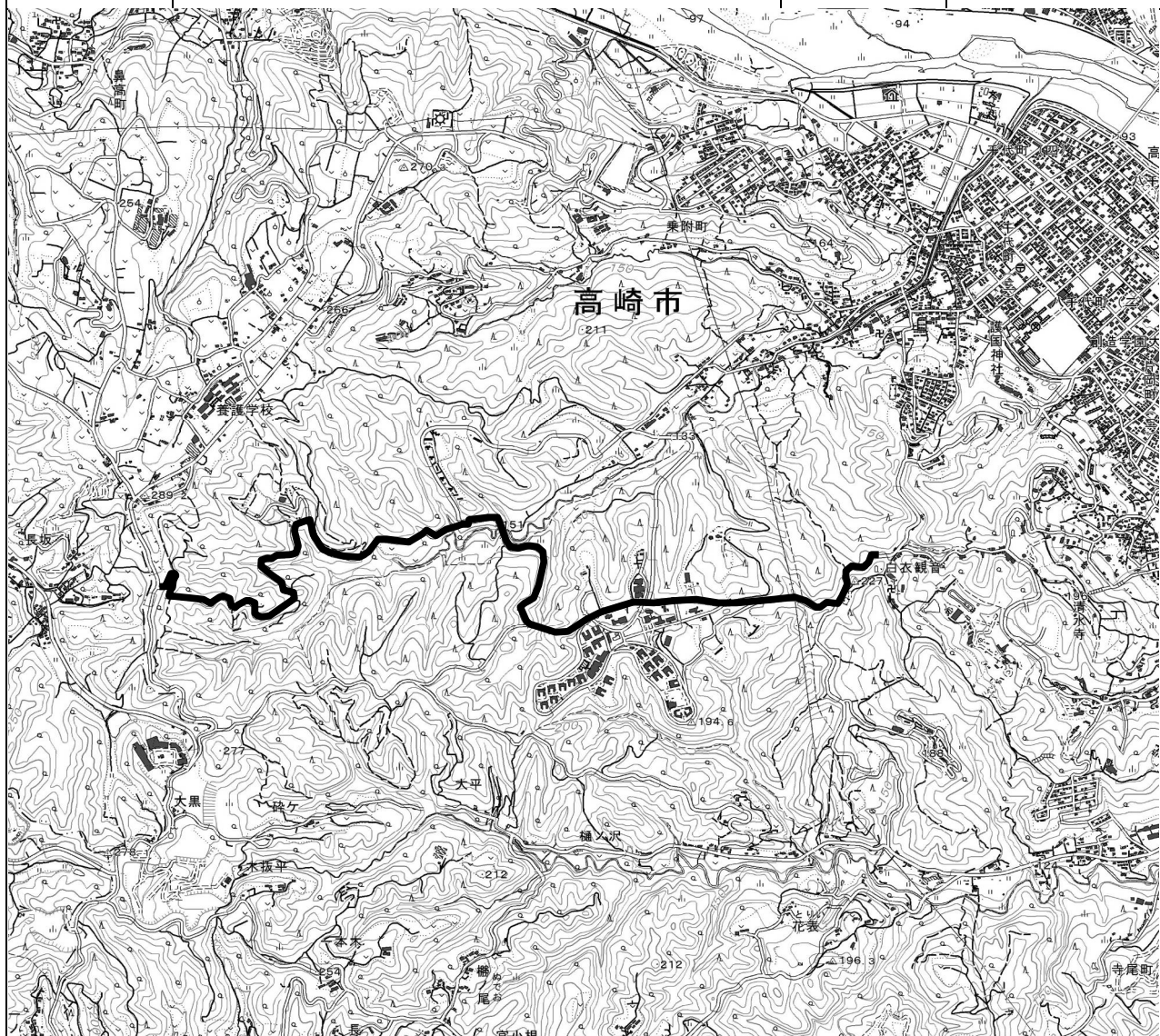
調査コースは前回と同じである。

生 息 調 査 集 計 表

生 息 調 査 集 計 表								地形図名		高崎d		調査者		浅川 千佳夫		
調 査 年 月 日		R5. 5. 24	R5. 5. 24	R5. 6. 8	R5. 6. 8	R5. 12. 26	R5. 12. 26	繁殖期							越冬期	
調 査 時 間		6：15 ＼ 8：00 (105分)	8：00 ＼ 9：40 (100分)	5：40 ＼ 7：20 (100分)	7：25 ＼ 9：10 (105分)	7：45 ＼ 9：15 (90分)	9：25 ＼ 10：55 (90分)	合 計	平 均 (103分)	密 度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均 (90分)
		Σ①～④	⑦／4	1h当り	1ha当り	Σ⑤～⑥	⑧／2									
天 候		晴	晴	曇	曇	晴	晴	⑦							⑧	
種 類 / 結 果		羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数									
		①	②	③	④	⑤	⑥									
5	キジ	1	○	7	6	1	1	14	3.50	2.05	0.18	2.5	8.0	B	2	1.00
	カルガモ		1	1	1			3	0.75	0.44	0.04	0.5	1.7			
	キジバト	6	5	6	4	9	2	21	5.25	3.07	0.26	3.8	12.0		11	5.50
	アオバト			○				○								
	カワウ			3	○		4	3	0.75	0.44	0.04	0.5	1.7		4	2.00
10	アオサギ	○		1			○	1	0.25	0.15	0.01	0.2	0.6		○	
	ダイサギ	○		○				○								
	ホトトギス		1	○	○			1	0.25	0.15	0.01	0.2	0.6	B		
	アマツバメ	2	1					3	0.75	0.44	0.04	0.5	1.7			
	コチドリ	1						1	0.25	0.15	0.01	0.2	0.6			
15	トビ	○	○		○		○	○							○	
	オオタカ		1					1	0.25	0.15	0.01	0.2	0.6			
	ノスリ	1						1	0.25	0.15	0.01	0.2	0.6			
	カワセミ		1	1				2	0.50	0.29	0.03	0.4	1.1			
	コゲラ	2		○	4		3	6	1.50	0.88	0.08	1.1	3.4		3	1.50
20	アオゲラ			○				○								
	サンコウチョウ			1	1			2	0.50	0.29	0.03	0.4	1.1			
	モズ	10	3	5	2		4	20	5.00	2.93	0.25	3.6	11.4	B	4	2.00
	カケス						○								○	
	オナガ	2				3		2	0.50	0.29	0.03	0.4	1.1		3	1.50
25	ハシボソガラス	5	2	8	○	1	2	15	3.75	2.20	0.19	2.7	8.6		3	1.50
	ハシブトガラス	1	1		2	○	2	4	1.00	0.59	0.05	0.7	2.3		2	1.00
	ヤマガラ					1	1								2	1.00
	シジュウカラ	6	5	2	2		2	15	3.75	2.20	0.19	2.7	8.6	B	2	1.00
	ヒバリ	10	6	4	8			28	7.00	4.10	0.35	5.0	16.0	B		
30	ツバメ	5	4	17	25			51	12.75	7.46	0.64	9.1	29.1	B		
	ヒヨドリ	13	9	5	6	7	12	33	8.25	4.83	0.41	5.9	18.9		19	9.50
	ウグイス	3	3	5	5	1	1	16	4.00	2.34	0.20	2.9	9.1	B	2	1.00
	エナガ	6		11			7	17	4.25	2.49	0.21	3.0	9.7	B	7	3.50
	メジロ	10	9	2	9	3	11	30	7.50	4.39	0.38	5.4	17.1	B	14	7.00
35	オオヨシキリ	1	4	1	1			7	1.75	1.02	0.09	1.3	4.0	B		
	セッカ			○				○								
	ムクドリ	5	7	3	7			22	5.50	3.22	0.28	3.9	12.6	A		
	シロハラ					2	1								3	1.50
	ツグミ					1	5								6	3.00
40	ジョウビタキ						2								2	1.00
	キビタキ		○	1	○			1	0.25	0.15	0.01	0.2	0.6	B		
	スズメ	33	25	58	59	40	17	175	43.75	25.61	2.19	31.3	100.0		57	28.50
	キセキレイ						1								1	0.50
	ハクセキレイ		1	1	2			4	1.00	0.59	0.05	0.7	2.3			
45	セグロセキレイ	2		1		1		3	0.75	0.44	0.04	0.5	1.7	B	1	0.50
	カワラヒワ	3	5	5		8	4	13	3.25	1.90	0.16	2.3	7.4		12	6.00
	シメ					2									2	1.00
	ホオジロ	5	2	5	○	4	2	12	3.00	1.76	0.15	2.1	6.9	B	6	3.00
	カシラダカ					10									10	5.00
50	アオジ					1									1	0.50
	コジュケイ	1			1			2	0.50	0.29	0.03	0.4	1.1			
	ガビチョウ	5	2	5	4	4	○	16	4.00	2.34	0.20	2.9	9.1	B	4	2.00
	カオジロガビチョウ	1	2	3	9	○	3	15	3.75	2.20	0.19	2.7	8.6		3	1.50
	ソウシチョウ						8								8	4.00
計	範囲内	個体数	140	100	162	158	99	95	560	140.00	81.95	7.00			194	97.00
		種 数	26	23	26	20	18	22	35						28	
	全	種 数	29	26	32	26	20	26	40						31	

調 査 地 の 概 況

市町村名	高崎市（旧高崎市）	地形図名	富岡a	調 査 者	土屋 等
調査範囲	4 k m（調査距離）×50 m（幅）=20ha			調査地の標高	227 ～ 260 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

○ 広葉樹林（自然林・雑木林）

— 針葉樹林（自然林）

◎ 植林地（人工林）

— 草地・草原・ヨシ原

— 農耕地（田・畑・果樹園）

○ 里山・疎らな民家

— 市街地・工業団地

○ 河川湖沼・河川敷

観音山丘陵を横断する調査コースである。調査コース一帯は落葉広葉樹とスギなどの針葉樹の混交林で、荒久沢沿いでは水場に困らない。国立コロニー以外人家はない。コース沿いの竹林は荒れている。樹木が伸びたため見晴らしが効かず、ワシタカ類の観察には不向きになった部分がある。

今回の調査で繁殖が確認された種はいなかった。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

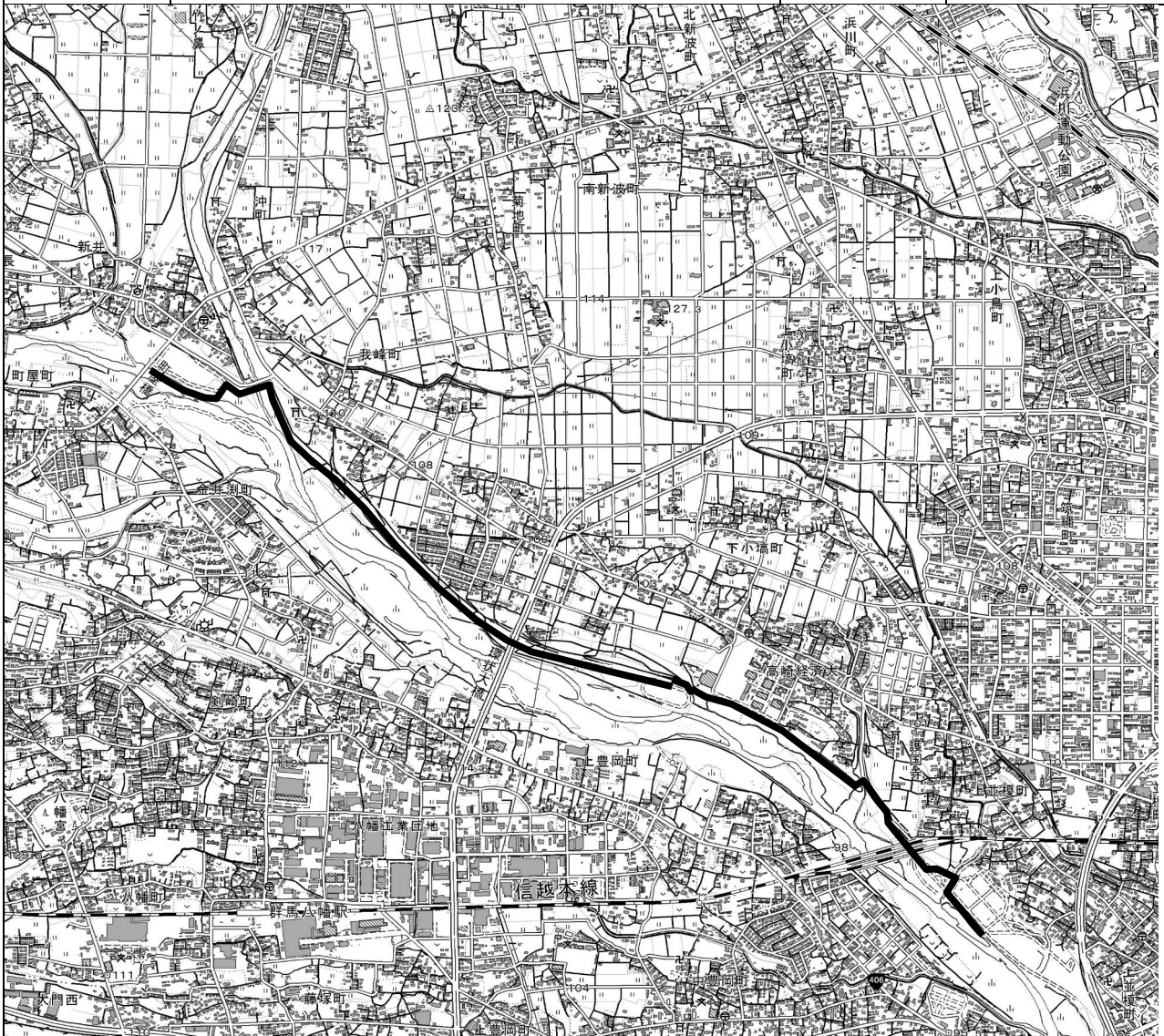
調査コースは前回と同じである。

十屋 等

-53-

調 査 地 の 概 況

市町村名	高崎市（旧高崎市）	地形図名	下室田b	調 査 者	二川 真士
調査範囲	4 k m（調査距離）×50 m（幅）=20ha			調査地の標高	100 ～ 110 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

○ 広葉樹林（自然林・雑木林）

— 針葉樹林（自然林）

— 植林地（人工林）

◎ 草地・草原・ヨシ原

○ 農耕地（田・畑・果樹園）

— 里山・疎らな民家

○ 市街地・工業団地

◎ 河川湖沼・河川敷

調査コースは榛名白川沿いのサイクリングロードである。川の水量は豊富で、河川敷には耕作地やヨシ原が広がり、ところどころにニセアカシアなどの疎林がある。
今回の調査では、ハシボソガラスとシジュウカラ、ハクセキレイ、セグロセキレイの巣立ち雛が観察され、繁殖が確認された。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じである。繁殖期2日目に路上でアオダイショウを観察した。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

下室田b

調査者

二川 真士

調 査 年 月 日			R5. 6. 13	R5. 6. 13	R5. 6. 29	R5. 6. 29	R5. 12. 24	R5. 12. 24	繁殖期								越冬期	
調 査 時 間			5：20 ＼ 7：40 (140分)	8：00 ＼ 9：45 (105分)	5：00 ＼ 6：50 (110分)	7：00 ＼ 8：45 (105分)	7：15 ＼ 9：20 (125分)	9：30 ＼ 11：40 (130分)	合 計	平 均	密 度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均	
種 類 　／　 結 果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	Σ①～④	⑦／4	1h当り	1ha当り				Σ⑤～⑥	⑧／2	
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦							⑧		
5	キジ			○	○	1	○	1		1	0.25	0.13	0.01	0.2	0.9		1	0.50
	マガモ							○	○							○		
	カルガモ			1	2	3	1			7	1.75	0.91	0.09	1.5	6.4			
	コガモ							24	24							48	24.00	
	カイツブリ							3	○							3	1.50	
10	キジバト			9	2	2	2	10	1	15	3.75	1.96	0.19	3.2	13.6		11	5.50
	カワウ			1	1	4	○	3	1	6	1.50	0.78	0.08	1.3	5.5		4	2.00
	アオサギ			1		1	1	3	1	3	0.75	0.39	0.04	0.6	2.7		4	2.00
	ダイサギ				○	1		1	1	1	0.25	0.13	0.01	0.2	0.9		2	1.00
	オオバン							2	○								2	1.00
15	トビ					1	1		1	2	0.50	0.26	0.03	0.4	1.8		1	0.50
	コゲラ			1	1					2	0.50	0.26	0.03	0.4	1.8			
	モズ			1		○	1	2		2	0.50	0.26	0.03	0.4	1.8		2	1.00
	オナガ			1	1				7	2	0.50	0.26	0.03	0.4	1.8		7	3.50
	ハシボソガラス			6	5		○	2	2	11	2.75	1.43	0.14	2.3	10.0	A	4	2.00
20	ハシブトガラス			3		1		2	○	4	1.00	0.52	0.05	0.8	3.6		2	1.00
	シジュウカラ				1					1	0.25	0.13	0.01	0.2	0.9	A		
	ツバメ			29	21	8	21			79	19.75	10.30	0.99	16.6	71.8			
	イワツバメ			4	6		4			14	3.50	1.83	0.18	2.9	12.7			
	ヒヨドリ			9	9	4	9	43	43	31	7.75	4.04	0.39	6.5	28.2		86	43.00
25	ウグイス			○	○	1	○	○	1	1	0.25	0.13	0.01	0.2	0.9		1	0.50
	エナガ				3					3	0.75	0.39	0.04	0.6	2.7			
	メジロ				1		2			3	0.75	0.39	0.04	0.6	2.7			
	オオヨシキリ			4	1	○	○			5	1.25	0.65	0.06	1.1	4.5			
	コヨシキリ			○						○								
30	ムクドリ			25	37	32	11		1	105	26.25	13.70	1.31	22.1	95.5		1	0.50
	ツグミ							16	6								22	11.00
	ジョウビタキ							2									2	1.00
	スズメ			30	28	28	24	31	7	110	27.50	14.35	1.38	23.2	100.0		38	19.00
	ハクセキレイ			1	3	1	2	3	2	7	1.75	0.91	0.09	1.5	6.4	A	5	2.50
35	セグロセキレイ			3	3	3	1	3	4	10	2.50	1.30	0.13	2.1	9.1	A	7	3.50
	カワラヒワ			4	○	4	4	1		12	3.00	1.57	0.15	2.5	10.9		1	0.50
	シメ							○	2								2	1.00
	ホオジロ			3	1	2	1	5	6	7	1.75	0.91	0.09	1.5	6.4		11	5.50
	カシラダカ							1	2								3	1.50
40	コジュケイ					○	○			○								
	カワラバト（ドバト）			4		10				14	3.50	1.83	0.18	2.9	12.7			
	ガビチョウ			2	1	○		○	○	3	0.75	0.39	0.04	0.6	2.7		○	
	カオジロガビチョウ			6		7	1			14	3.50	1.83	0.18	2.9	12.7			
45																		
50																		
計	範 囲 内	個体数	148	127	114	86	158	112	475	118.75	61.96	5.94					270	135.00
		種 数	22	19	19	16	20	18	29								25	
		全 種 数	25	23	23	22	24	23	31								27	

高崎市（旧榛名町）鳥類生息密度調査結果

1. 調査地の環境

高崎市（旧榛名町）に含まれる調査地は下表の4メッシュで、標高からは下室田c・dが低山帯、榛名湖a・bは山地帯に属する。調査コースは農耕地や雑木林を中心とするコース（下室田c・d）と林道を中心とするコース（榛名湖a・b）である。調査コースは4コースとも前回と同じで、環境にも大きな変化はみられなかった。

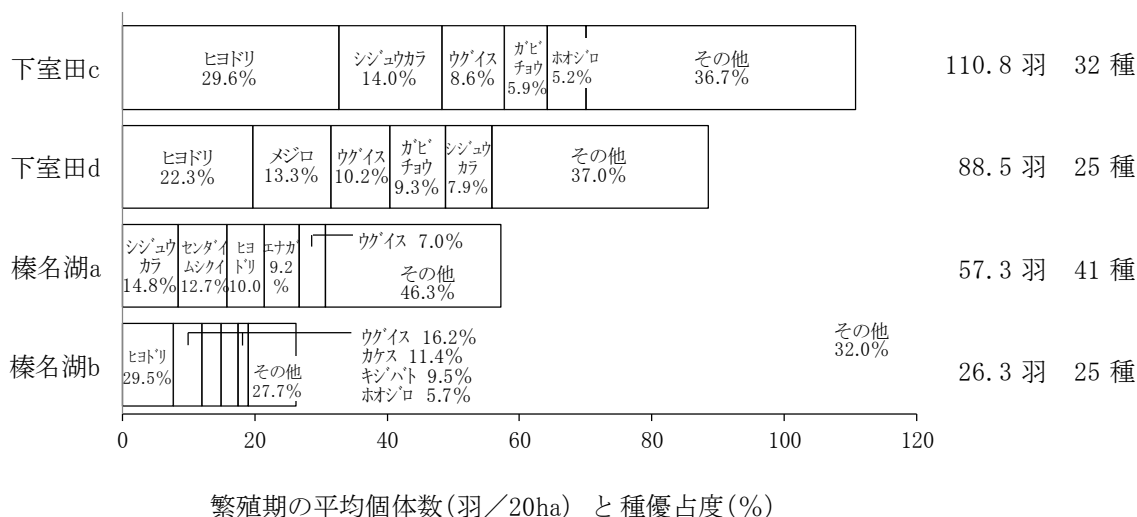
調査メッシュ	標高	環境要素								調査コース
		広葉樹林	針葉樹林	植林地	草地草原	農耕地	里山集落	市街地	河川湖沼	
下室田c	230 ～ 450	○	○	○	—	◎	○	—	○	前回と同じ
下室田d	260 ～ 420	○	—	◎	—	○	○	—	—	前回と同じ
榛名湖a	1090 ～ 1220	◎	—	○	—	—	○	—	○	前回と同じ
榛名湖b	640 ～ 800	○	○	◎	—	○	—	—	○	前回と同じ

2. 調査結果と考察

今年度の調査では、繁殖期に55種、越冬期に45種、年間では72種が記録された。なお、前々回（平成25年度実施）は年間64種、前回（平成30年度実施）は年間60種が記録されている。

(1) 繁殖期

繁殖期の調査結果は下図のとおりである。森林を中心とする環境を反映して、ヒヨドリやウグイス、シジュウカラといった種が優占した。今回の調査地域全体の平均と比較すると、榛名湖aの種数が多く、榛名湖bの個体数が少なかったが、他は平均的かやや少なかった。標高が高く自然度の高い地域を含むことが、榛名湖aの種数が多かった原因と考えられる。特筆すべき種として、群馬県版RDBに掲載されているアオバト、コサギ、ジュウイチ、ツツドリ、ハチクマ、ツミ、オオタカ、サンコウチョウ、アカハラ、コサメビタキと、環境省の特定外来生物に指定されているガビチョウとカオジロガビチョウが記録された。このうち、生態系の上位種である猛禽類3種は、豊かな自然環境の指標として重要で



ある。一方、前回の調査時に全メッシュで記録されるようになったガビチョウに加え、今回はカオジロガビチョウ（下室田 c）も記録された。両種は県内の広い地域に分布を拡大してきており、個体数が増えるとともに在来種への影響が危惧される。

(2) 越冬期

越冬期の優占種は下表のとおりである。今回の調査地域全体の平均と比較すると、榛名湖 b の種数が少なかったほかは、種数・個体数ともに平均的な値であった。繁殖期同様、ヒヨドリとカラ類が優占したほか、冬鳥として渡来するカシラダカやアトリ、マヒワが上位に入った。群馬県版 RDB に掲載されているカシラダカが 3 メッシュで記録されたほか、特定外来生物のガビチョウが標高の低い下室田 c・d で越冬期にも記録された。

調査メッシュ	優占種（上位 5 種*）					平均個体数 (羽/20ha)	種数 (種)
	1位	2位	3位	4位	5位		
下室田c	ヒヨドリ	シジュウカラ	カケス	メジロ	ホオジロ	132.5	24
下室田d	ヒヨドリ	メジロ	カシラダカ	エナガ	ヤマガラ	112.0	20
榛名湖a	マヒワ	アトリ	ヒガラ	コガラ	エナガ	83.0	28
榛名湖b	エナガ	マヒワ	ヒガラ	ヒヨドリ	ヤマガラ	73.5	15

* 同率の場合は分類順に5種まで掲載

(3) 過去の調査結果との比較

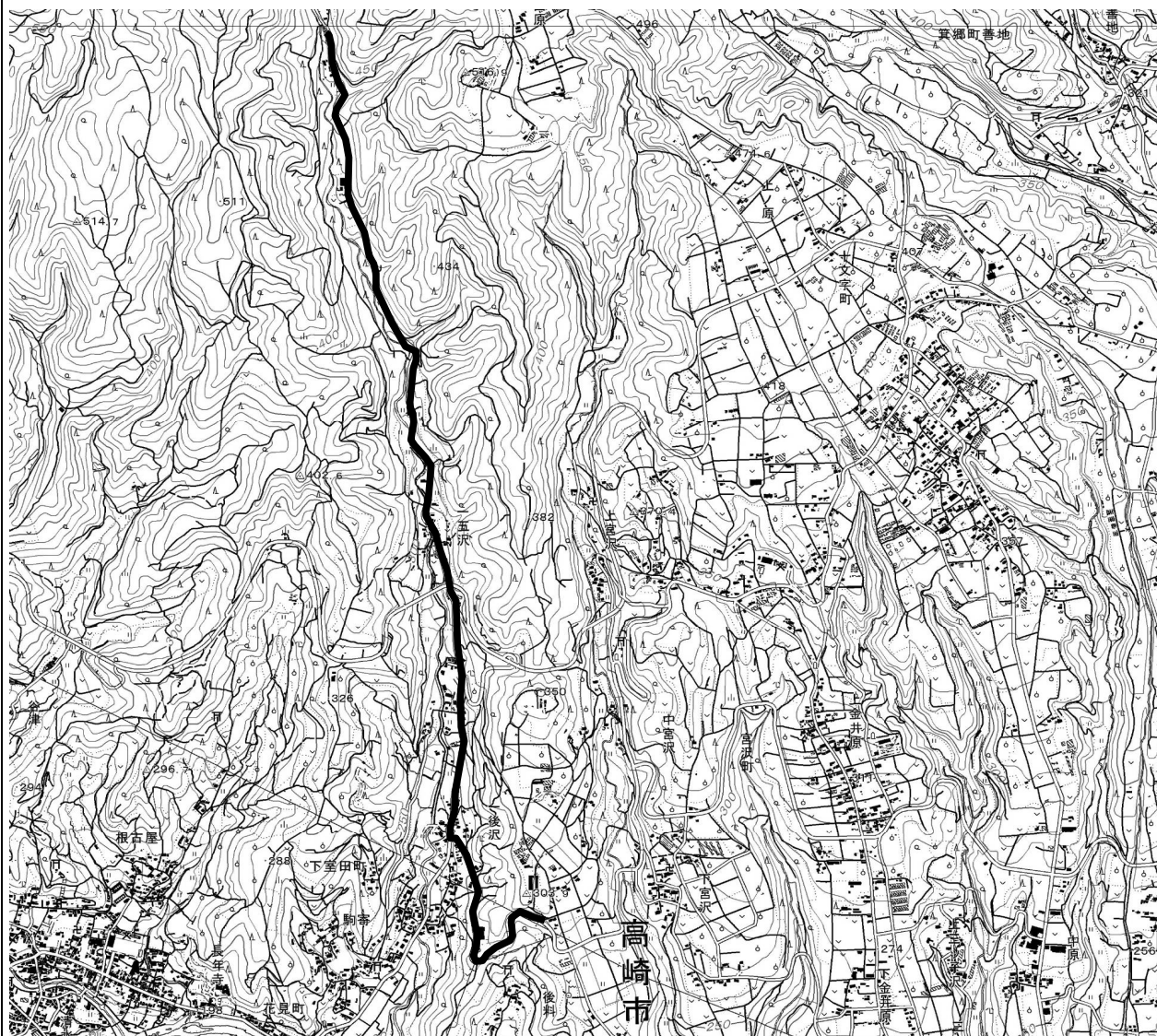
直近 3 回分の調査結果は下表のとおりである。榛名湖 b では繁殖期の種数と個体数とともに減少しており、下室田 c では越冬期の種数と個体数が増加しているようにみえる。両メッシュともシジュウカラなどのカラ類やメジロ、ホオジロなどの記録の増減が主な要因であるため、家族群や越冬期の群れの記録の有無が影響しており、継続的な増加傾向や減少傾向を示すものではないようである。

過去 2 回の調査で記録が無く今回新たに記録された種は、オカヨシガモ、ミコアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、コサギ、オオバン、ハチクマ、ツミ、エゾムシクイ、シロハラ、コサメビタキ、セグロセキレイの 12 種であった。一方、過去 2 回とも記録があるのに今回記録されなかったのはマミジロの 1 種であった。また、前々回から記録が途絶えているサンショウクイとイワツバメは今回も記録されなかった。

調査メッシュ	繁殖期						越冬期					
	種数(種)			平均個体数(羽/20ha)			種数(種)			平均個体数(羽/20ha)		
	H25	H30	R5	H25	H30	R5	H25	H30	R5	H25	H30	R5
下室田c	21	33	32	64.8	50.3	110.8	13	20	24	44.5	60.0	132.5
下室田d	22	21	25	73.8	40.3	88.5	16	10	20	75.5	21.0	112.0
榛名湖a	38	35	41	76.0	40.8	57.3	20	19	28	36.5	129.5	83.0
榛名湖b	31	25	25	73.3	31.3	26.3	16	14	15	72.5	24.0	73.5

調 査 地 の 概 況

市町村名	高崎市（旧榛名町）	地形図名	下室田c	調 査 者	奥 浩之
調査範囲	4 k m（調査距離）× 50 m（幅）= 20 ha			調査地の標高	230 ～ 450 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

☐ 広葉樹林（自然林・雑木林）☐ 針葉樹林（自然林）☐ 植林地（人工林）☐ 草地・草原・ヨシ原☒ 農耕地（田・畑・果樹園）☐ 里山・疎らな民家☐ 市街地・工業団地☐ 河川湖沼・河川敷

コースの南半分が里山的な環境、北半分が単調なスギの植林地である。調査コースは沢沿いであるため水場は豊富だが、民家のカキなどを除くと、食餌植物はあまり多くはない。
今回の調査では、育雛中のシジュウカラとモズの巣立ち雛が観察され、繁殖が確認された。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じである。コースの両側に住宅や工場があるため、範囲外の記録が多くなった。
越冬期調査では、産廃処理上で稼働する重機の音が大きく、復路では交通量も多かった。

生 息 調 査 集 計 表

生 息 調 査 集 計 表								地形図名		下室田c		調査者		奥 浩之			
調 査 年 月 日		R5. 5. 21	R5. 5. 21	R5. 6. 4	R5. 6. 4	R5. 12. 29	R5. 12. 29	繁殖期						越冬期			
調 査 時 間		5 : 40 〃 7 : 15 (95分)	7 : 25 〃 9 : 25 (120分)	5 : 15 〃 7 : 10 (115分)	7 : 20 〃 9 : 20 (120分)	8 : 00 〃 10 : 00 (120分)	10 : 10 〃 12 : 10 (120分)	合 計	平 均	密 度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均	
天 候		曇	曇	晴	晴	晴	晴	Σ①～④	⑦／4	1h当り	1ha当り				Σ⑤～⑥	⑧／2	
種 類 / 結 果		羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	⑦							⑧		
5	キジ	1		1				2	0.50	0.27	0.03	0.5	1.5	B			
	カルガモ	4	○					4	1.00	0.53	0.05	0.9	3.1				
	キジバト	11	○	5	1			17	4.25	2.27	0.21	3.8	13.0	B			
	アオサギ	1		1	1			3	0.75	0.40	0.04	0.7	2.3				
	コサギ			1				1	0.25	0.13	0.01	0.2	0.8				
10	ホトトギス			○				○									
	トビ					1									1	0.50	
	ツミ				1			1	0.25	0.13	0.01	0.2	0.8				
	ノスリ		1	1	1		○	3	0.75	0.40	0.04	0.7	2.3		○		
	コゲラ	1	3	○	2	○	4	6	1.50	0.80	0.08	1.4	4.6	B	4	2.00	
15	アカゲラ			1				1	0.25	0.13	0.01	0.2	0.8				
	アオゲラ					1	1								2	1.00	
	サンコウチョウ		2					2	0.50	0.27	0.03	0.5	1.5				
	モズ		2	1		1	1	3	0.75	0.40	0.04	0.7	2.3	A	2	1.00	
	カケス	2		2	3	15	16	7	1.75	0.93	0.09	1.6	5.3		31	15.50	
20	ハシボソガラス		1	2	2	○		5	1.25	0.67	0.06	1.1	3.8	B	○		
	ハシブトガラス	7	3	3		2	1	13	3.25	1.73	0.16	2.9	9.9		3	1.50	
	ヤマガラ	6	8		1	6	6	15	3.75	2.00	0.19	3.4	11.5	B	12	6.00	
	ヒガラ			1				1	0.25	0.13	0.01	0.2	0.8				
	シジュウカラ	26	11	17	8	14	30	62	15.50	8.27	0.78	14.0	47.3	A	44	22.00	
25	ツバメ	3	5	3	8			19	4.75	2.53	0.24	4.3	14.5	B			
	ヒヨドリ	26	37	40	28	38	20	131	32.75	17.47	1.64	29.6	100.0		58	29.00	
	ウグイス	10	14	7	7	3	6	38	9.50	5.07	0.48	8.6	29.0	B	9	4.50	
	ヤブサメ	1	3	2	1			7	1.75	0.93	0.09	1.6	5.3	B			
	エナガ	1	1	2		1	4	4	1.00	0.53	0.05	0.9	3.1		5	2.50	
30	エゾムシクイ			○				○									
	メジロ	1	2	○	3	9	14	6	1.50	0.80	0.08	1.4	4.6	B	23	11.50	
	シロハラ					1	1								2	1.00	
	ツグミ					1	1								2	1.00	
	ジョウビタキ					3	2								5	2.50	
35	キビタキ	2	3	1	3			9	2.25	1.20	0.11	2.0	6.9	B			
	スズメ	3	5	6	5	1		19	4.75	2.53	0.24	4.3	14.5		1	0.50	
	キセキレイ	2	6	2	1	1		11	2.75	1.47	0.14	2.5	8.4	B	1	0.50	
	カワラヒワ					10	2								12	6.00	
	ホオジロ	5	4	7	7	8	10	23	5.75	3.07	0.29	5.2	17.6	B	18	9.00	
40	カシラダカ					7	2								9	4.50	
	アオジ					9	3								12	6.00	
	コジュケイ	2						2	0.50	0.27	0.03	0.5	1.5				
	ガビチョウ	10	2	8	6	6	3	26	6.50	3.47	0.33	5.9	19.8		9	4.50	
	カオジロガビチョウ			2				2	0.50	0.27	0.03	0.5	1.5				
45																	
50																	
計	範囲内	個体数	125	113	116	89	138	127	443	110.75	59.07	5.54				265	132.50
		種 数	21	19	23	19	21	19	30							22	
		全 種 数	21	21	27	19	23	20	32							24	

調 査 地 の 概 況

市町村名	高崎市（旧榛名町）	地形図名	下室田d	調 査 者	葛生 淳一
調査範囲	4 k m（調査距離）× 50 m（幅）＝ 20 ha			調査地の標高	260 ～ 420 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

○ 広葉樹林（自然林・雑木林）

— 針葉樹林（自然林）

◎ 植林地（人工林）

— 草地・草原・ヨシ原

○ 農耕地（田・畑・果樹園）

○ 里山・疎らな民家

— 市街地・工業団地

— 河川湖沼・河川敷

旧榛名町と安中市を隔てる尾根道を巡るコース。尾根周辺にはコナラを中心とした広葉樹林が見られるが、コースの大部分を占める北斜面は平成9年の大規模火災の復興植林としてスギやヒノキが植えられている。山麓部はほとんどがウメ果樹園となっている。人家はほとんどなく、交通量もごく少ない。水場は小規模な沢があるものの全体に乏しい。食餌植物も植林地や果樹園では少ない。

今回の調査で繁殖が確認された種はなかった。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じである。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

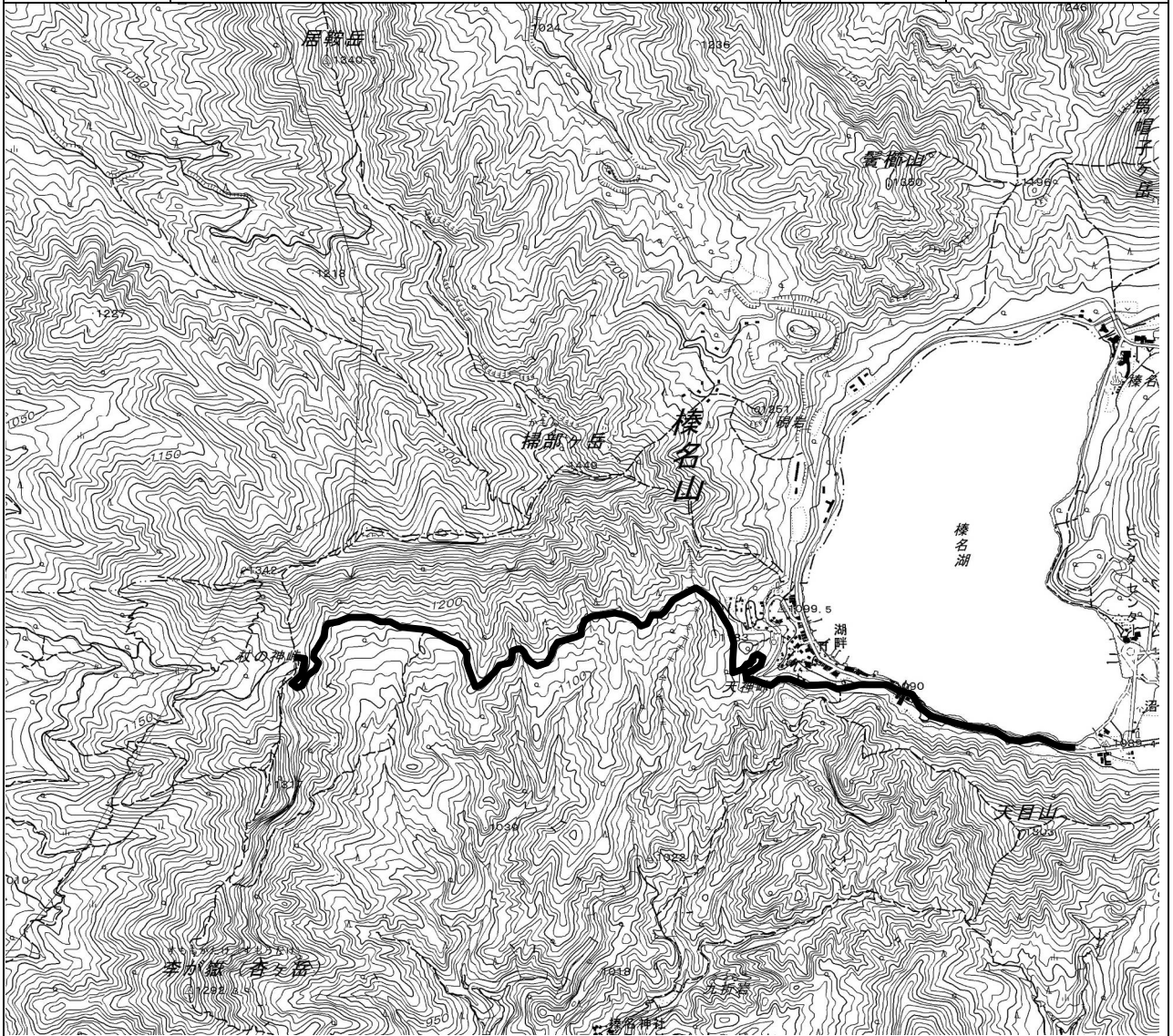
下室田d

調査者

葛生 淳一

調 査 年 月 日			R5. 5. 22	R5. 5. 22	R5. 6. 20	R5. 6. 20	R5. 12. 8	R5. 12. 8	繁殖期								越冬期	
			5 : 00 ㄱ	7 : 10 ㄱ	5 : 10 ㄱ	7 : 20 ㄱ	8 : 55 ㄱ	11 : 00 ㄱ	合 計	平 均 (125分)	密度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均 (113分)	
調 査 時 間			7 : 00 (120分)	9 : 15 (125分)	7 : 10 (120分)	9 : 35 (135分)	10 : 50 (115分)	12 : 50 (110分)	㉑㉒~㉔	㉗ / 4	1h当り	1ha当り				㉑㉒~㉔	㉗~㉔	㉑㉒~㉔
天 候			晴	晴	曇	曇	晴	晴	㉑㉒~㉔	㉗ / 4	1h当り	1ha当り	㉑㉒~㉔	㉗~㉔	㉑㉒~㉔	㉗~㉔		
種 類 / 結 果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	㉑㉒~㉔	㉗ / 4	1h当り	1ha当り	㉑㉒~㉔	㉗~㉔	㉑㉒~㉔	㉗~㉔		
			㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗									
5	キジ		3		1				4	1.00	0.48	0.05	1.1	5.1				
	キジバト		3	1	4	1	1		9	2.25	1.08	0.11	2.5	11.4	1	0.50		
	アオバト		4	2	1				7	1.75	0.84	0.09	2.0	8.9	B			
	ホトトギス		2	1	1	1			5	1.25	0.60	0.06	1.4	6.3	B			
	トビ							4							4	2.00		
10	オオタカ		2						2	0.50	0.24	0.03	0.6	2.5				
	ノスリ							1							1	0.50		
	コゲラ		4		2	4	5	4	10	2.50	1.20	0.13	2.8	12.7	9	4.50		
	アオゲラ		1		1				2	0.50	0.24	0.03	0.6	2.5				
	サンコウチョウ				1				1	0.25	0.12	0.01	0.3	1.3				
15	モズ						1	1							2	1.00		
	カケス						1	2							3	1.50		
	ハシボソガラス			3				1	3	0.75	0.36	0.04	0.8	3.8	1	0.50		
	ハシブトガラス		1	3	2	1	1	4	7	1.75	0.84	0.09	2.0	8.9	5	2.50		
	ヤマガラ			1	1	6	9	8	8	2.00	0.96	0.10	2.3	10.1	17	8.50		
20	シジュウカラ		11	6	7	4	8	8	28	7.00	3.36	0.35	7.9	35.4	B	16	8.00	
	ヒヨドリ		16	20	23	20	27	28	79	19.75	9.48	0.99	22.3	100.0		55	27.50	
	ウグイス		9	9	8	10		5	36	9.00	4.32	0.45	10.2	45.6	B	5	2.50	
	ヤブサメ		4	6	3	5			18	4.50	2.16	0.23	5.1	22.8	B			
	エナガ			2			12	11	2	0.50	0.24	0.03	0.6	2.5		23	11.50	
25	メジロ		11	12	11	13	18	15	47	11.75	5.64	0.59	13.3	59.5	B	33	16.50	
	クロツグミ		2	2	2	2			8	2.00	0.96	0.10	2.3	10.1	B			
	ルリビタキ							3							3	1.50		
	ジョウビタキ						4	2							6	3.00		
	キビタキ		6	5	6	4			21	5.25	2.52	0.26	5.9	26.6	B			
30	オオルリ			1	1				2	0.50	0.24	0.03	0.6	2.5				
	スズメ			1		4			5	1.25	0.60	0.06	1.4	6.3				
	カワラヒワ		1	3	2	4	1	1	10	2.50	1.20	0.13	2.8	12.7		2	1.00	
	ホオジロ		2				2		2	0.50	0.24	0.03	0.6	2.5		2	1.00	
	カシラダカ						25	7							32	16.00		
35	コジュケイ		2	1		2			5	1.25	0.60	0.06	1.4	6.3	B			
	ガビチョウ		9	5	11	8	4		33	8.25	3.96	0.41	9.3	41.8	B	4	2.00	
40																		
45																		
50																		
計	範 囲 内	個 体 数	93	84	88	89	119	105	354	88.50	42.48	4.43				224	112.00	
		種 数	19	19	19	16	15	17	25							20		
		全 種 数	19	19	19	16	15	17	25							20		

市町村名	高崎市（旧榛名町）	地形図名	榛名湖a	調 査 者	大島 孝之
調査範囲	4 k m（調査距離）×50m（幅）＝20ha			調査地の標高	1090 ～ 1220 m

調査コース

◎	広葉樹林（自然林・雑木林）	榛名湖東岸から天神峠までは県道渋川松井田線歩道部で、天神峠からは林道杖の神峠線を通り杖の神峠までのコース。周辺はほとんどがコナラやハンノキなどの広葉樹林であるが、カラマツやスギ、ヒノキなどの植林地もある。林道には小さな涸れ沢は多いが水場は多くない。ツルウメモドキやサルナシなどの食餌植物も多い。 今回の調査では、育雛中のヤマガラが観察され、繁殖が確認された。
—	針葉樹林（自然林）	
○	植林地（人工林）	
—	草地・草原・ヨシ原	
—	農耕地（田・畑・果樹園）	
○	里山・疎らな民家	
—	市街地・工業団地	
○	河川湖沼・河川敷	← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

調査コースは前回と同じである。繁殖期2日目は、気温が上がるとエゾハルゼミが鳴き始め、鳥の声を聞き取りにくくなった。

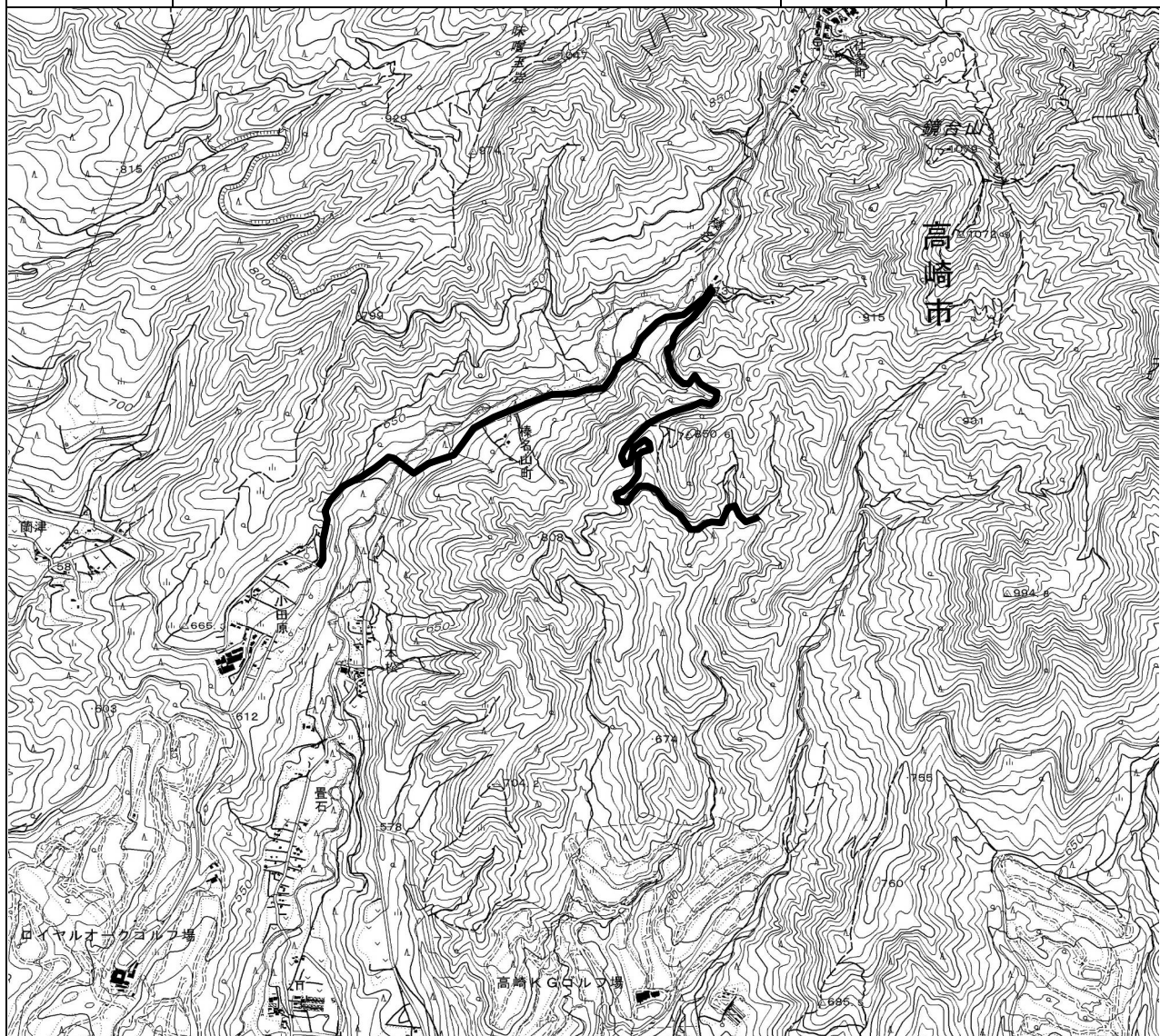
生 息 調 査 集 計 表

地形図名	榛名湖a	調査者	大島 孝之
------	------	-----	-------

調 査 年 月 日			R5. 5. 25	R5. 5. 25	R5. 5. 13	R5. 5. 13	R5. 12. 18	R5. 12. 18	繁殖期						越冬期		
調 査 時 間			4 : 30 ＼ 6 : 20 (110分)	6 : 30 ＼ 8 : 20 (110分)	4 : 55 ＼ 6 : 40 (105分)	6 : 50 ＼ 8 : 30 (100分)	7 : 45 ＼ 9 : 40 (115分)	9 : 50 ＼ 11 : 50 (120分)	合 計	平 均 (106分)	密 度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均 (118分)
天 候			晴	曇	晴	晴	晴	晴	Σ①～④	⑦／4	1h当り	1ha当り				Σ⑤～⑥	⑧／2
種 類 ／ 結 果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	Σ①～④	⑦／4	1h当り	1ha当り				Σ⑤～⑥	⑧／2
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦						⑧		
ヤマドリ					9		1		9	2.25	1.27	0.11	3.9	26.5		1	0.50
キジ			○		○				○								
オカヨシガモ								○							○		
マガモ								○							○		
5 カルガモ							○								○		
ホシハジロ							○	○							○		
キンクロハジロ							○	○							○		
ミコアイサ								○							○		
カイツブリ								○							○		
10 カンムリカイツブリ								○							○		
キジバト			2	○	1	○			3	0.75	0.42	0.04	1.3	8.8	B		
アオバト				1		○			1	0.25	0.14	0.01	0.4	2.9			
アオサギ			3						3	0.75	0.42	0.04	1.3	8.8			
オオバン								○							○		
5 ジュウイチ			○						○								
ホトトギス			○	○	○	○			○						B		
ツツドリ			○	○					○								
ハチクマ					1				1	0.25	0.14	0.01	0.4	2.9			
トビ			○	○	2				2	0.50	0.28	0.03	0.9	5.9			
10 コゲラ			2	1	2		1	1	5	1.25	0.71	0.06	2.2	14.7		2	1.00
アカゲラ			1	1	1	1		1	4	1.00	0.56	0.05	1.7	11.8		1	0.50
アオゲラ			○						○								
カケス			2	4	2				8	2.00	1.13	0.10	3.5	23.5			
ハシボソガラス			○		1	1			2	0.50	0.28	0.03	0.9	5.9			
5 ハシブトガラス			1	○	1	1	○	1	3	0.75	0.42	0.04	1.3	8.8		1	0.50
コガラ				2	2		5	10	4	1.00	0.56	0.05	1.7	11.8		15	7.50
ヤマガラ			4	2	2	1	3	2	9	2.25	1.27	0.11	3.9	26.5	A	5	2.50
ヒガラ			3	3	6	3	7	14	15	3.75	2.12	0.19	6.6	44.1	B	21	10.50
シジュウカラ			9	9	9	7	4	7	34	8.50	4.80	0.43	14.8	100.0	B	11	5.50
10 ヒヨドリ			8	4	4	7	2	6	23	5.75	3.25	0.29	10.0	67.6		8	4.00
ウグイス			6	4	2	4		2	16	4.00	2.26	0.20	7.0	47.1	B	2	1.00
ヤブサメ			1			1			2	0.50	0.28	0.03	0.9	5.9	B		
エナガ			1	4	16		14		21	5.25	2.96	0.26	9.2	61.8	B	14	7.00
センダイムシクイ			4	7	12	6			29	7.25	4.09	0.36	12.7	85.3	B		
5 メジロ			○	1	3				4	1.00	0.56	0.05	1.7	11.8	B		
ゴジュウカラ			○	1				○	1	0.25	0.14	0.01	0.4	2.9		○	
ミソサザイ						1			1	0.25	0.14	0.01	0.4	2.9			
クロツグミ			○	○					○								
アカハラ				○					○								
10 ツグミ							2	○								2	1.00
コルリ				○					○								
ジョウビタキ							1									1	0.50
コサメビタキ			1						1	0.25	0.14	0.01	0.4	2.9			
5 キビタキ			○	2	4	4			10	2.50	1.41	0.13	4.4	29.4	B		
オオルリ			1	1	1	○			3	0.75	0.42	0.04	1.3	8.8	B		
キセキレイ			2			2			4	1.00	0.56	0.05	1.7	11.8			
セグロセキレイ			1						1	0.25	0.14	0.01	0.4	2.9			
アトリ								28								28	14.00
カワラヒワ					2				2	0.50	0.28	0.03	0.9	5.9			
10 マヒワ							12	36								48	24.00
ウソ								4								4	2.00
シメ							1									1	0.50
イカル			1	1	1				3	0.75	0.42	0.04	1.3	8.8	B		
ホオジロ			1	1	○		1		2	0.50	0.28	0.03	0.9	5.9	B	1	0.50
5 アオジ				○					○								
ガビチョウ			1	○	2				3	0.75	0.42	0.04	1.3	8.8	B		
計	範 囲 内	個 体 数	55	49	86	39	54	112	229	57.25	32.33	2.86				166	83.00
		種 数	21	18	23	13	13	12	32							18	
		全 種 数	32	28	26	17	17	22	41							28	

調 査 地 の 概 況

市町村名	高崎市（旧榛名町）	地形図名	榛名湖b	調 査 者	山田 典彦
調査範囲	4 k m（調査距離）×50m（幅）=20ha			調査地の標高	640 ～ 800 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

☐ 広葉樹林（自然林・雑木林）☐ 針葉樹林（自然林）☒ 植林地（人工林）☐ 草地・草原・ヨシ原☐ 農耕地（田・畑・果樹園）☐ 里山・疎らな民家☐ 市街地・工業団地☐ 河川湖沼・河川敷

榛名山西麓の集落から榛名川に沿って上流へ向かうコースである。コースの西半分は主にスギ、一部にカラマツを含む人工林である。東半分は榛名川から離れ、林道へ入る。コース周辺は主に落葉広葉樹の二次林である。コース上に人家はない。榛名川は水量が多いが、林道に入ると涸れ沢となる。全体的に傾斜地や崖地が多く、下草が生える雑木林もあるため、食餌植物は少ない。

今回の調査で繁殖が確認された種はなかった。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じである。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

榛名湖b

調査者

山田 典彦

調 査 年 月 日		R5. 5. 25	R5. 5. 25	R5. 6. 15	R5. 6. 15	R5. 12. 19	R5. 12. 19	繁殖期							越冬期	
調 査 時 間		5 : 50 〃 7 : 50 (120分)	8 : 00 〃 10 : 00 (120分)	5 : 00 〃 7 : 00 (120分)	7 : 10 〃 9 : 10 (120分)	8 : 00 〃 10 : 00 (120分)	10 : 05 〃 12 : 00 (115分)	合 計	平 均	密度		種 優 占 度	相 対 出 現 頻 度	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均
天 候		晴	晴	曇	曇	曇	曇	Σ①~④	⑦ / 4	1h当り	1ha当り	(%)	(%)		Σ⑤~⑥	⑧ / 2
種 類 / 結 果		羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	⑦							⑧	
5	ヤマドリ	2						2	0.50	0.25	0.03	1.9	6.5			
	キジ				○			○								
	キジバト	2	1	3	4			10	2.50	1.25	0.13	9.5	32.3	B		
	アオバト	○	○	○	○			○						B		
	ホトトギス			1	○			1	0.25	0.13	0.01	1.0	3.2			
10	トビ				○			○								
	ノスリ					○									○	
	コゲラ					3	2								5	2.50
	アカゲラ			1	2			3	0.75	0.38	0.04	2.9	9.7			
	モズ		1		1			2	0.50	0.25	0.03	1.9	6.5			
15	カケス	2	3	4	3	1	2	12	3.00	1.50	0.15	11.4	38.7		3	1.50
	ハシブトガラス		2	1	1	○	1	4	1.00	0.50	0.05	3.8	12.9		1	0.50
	ヤマガラ	1				3	2	1	0.25	0.13	0.01	1.0	3.2		5	2.50
	ヒガラ		○			14	15	○							29	14.50
	シジュウカラ			1		2	3	1	0.25	0.13	0.01	1.0	3.2		5	2.50
20	ヒヨドリ	2	4	12	13	3	3	31	7.75	3.88	0.39	29.5	100.0		6	3.00
	ウグイス	5	5	3	4			17	4.25	2.13	0.21	16.2	54.8	B		
	エナガ	1				20	20	1	0.25	0.13	0.01	1.0	3.2		40	20.00
	ミソサザイ						1								1	0.50
	カワガラス				1			1	0.25	0.13	0.01	1.0	3.2			
25	トラツグミ	○	○	1				1	0.25	0.13	0.01	1.0	3.2	B		
	クロツグミ			1	1			2	0.50	0.25	0.03	1.9	6.5			
	キビタキ	○	1	1	2			4	1.00	0.50	0.05	3.8	12.9	B		
	オオルリ		○					○								
	キセキレイ	1						1	0.25	0.13	0.01	1.0	3.2			
30	アトリ					3	1								4	2.00
	カワラヒワ					3									3	1.50
	マヒワ						40								40	20.00
	ウソ					○									○	
	イカル	2	2					4	1.00	0.50	0.05	3.8	12.9			
35	ホオジロ	2		1	3			6	1.50	0.75	0.08	5.7	19.4			
	カシラダカ					4	1								5	2.50
	ガビチョウ		○	1				1	0.25	0.13	0.01	1.0	3.2			
40																
45																
50																
計	範囲内	20	19	31	35	56	91	105	26.25	13.13	1.31				147	73.50
	個体数	10	8	13	11	10	12	20							13	
	種 数	13	13	14	15	13	12	25							15	

高崎市（旧倉渕村）鳥類生息密度調査結果

1. 調査地の環境

高崎市（旧倉渕村）に含まれる調査地は下表の 5 メッシュで、標高からは三ノ倉 a・c、榛名湖 d が低山帯に、浅間隠山 b・d が山地帯に属する。調査コースは集落と植林地、雑木林を中心とするコース（三ノ倉 a・c、榛名湖 d）と山間部の林道を主体とするコース（浅間隠山 b・d）である。全メッシュで調査コースは前回と同じであり、環境にも大きな変化はみられなかった。

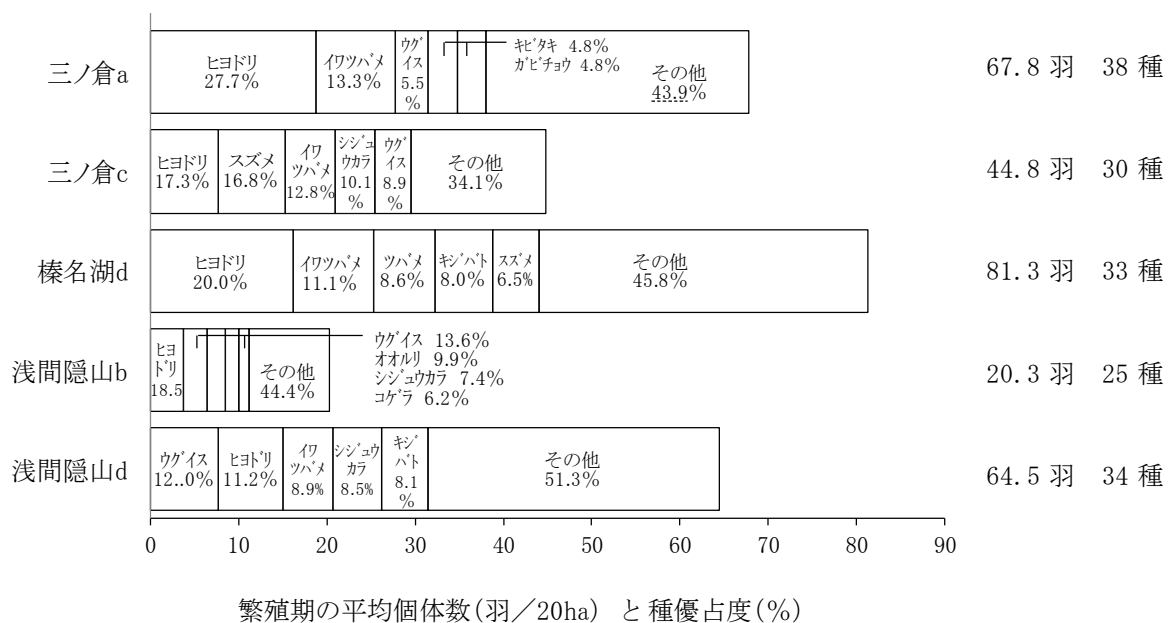
調査メッシュ	標高	環境要素								調査コース
		広葉樹林	針葉樹林	植林地	草地草原	農耕地	里山集落	市街地	河川湖沼	
三ノ倉a	320 ～ 500	◎	—	○	—	○	○	—	—	前回と同じ
三ノ倉c	400 ～ 480	○	—	◎	—	○	○	—	○	前回と同じ
榛名湖d	470 ～ 680	○	—	◎	—	○	◎	—	○	前回と同じ
浅間隠山b	640 ～ 960	○	—	◎	—	—	—	—	○	前回と同じ
浅間隠山d	790 ～ 1070	◎	—	○	—	—	—	—	○	前回と同じ

2. 調査結果と考察

今年度の調査では、繁殖期に 60 種、越冬期に 47 種、年間では 72 種が記録された。なお、前々回（平成 25 年度実施）は年間 68 種、前回（平成 30 年度実施）は年間 71 種が記録されている。

(1) 繁殖期

繁殖期の調査結果は下図のとおりである。集落が含まれる三ノ倉 c と榛名湖 d ではスズメやツバメが優占種に入ったが、その他はヒヨドリやウグイス、シジュウカラといった森



林性の種が優占した。今回の調査地域全体の平均と比較すると、三ノ倉 a の種数がやや多く、三ノ倉 c と浅間隠山 b の個体数が少なかったが、他は平均的な値であった。特筆すべき種として、群馬県版 RDB に掲載されているアカショウビン、ハイタカ、ジュウイチ、カッコウ、コマドリ、ノジコなど合計 11 種と、環境省の特定外来生物に指定されているガビチョウが記録された。このうち、RDB 掲載種の記録が多かった浅間隠山 d は、良好な環境が残されていることが示唆された。一方、ガビチョウは最も標高が高い浅間隠山 d を除く範囲に分布を拡大しており、今後は在来種への影響が危惧される。

(2) 越冬期

越冬期の優占種は下表のとおりである。今回の調査地域全体の平均と比較すると、三ノ倉 a と浅間隠山 d の種数がやや多く、三ノ倉 c の種数・個体数が少なかったが、他は平均的な値であった。繁殖期同様、集落がある榛名湖 d ではスズメが優占したが、全体的にはカラ類やヒヨドリなど森林性の種が優占した。また、冬鳥のマヒワやツグミ、アトリが優占種の上位に入った。RDB 掲載種はコサギ、オオタカ、カシラダカ、クロジが記録され、特定外来生物のガビチョウが標高の低いメッシュでは越冬期にも記録された。

調査メッシュ	優占種（上位 5 種*）					平均個体数 (羽/20ha)	種数 (種)
	1位	2位	3位	4位	5位		
三ノ倉a	シジュウカラ	ヒヨドリ	ヤマガラ	カケス	ベニマシコ	74.5	31
三ノ倉c	シジュウカラ	ヒヨドリ	カケス	メジロ	キジバト	24.0	16
榛名湖d	スズメ	ヒヨドリ	カワラヒワ	キジバト	シジュウカラ	91.0	26
浅間隠山b	マヒワ	ヒヨドリ	シジュウカラ	ヤマガラ	カケス	76.0	20
浅間隠山d	マヒワ	シジュウカラ	ツグミ	アトリ	ウグイス	66.5	30

* 同率の場合は分類順に5種まで掲載

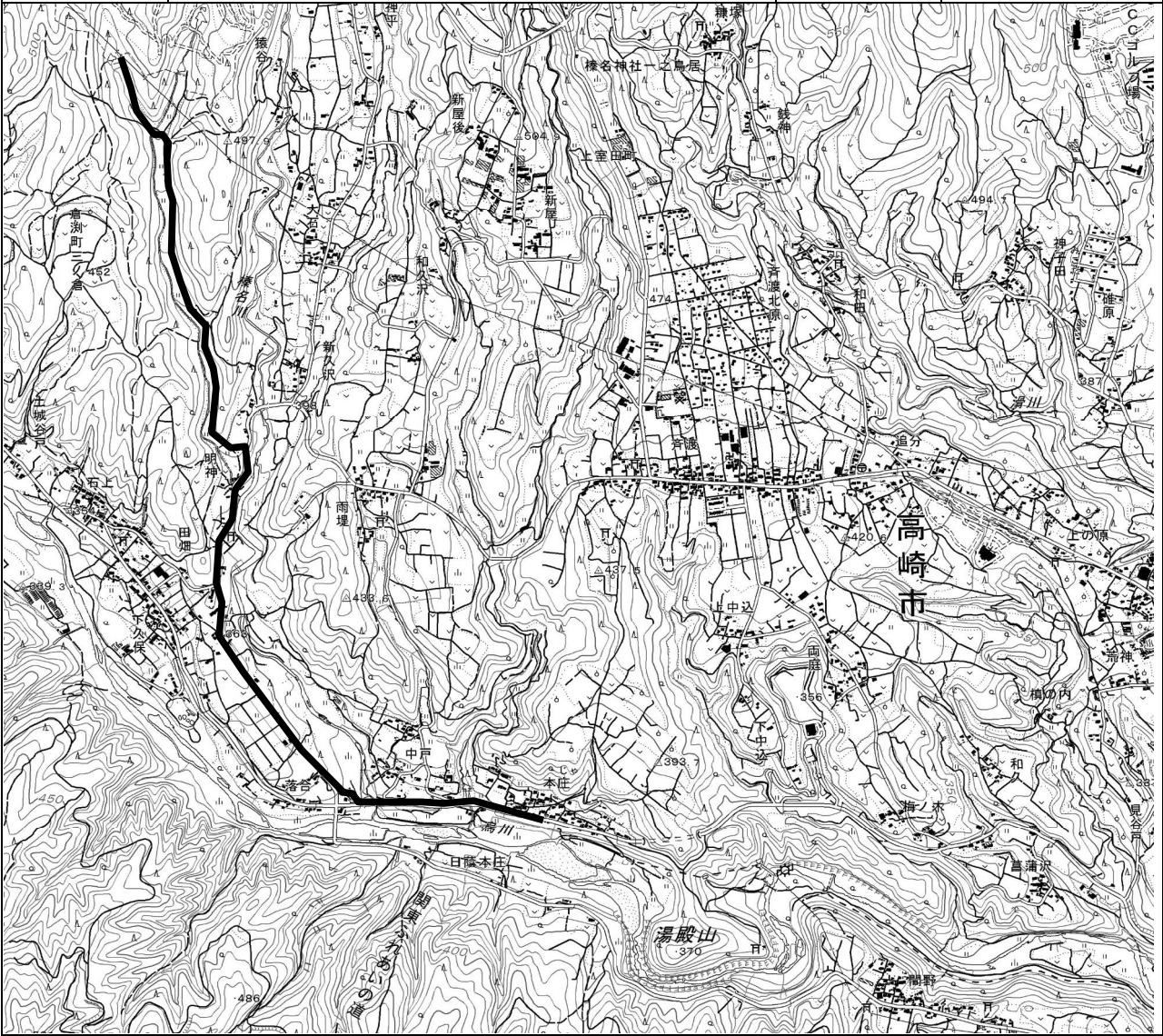
(3) 過去の調査結果との比較

直近 3 回分の調査結果は下表のとおりである。メッシュにより種数や個体数に変動がみられるが、旧倉渕村全体でみると特に大きな変化はなかった。過去 2 回の調査で記録が無く今回新たに記録された種は、ダイサギ、アカショウビン、オオヨシキリ、クロジの 4 種であった。一方、過去 2 回とも記録があるのに今回記録されなかったのは、オナガの 1 種であった。このうち、オナガは県内の分布が縮小し個体数も減少している。特に標高が高い地域で顕著であるが、原因は不明である。

調査メッシュ	繁殖期						越冬期					
	種数(種)			平均個体数(羽/20ha)			種数(種)			平均個体数(羽/20ha)		
	H25	H30	R5	H25	H30	R5	H25	H30	R5	H25	H30	R5
三ノ倉a	36	34	38	82.0	79.8	67.8	25	28	31	159.5	156.5	74.5
三ノ倉c	33	26	30	72.0	27.5	44.8	28	13	16	178.0	19.0	24.0
榛名湖d	34	32	33	63.3	74.5	81.3	11	30	26	52.5	140.5	91.0
浅間隠山b	30	28	25	48.0	42.5	20.3	17	19	20	33.5	43.0	76.0
浅間隠山d	38	38	34	100.0	69.3	64.5	22	23	30	51.5	86.0	66.5

調 査 地 の 概 況

市町村名	高崎市（旧倉渕村）	地形図名	三ノ倉a	調 査 者	一倉 行雄
調査範囲	4 k m（調査距離）×50 m（幅）=20ha			調査地の標高	320 ～ 500 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）		調査コース 
◎	広葉樹林（自然林・雑木林）	榛名川沿いの比較的平坦な調査地で、南側半分には人家や田畑が点在しているのに対し、北側半分には雑木林と植林地が広がっている。北側半分の耕作地は利用されていないところが多く、一部は藪になっていて野鳥の生息地になっているところもある。農耕地や藪、榛名川があるため、餌場や水場は豊富である。 今回の調査では、営巣中のツバメが観察され、繁殖が確認された。 ← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。
—	針葉樹林（自然林）	
○	植林地（人工林）	
—	草地・草原・ヨシ原	
○	農耕地（田・畑・果樹園）	
○	里山・疎らな民家	
—	市街地・工業団地	
—	河川湖沼・河川敷	
<備考> 調査コースは前回と同じである。		

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

三ノ倉a

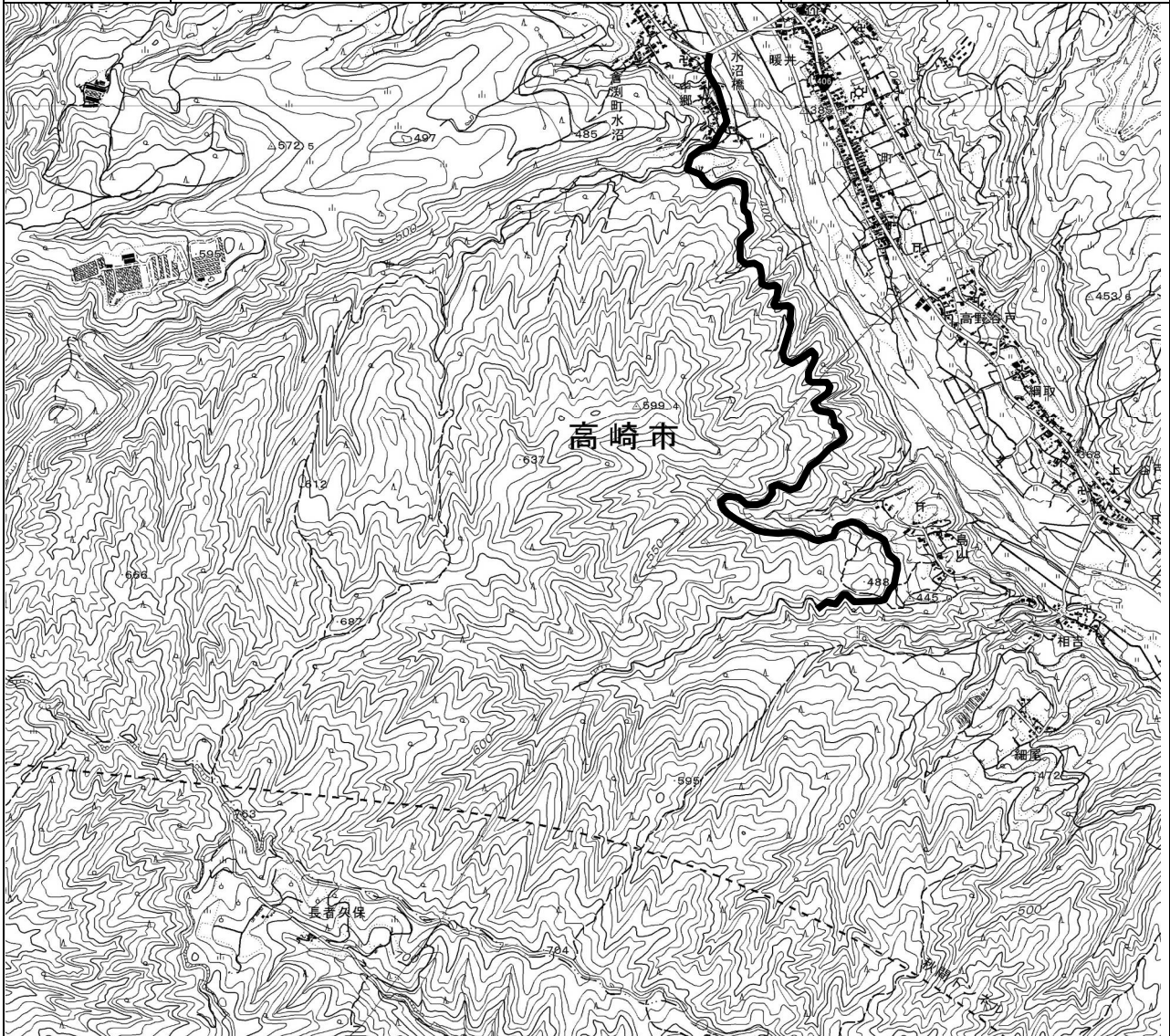
調査者

一倉 行雄

調 査 年 月 日			R5. 5. 22	R5. 5. 22	R5. 6. 5	R5. 6. 5	R5. 12. 9	R5. 12. 9	繁殖期							越冬期	
調 査 時 間			6：15 ＼ 7：45 (90分)	7：50 ＼ 9：30 (100分)	5：50 ＼ 7：20 (90分)	7：25 ＼ 9：00 (95分)	7：50 ＼ 9：45 (115分)	9：50 ＼ 11：35 (105分)	合 計	平 均 (94分)	密度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均 (110分)
天 候			曇	晴	晴	晴	晴	晴			1h当り	1ha当り					
種 類 ／ 結 果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	Σ①～④	⑦／4			1h当り	1ha当り	Σ⑤～⑥	⑧／2	
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦					⑧			
5	ヤマドリ				8				8	2.00	1.28	0.10	3.0	10.7			
	キジ		1		1				2	0.50	0.32	0.03	0.7	2.7	B		
	カルガモ				1				1	0.25	0.16	0.01	0.4	1.3			
	キジバト		3	2	2	1		3	8	2.00	1.28	0.10	3.0	10.7	B	3	1.50
	アオバト			1		1			2	0.50	0.32	0.03	0.7	2.7	B		
10	アオサギ						1	1								2	1.00
	コサギ				1				1	0.25	0.16	0.01	0.4	1.3			
	ホトトギス			1	○				1	0.25	0.16	0.01	0.4	1.3	B		
	トビ			3		4			7	1.75	1.12	0.09	2.6	9.3			
	ハイタカ			1					1	0.25	0.16	0.01	0.4	1.3			
15	オオタカ							1								1	0.50
	ノスリ		1				1		1	0.25	0.16	0.01	0.4	1.3		1	0.50
	アカショウビン				○				○								
	コゲラ		1				1		1	0.25	0.16	0.01	0.4	1.3		1	0.50
	アカゲラ						1									1	0.50
20	アオゲラ		1	2			1		3	0.75	0.48	0.04	1.1	4.0		1	0.50
	サンショウクイ		1	2					3	0.75	0.48	0.04	1.1	4.0			
	サンコウチョウ		1						1	0.25	0.16	0.01	0.4	1.3			
	モズ		2		1	1	2	3	4	1.00	0.64	0.05	1.5	5.3		5	2.50
	カケス		1				5	4	1	0.25	0.16	0.01	0.4	1.3		9	4.50
25	ハシボソガラス		1	2	1	1	1	1	5	1.25	0.80	0.06	1.8	6.7		2	1.00
	ハシブトガラス		○	1	1	1	2	4	3	0.75	0.48	0.04	1.1	4.0		6	3.00
	ヤマガラ		1	1	1		7	6	3	0.75	0.48	0.04	1.1	4.0	B	13	6.50
	ヒガラ						2									2	1.00
	シジュウカラ		6	2		4	18	7	12	3.00	1.92	0.15	4.4	16.0	B	25	12.50
30	ツバメ		3	2					5	1.25	0.80	0.06	1.8	6.7	A		
	イワツバメ		10	10	10	6			36	9.00	5.76	0.45	13.3	48.0			
	ヒヨドリ		20	20	17	18	11	12	75	18.75	12.00	0.94	27.7	100.0	B	23	11.50
	ウグイス		4	5	2	4		1	15	3.75	2.40	0.19	5.5	20.0	B	1	0.50
	ヤブサメ			2		1			3	0.75	0.48	0.04	1.1	4.0	B		
35	メジロ		1				1		1	0.25	0.16	0.01	0.4	1.3		1	0.50
	ツグミ						1									1	0.50
	ルリビタキ						2	2								4	2.00
	ジョウビタキ						2									2	1.00
	キビタキ		3	3	4	3			13	3.25	2.08	0.16	4.8	17.3	B		
40	オオルリ			1					1	0.25	0.16	0.01	0.4	1.3			
	カヤクグリ						2									2	1.00
	スズメ			1	1	2	6		4	1.00	0.64	0.05	1.5	5.3		6	3.00
	キセキレイ		1	4	3		1		8	2.00	1.28	0.10	3.0	10.7		1	0.50
	ハクセキレイ						3	1								4	2.00
45	セグロセキレイ			1			1	1	1	0.25	0.16	0.01	0.4	1.3		2	1.00
	カワラヒワ		3	2	1	4	2		10	2.50	1.60	0.13	3.7	13.3	B	2	1.00
	ベニマシコ						8									8	4.00
	イカル		3	2	1	1			7	1.75	1.12	0.09	2.6	9.3	B		
	ホオジロ		1	2	1	2	2	4	6	1.50	0.96	0.08	2.2	8.0	B	6	3.00
50	カシラダカ						2	5								7	3.50
	アオジ		1				3	1	1	0.25	0.16	0.01	0.4	1.3		4	2.00
	コジュケイ		2	1		1			4	1.00	0.64	0.05	1.5	5.3			
	ガビチョウ		5	4	2	2	1	2	13	3.25	2.08	0.16	4.8	17.3	B	3	1.50
計	範囲内	個体数	77	78	59	57	90	59	271	67.75	43.36	3.39				149	74.50
		種 数	25	26	19	18	28	18	37							31	
		全 種 数	26	26	21	18	28	18	38							31	

調 査 地 の 概 況

市町村名	高崎市（旧倉渕村）	地形図名	三ノ倉c	調 査 者	塚越 徹
調査範囲	4 k m（調査距離）× 50 m（幅）＝ 20 ha			調査地の標高	400 ～ 480 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

○ 広葉樹林（自然林・雑木林）

－ 針葉樹林（自然林）

◎ 植林地（人工林）

－ 草地・草原・ヨシ原

○ 農耕地（田・畑・果樹園）

○ 里山・疎らな民家

－ 市街地・工業団地

○ 河川湖沼・河川敷

烏川右岸の水沼橋を起点とする林道を中心とするコースである。主にスギとヒノキの植林地であるが、谷筋にわずかに雑木林がある。中郷の集落付近には農耕地（水田と畑）があり、島田の集落周辺には農耕地（畑）と竹林がある。コースを横切る沢がいくつかあるが、水量は多くない。

今回の調査で繁殖が確認された種はなかった。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じである。6月にニホンジカ1頭、12月にキツネ1頭を観察した。

地形图名

三ノ倉c

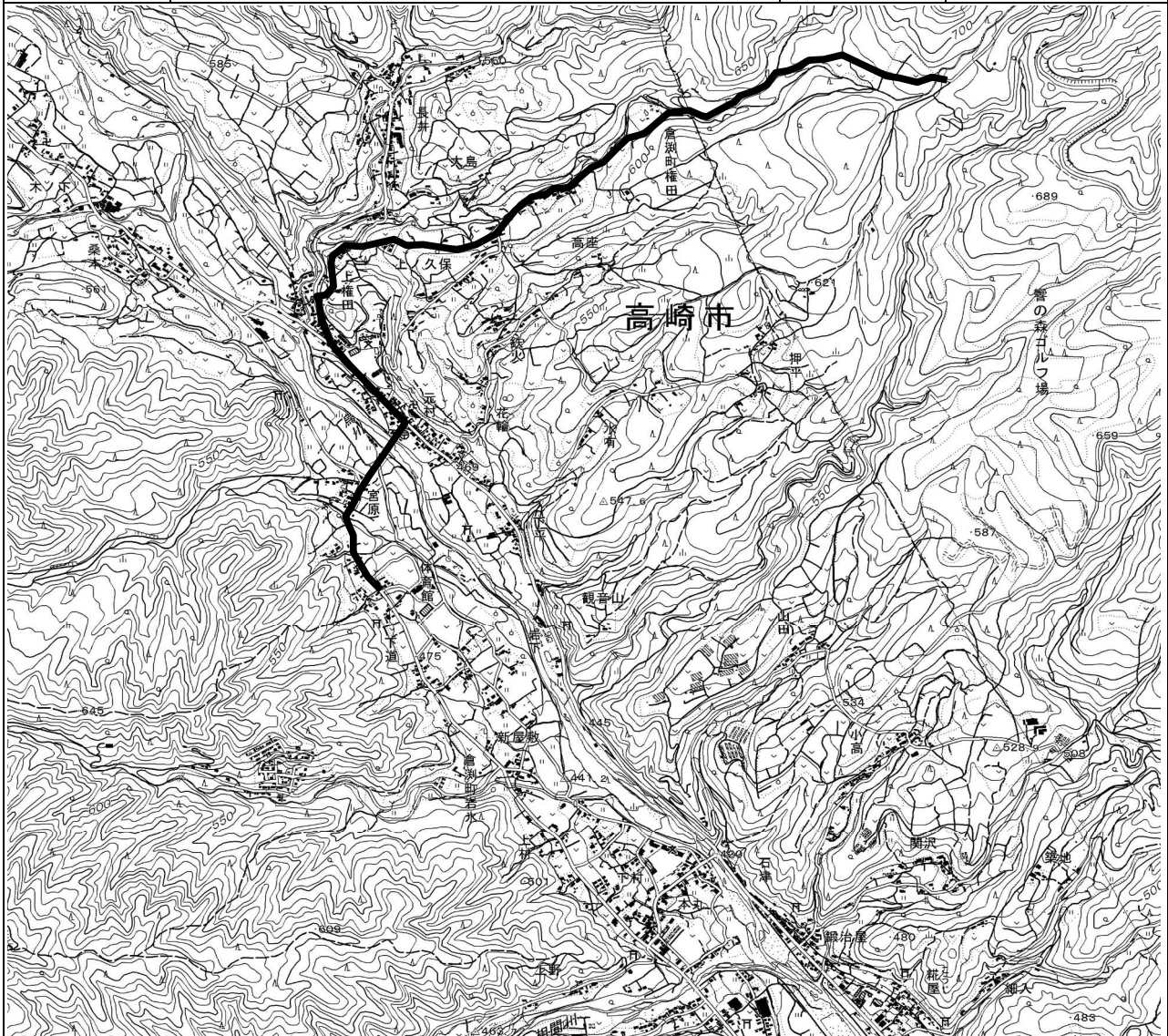
調査者

塚越 徹

-75-

調 査 地 の 概 況

市町村名	高崎市（旧倉渕村）	地形図名	榛名湖d	調 査 者	五十嵐 寛
調査範囲	4 k m（調査距離）×50 m（幅）=20ha			調査地の標高	470 ～ 680 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

☐	広葉樹林（自然林・雑木林）	河川脇の国道と、それに繋がる県道沿いに集落がある。植林された山肌が道路近くまで迫り、平地は少ない。小規模だが水田があり、わずかに畑もみられる。林道に入ると暗い杉林となり、少し開けた所は畑に活用されている。イノシシやシカなどへの対策が行われている。食餌植物は多くないが、釣り堀や養魚場のある沢もあり、水場には恵まれている。養魚場ではビニールハウスのように覆われている生簀もあり、サギ類の食害が推測された。今回の調査では、営巣中のツバメが記録され、繁殖が確認された。
☐	針葉樹林（自然林）	
☒	植林地（人工林）	
☐	草地・草原・ヨシ原	
☐	農耕地（田・畑・果樹園）	
☒	里山・疎らな民家	
☐	市街地・工業団地	
☐	河川湖沼・河川敷	← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じである。繁殖期1日目にコース中間地点付近でサルの群れを、繁殖期2日目にはカモシカを観察した。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

榛名湖d

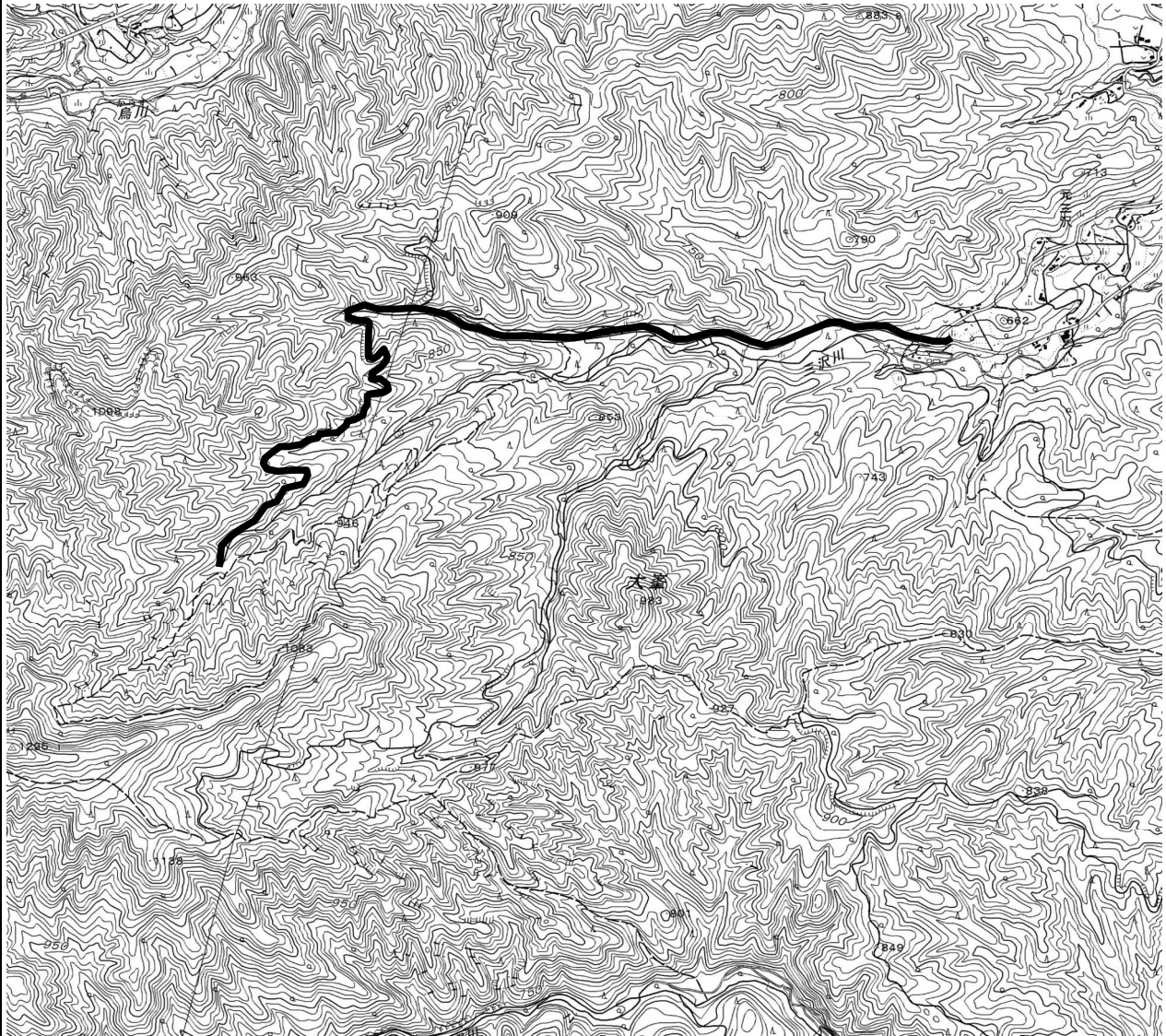
調査者

五十嵐 寛

調査年月日										繁殖期								越冬期	
調査時間			R5. 5. 27 5:55 7:50 (115分)	R5. 5. 27 8:00 9:50 (110分)	R5. 6. 10 5:00 6:50 (110分)	R5. 6. 10 7:00 8:50 (110分)	R5. 12. 8 6:55 8:45 (110分)	R5. 12. 8 8:55 10:50 (115分)	合計	平均 (111分)	密度		種優 占度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁殖 可能性 ラン ク	合計	平均 (113分)		
天候			晴	晴	曇	曇	晴	晴	Σ①～④	⑦／4	1h当り	1ha当り				Σ⑤～⑥	⑧／2		
種類／結果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	⑦							⑧			
5				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦									
	キジ			○	○	2	1			3	0.75	0.40	0.04	0.9	4.6	B			
	キジバト			9	5	9	3	13	2	26	6.50	3.51	0.33	8.0	40.0		15		
	アオバト					○				○									
	アオサギ				1	1	1			3	0.75	0.40	0.04	0.9	4.6				
10	ダイサギ			○			○	○		○						○			
	ホトトギス			○	1	○	1			2	0.50	0.27	0.03	0.6	3.1	B			
	ツツドリ					○				○									
	トビ				1		1		2	2	0.50	0.27	0.03	0.6	3.1		2		
	ノスリ					1			1	1	0.25	0.13	0.01	0.3	1.5		1		
15	コゲラ			1		1	1		1	3	0.75	0.40	0.04	0.9	4.6		1		
	アカゲラ							1	1							2	1.00		
	モズ			3	2	3	1			9	2.25	1.21	0.11	2.8	13.8				
	カケス			1	○	○		3	○	1	0.25	0.13	0.01	0.3	1.5		3		
	ハシボソガラス			2		3		3	1	5	1.25	0.67	0.06	1.5	7.7		4		
20	ハシブトガラス			2	4	○	○	○	○	6	1.50	0.81	0.08	1.8	9.2		○		
	ヤマガラ			3	3	3	1	2	5	10	2.50	1.35	0.13	3.1	15.4	B	7		
	ヒガラ								5							5	2.50		
	シジュウカラ			5	2	3	2	3	11	12	3.00	1.62	0.15	3.7	18.5	B	14		
	ツバメ			3	10	8	7			28	7.00	3.78	0.35	8.6	43.1	A			
25	イワツバメ			12	6	13	5			36	9.00	4.85	0.45	11.1	55.4				
	ヒヨドリ			14	25	14	12	16	11	65	16.25	8.76	0.81	20.0	100.0		27		
	ウグイス			1	2	○	3	1	1	6	1.50	0.81	0.08	1.8	9.2	B	2		
	メジロ					1			2	1	0.25	0.13	0.01	0.3	1.5		2		
	ムクドリ			6	2		1	○		9	2.25	1.21	0.11	2.8	13.8		○		
30	カワガラス								2							2	1.00		
	クロツグミ			1	○	2	○			3	0.75	0.40	0.04	0.9	4.6	B			
	ツグミ							1								1	0.50		
	ジョウビタキ							1	4							5	2.50		
	キビタキ			3	○		1			4	1.00	0.54	0.05	1.2	6.2	B			
35	オオルリ					○				○									
	スズメ			7	4	7	3	33	4	21	5.25	2.83	0.26	6.5	32.3		37		
	キセキレイ			3	3	3	4			13	3.25	1.75	0.16	4.0	20.0	B			
	ハクセキレイ			3	2	3				8	2.00	1.08	0.10	2.5	12.3				
	セグロセキレイ			1	1	2	4	1	4	8	2.00	1.08	0.10	2.5	12.3		5		
40	カワラヒワ			2	3	2	2	20	1	9	2.25	1.21	0.11	2.8	13.8	B	21		
	シメ							4	2							6	3.00		
	ホオジロ			3	4	3	1	2	6	11	2.75	1.48	0.14	3.4	16.9	B	8		
	カシラダカ							12								12	6.00		
	コジュケイ			○	○	○				○						B			
45	ガビチョウ			4	7	5	4	○	○	20	5.00	2.70	0.25	6.2	30.8		○		
50																			
計	範囲内	個体数	89	88	89	59	116	66	325	81.25	43.82	4.06				182	91.00		
		種数	22	20	21	21	16	19	28							22			
		全種数	26	25	29	24	20	22	33							26			

調 査 地 の 概 況

市町村名	高崎市（旧倉渕村）	地形図名	浅間隠山b	調 査 者	瀧川 二士男
調査範囲	4 k m（調査距離）× 50 m（幅）＝20ha			調査地の標高	640 ～ 960 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース 

○ 広葉樹林（自然林・雑木林）

－ 針葉樹林（自然林）

◎ 植林地（人工林）

－ 草地・草原・ヨシ原

－ 農耕地（田・畑・果樹園）

－ 里山・疎らな民家

－ 市街地・工業団地

○ 河川湖沼・河川敷

調査コースは三沢川に沿った林道で、スギ、ヒノキ、カラマツの植林地と広葉樹の雑木林が混じっている。標高が高くなるにつれて、広葉樹林が増え、三沢川沿いは水場には困らない。
今回の調査で繁殖が確認された種はなかった。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じである。繁殖期2日目は6時すぎからエゾハルゼミが鳴き始めた。繁殖期1日目の調査でツキノワグマを1頭、越冬期の調査でシカ2頭を観察した。

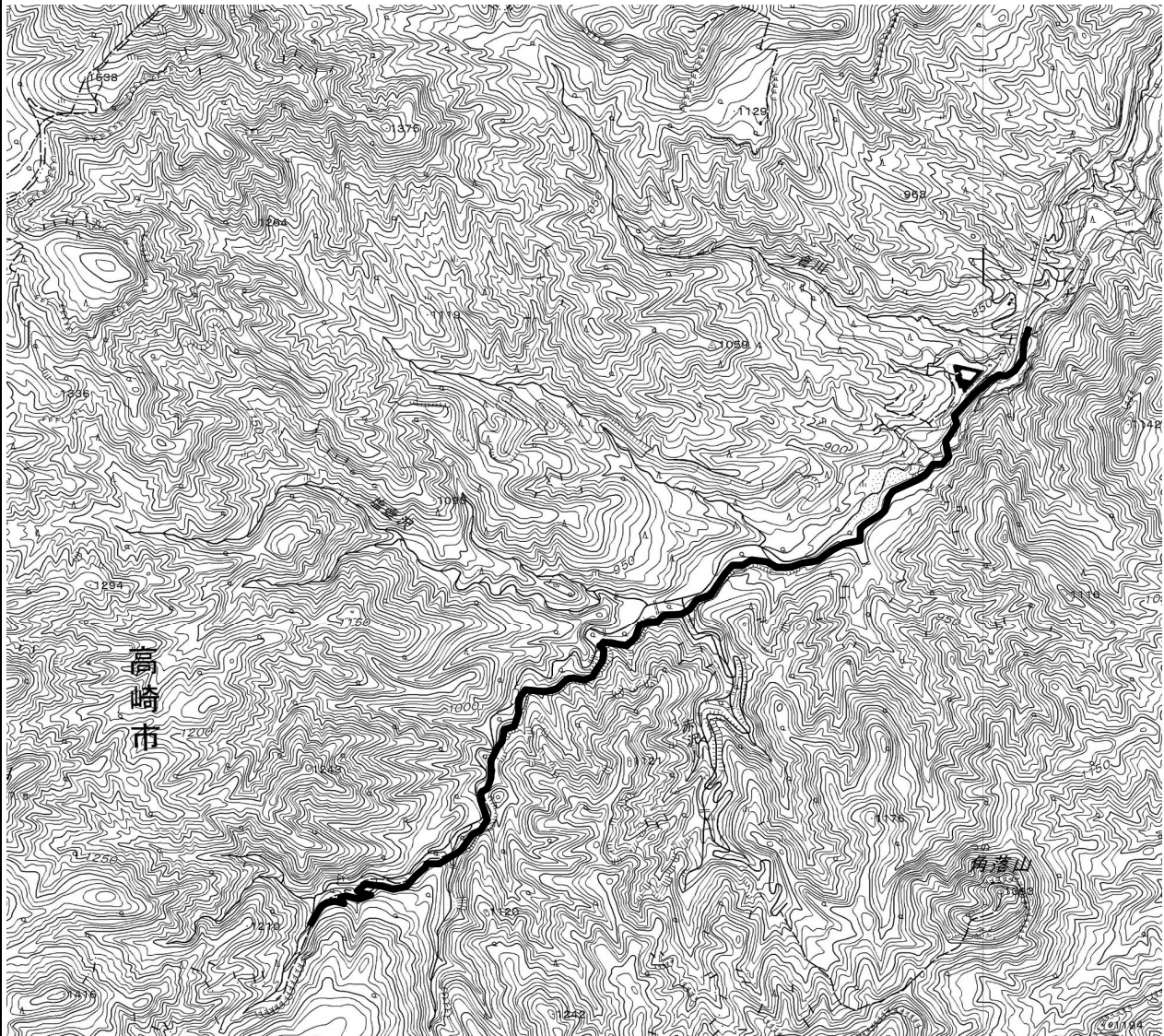
生 息 調 査 集 計 表

地形図名	浅間隠山b	調査者	瀧川 二士男
------	-------	-----	--------

調 査 年 月 日	R5. 5. 27	R5. 5. 27	R5. 6. 13	R5. 6. 13	R5. 12. 5	R5. 12. 5	繁殖期							越冬期	
	4 : 50 5 6 : 30 (100分)	6 : 40 5 8 : 10 (90分)	4 : 45 5 6 : 20 (95分)	6 : 30 5 8 : 00 (90分)	8 : 15 5 9 : 50 (95分)	10 : 00 5 11 : 30 (90分)	合計	平均	密度		種優占度	相対出現頻度	繁殖可能性ランク	合計	平均
天 候	晴	晴	晴	晴	曇	曇	Σ①~④	⑦ / 4	1h当り	1ha当り	(%)	(%)		Σ⑤~⑥	⑧ / 2
種類 / 結果	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	⑦							⑧	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦								
ヤマドリ			1		1		1	0.25	0.16	0.01	1.2	6.7		1	0.50
キジバト		○	○	○	2	2	○						B	4	2.00
アオバト	1	○	○	○			1	0.25	0.16	0.01	1.2	6.7	B		
ホトトギス		○	○				○						B		
5 コゲラ		1	2	2		2	5	1.25	0.80	0.06	6.2	33.3		2	1.00
アカゲラ			1				1	0.25	0.16	0.01	1.2	6.7			
アオゲラ	2	1	○				3	0.75	0.48	0.04	3.7	20.0			
カケス			1		2	5	1	0.25	0.16	0.01	1.2	6.7		7	3.50
ハシブトガラス		2	○	○		○	2	0.50	0.32	0.03	2.5	13.3		○	
10 コガラ					2	1								3	1.50
ヤマガラ	1	1	2		2	5	4	1.00	0.64	0.05	4.9	26.7	B	7	3.50
ヒガラ	○	○		○	1	5	○						B	6	3.00
シジュウカラ		2	3	1	2	5	6	1.50	0.96	0.08	7.4	40.0	B	7	3.50
ヒヨドリ	2	3	2	8	5	2	15	3.75	2.40	0.19	18.5	100.0		7	3.50
15 ウグイス	2	4	1	4	1	1	11	2.75	1.76	0.14	13.6	73.3	B	2	1.00
エナガ	1	3			1	3	4	1.00	0.64	0.05	4.9	26.7		4	2.00
メジロ	○	2		2			4	1.00	0.64	0.05	4.9	26.7			
ミソサザイ	2	2			2	3	4	1.00	0.64	0.05	4.9	26.7		5	2.50
トラツグミ		○					○								
20 クロツグミ				1			1	0.25	0.16	0.01	1.2	6.7			
ツグミ					3	1								4	2.00
ルリビタキ					1	1								2	1.00
キビタキ	1	2	1	○			4	1.00	0.64	0.05	4.9	26.7	B		
オオルリ	3	2	1	2			8	2.00	1.28	0.10	9.9	53.3	B		
25 カヤクグリ					1	1								2	1.00
アトリ						3								3	1.50
マヒワ					37	46								83	41.50
ウソ					○	○								○	
イカル		○			3		○							3	1.50
30 ホオジロ	1			1			2	0.50	0.32	0.03	2.5	13.3	B		
コジュケイ				○			○								
ガビチョウ	1	1	1	1			4	1.00	0.64	0.05	4.9	26.7	B		
35															
40															
45															
50															
計	範囲内	個体数	17	26	16	22	66	86	81	20.25	12.96	1.01		152	76.00
		種 数	11	13	11	9	16	16	19					18	
		全 種 数	13	19	16	15	17	18	25					20	

調 査 地 の 概 況

市町村名	高崎市（旧倉渕村）	地形図名	浅間隠山d	調 査 者	卯木 達朗
調査範囲	4 k m（調査距離）× 50 m（幅）＝20ha			調査地の標高	790 ～ 1070 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース 

◎ 広葉樹林（自然林・雑木林）

－ 針葉樹林（自然林）

○ 植林地（人工林）

－ 草地・草原・ヨシ原

－ 農耕地（田・畑・果樹園）

－ 里山・疎らな民家

－ 市街地・工業団地

○ 河川湖沼・河川敷

鳥川の最上流部で、広葉樹とスギ・ヒノキの植林地が混在する。上流側は広葉樹が多くなる。人家や農耕地はない。沢の水量は豊富で、水場には困らない。

今回の調査で、営巣・育雛中のキジバトとアカゲラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、オオルリが観察され、繁殖が確認された。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じである。

生 息 調 査 集 計 表

生 息 調 査 集 計 表								地形図名		浅間隠山d		調査者		卯木 達朗			
調 査 年 月 日		R5. 5. 30	R5. 5. 30	R5. 6. 30	R5. 6. 30	R5. 12. 16	R5. 12. 16	繁殖期								越冬期	
調 査 時 間		4 : 00 〃 6 : 10 (130分)	6 : 40 〃 8 : 50 (130分)	4 : 00 〃 6 : 15 (135分)	6 : 40 〃 8 : 50 (130分)	7 : 00 〃 9 : 05 (125分)	9 : 30 〃 11 : 35 (125分)	合 計	平 均	密度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均	
天 候		晴	晴	曇	晴	曇	晴	Σ①〜④	⑦／4	1h当り	1ha当り				Σ⑤〜⑥	⑧／2	
種 類 / 結 果		羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	⑦							⑧		
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦									
ヤマドリ			1			○	○	1	0.25	0.11	0.01	0.4	3.2		○		
キジ		1	○		1			2	0.50	0.23	0.03	0.8	6.5	B			
キジバト		4	4	9	4	3	3	21	5.25	2.40	0.26	8.1	67.7	A	6	3.00	
アオバト				○	○			○									
5 ジュウイチ		○	○	○				○									
ホトトギス		○	○	○	○			○						B			
ツツドリ		○		○				○									
カッコウ			○		○			○						B			
ノスリ		○	○	○		○		○							○		
0 コゲラ		1	1	1		1	1	3	0.75	0.34	0.04	1.2	9.7		2	1.00	
アカゲラ		2	2	2	2	1		8	2.00	0.91	0.10	3.1	25.8	A	1	0.50	
サンショウクイ				2				2	0.50	0.23	0.03	0.8	6.5				
モズ		1		1	1	1	1	3	0.75	0.34	0.04	1.2	9.7		2	1.00	
カケス						2									2	1.00	
5 ハシボソガラス		3	2	3	2	○	○	10	2.50	1.14	0.13	3.9	32.3	B	○		
コガラ					1		2	1	0.25	0.11	0.01	0.4	3.2		2	1.00	
ヤマガラ						1									1	0.50	
ヒガラ		2		2	2	3	3	6	1.50	0.69	0.08	2.3	19.4	B	6	3.00	
シジュウカラ		4	3	7	8	7	4	22	5.50	2.51	0.28	8.5	71.0	A	11	5.50	
0 イワツバメ		12	11					23	5.75	2.63	0.29	8.9	74.2				
ヒヨドリ		4	6	13	6	2	3	29	7.25	3.31	0.36	11.2	93.5	A	5	2.50	
ウグイス		8	7	8	8	4	4	31	7.75	3.54	0.39	12.0	100.0	A	8	4.00	
センダイムシクイ		2	1	2				5	1.25	0.57	0.06	1.9	16.1	B			
ゴジュウカラ					1	○		1	0.25	0.11	0.01	0.4	3.2		○		
5 ミソサザイ		6	4	3	3	2	2	16	4.00	1.83	0.20	6.2	51.6	B	4	2.00	
カワガラス		2	2	3	3	1	1	10	2.50	1.14	0.13	3.9	32.3	B	2	1.00	
クロツグミ		1	1	1				3	0.75	0.34	0.04	1.2	9.7	B			
ツグミ						6	4								10	5.00	
コマドリ		1	1	1	1			4	1.00	0.46	0.05	1.6	12.9	B			
0 コルリ		2	3	2	1			8	2.00	0.91	0.10	3.1	25.8	B			
ルリビタキ						○									○		
ジョウビタキ							2								2	1.00	
キビタキ		4	4	3	2			13	3.25	1.49	0.16	5.0	41.9	B			
オオルリ		6	3	2	3			14	3.50	1.60	0.18	5.4	45.2	A			
5 カヤクグリ						1	1								2	1.00	
キセキレイ		1	2	1	2	1		6	1.50	0.69	0.08	2.3	19.4	B	1	0.50	
セグロセキレイ						2									2	1.00	
アトリ							9								9	4.50	
マヒワ						18	16								34	17.00	
0 ベニマシコ							2								2	1.00	
ウソ						8									8	4.00	
シメ						2	2								4	2.00	
イカル		1					1	1	0.25	0.11	0.01	0.4	3.2		1	0.50	
ホオジロ		3	4	3	2	3	3	12	3.00	1.37	0.15	4.7	38.7	B	6	3.00	
5 ノジコ		1		1	1			3	0.75	0.34	0.04	1.2	9.7	B			
コジュケイ			○					○									
0																	
計	範囲内	個体数	72	62	70	54	69	64	258	64.50	29.49	3.23				133	66.50
		種 数	23	19	21	20	20	19	27							25	
		全 種 数	27	25	26	23	25	21	34							30	

高崎市（旧箕郷町）鳥類生息密度調査結果

1. 調査地の環境

高崎市（旧箕郷町）に含まれる調査地は下表の 2 メッシュである。伊香保 d は低山帯、下室田 a は低地帯丘陵部に属する。調査コースは集落から山間部への林道を中心とするコース（伊香保 d）と人造湖周辺と集落を中心とするコース（下室田 a）である。なお、土砂崩れによる通行止めで伊香保 d はコースをわずかに変更したが、コースの大部分は前回と同じであり、環境にも大きな変化はみられなかった。

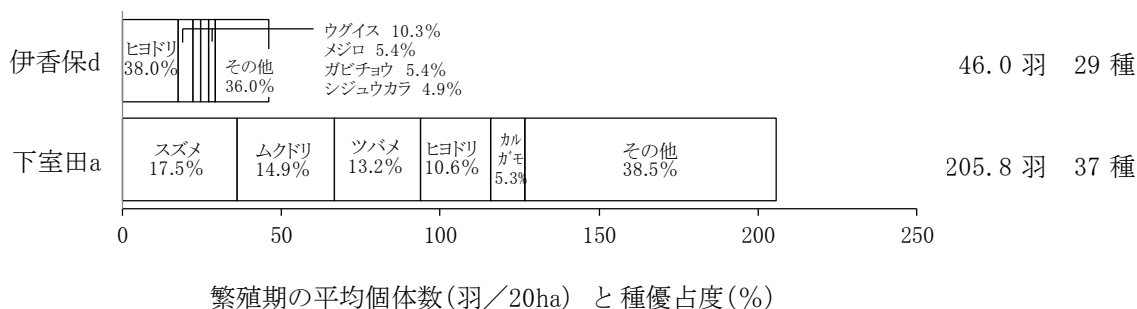
調査メッシュ	標高	環境要素								調査コース
		広葉樹林	針葉樹林	植林地	草地草原	農耕地	里山集落	市街地	河川湖沼	
伊香保d	340 ～ 700	○	—	◎	—	○	○	—	○	前回とほぼ同じ
下室田a	190 ～ 250	○	—	○	○	○	◎	—	○	前回と同じ

2. 調査結果と考察

今年度の調査では、繁殖期に 49 種、越冬期に 41 種、年間では 61 種が記録された。なお、前々回（平成 25 年度実施）は年間 62 種、前回（平成 30 年度実施）は年間 57 種が記録されている。

(1) 繁殖期

繁殖期の調査結果は下図のとおりである。今回の調査地域全体の平均と比較すると、伊香保 d の個体数がやや少なく、下室田 a の種数と個体数はやや多かった。両メッシュともスズメやヒヨドリ、ムクドリ、ツバメなど人里に生息する種が優占した。特筆すべき種として、群馬県版 RDB に掲載されているオオタカ、アオバト、コサギ、カッコウ、サンコウチョウ、オナガと、環境省の特定外来生物に指定されているガビチョウ、カオジロガビチョウが記録された。このうち、絶滅危惧Ⅱ類に指定されているサンコウチョウ（伊香保 d、下室田 a）は、回復傾向にあるもののまだ個体数は少なく、準絶滅危惧のオオタカ（下室田 a）は、生態系の頂点付近に位置する猛禽類であるため、どちらも比較的良好な環境の指標として重要である。一方、当地に定着していると考えられるガビチョウのほか、前回越冬期に記録されたカオジロガビチョウが今回は繁殖期にも記録され、分布が拡大してきているものと考えられる。



(2) 越冬期

越冬期の優占種は次表のとおりである。繁殖期同様、当調査地のような環境に生息するスズメやヒヨドリが優占したほか、人造湖がある下室田 a ではカモ類が上位に入った。今回の調査地域全体の平均と比較すると、伊香保 d は種数・個体数ともに少なく、下室田 a は種数が多かった。前者の個体数が少なかったのは、調査地の標高がやや高く、植林地が中心で環境が比較的単純であることが一因と考えられる。後者の種数が多かったのは人造湖でカモ類など水辺の種が記録されたためである。RDB 掲載種はカシラダカ（下室田 a）が記録され、特定外来生物のガビチョウとカオジロガビチョウは越冬期にも記録された。

調査メッシュ	優占種（上位 5 種*）					平均個体数 (羽/20ha)	種数 (種)
	1位	2位	3位	4位	5位		
伊香保d	シジュウカラ	ヒヨドリ	ヒガラ	ヤマガラ	エナガ	51.0	17
下室田a	ヒヨドリ	スズメ	カルガモ	カワラヒワ	ホシハジロ	186.0	35

* 同率の場合は分類順に5種まで掲載

(3)過去の調査結果との比較

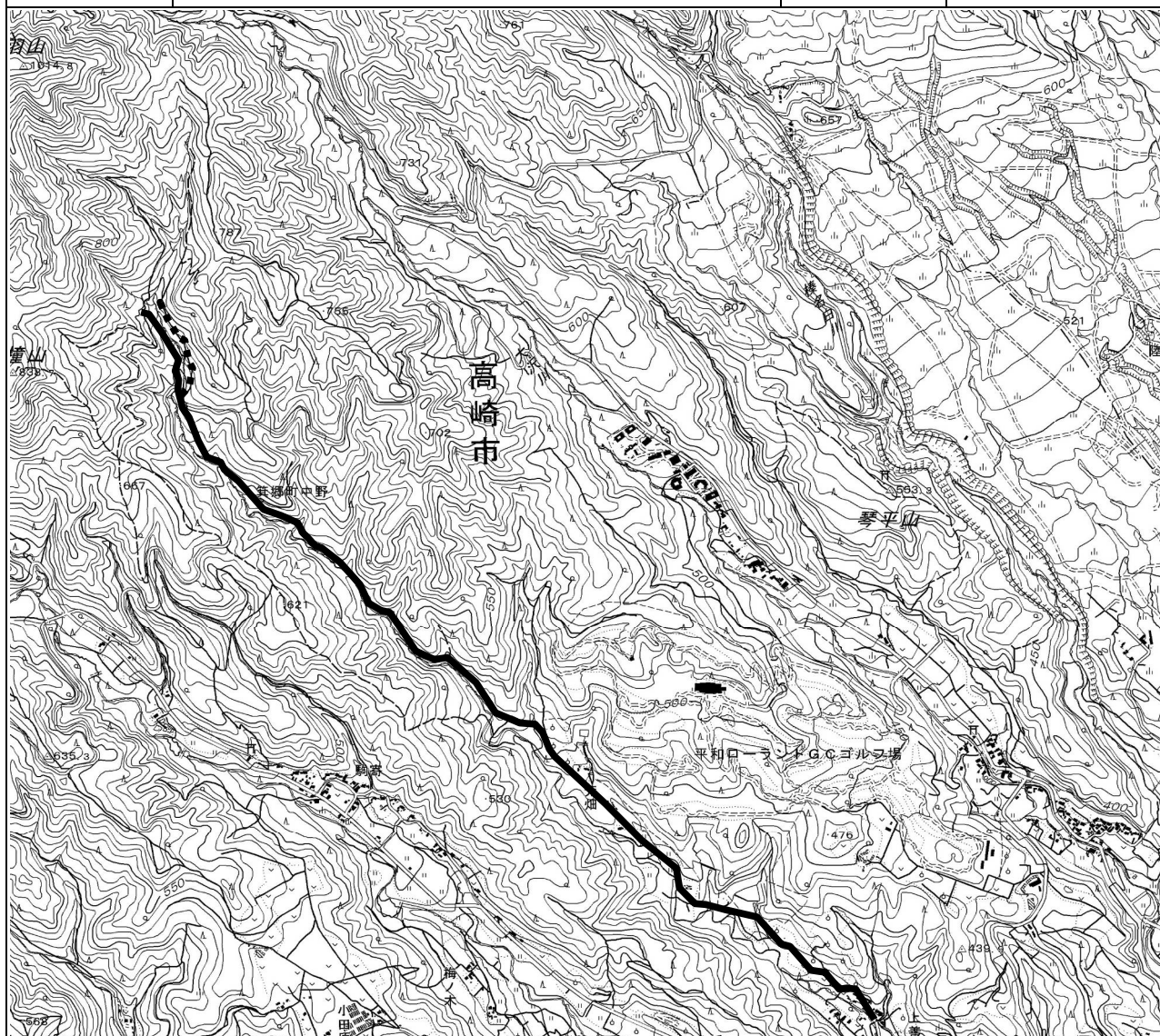
直近 3 回分の調査結果は下表のとおりである。伊香保 d の繁殖期と下室田 a の越冬期の個体数が減少した。後者はカモ類とオオバンなどが減少したことが原因である。カモ類はその日の風向きなどで同じ湖内でも休む場所が異なるため、本調査の調査方法では、生息数が同じでも記録される個体数が変わる場合がある。ガンカモカウントなど他の調査結果と比較する必要がある。一方、前者は著しく個体数が減少した特定の種はないため、原因は不明である。

過去 2 回の調査で記録が無く今回新たに記録された種は、コサギ、センダイムシクイ、トラツグミの 3 種であった。一方、過去 2 回とも記録があるのに今回記録されなかったのはツツドリ、アマツバメ、アオジの 3 種であった。

調査メッシュ	繁殖期						越冬期					
	種数(種)			平均個体数(羽/20ha)			種数(種)			平均個体数(羽/20ha)		
	H25	H30	R5	H25	H30	R5	H25	H30	R5	H25	H30	R5
伊香保d	26	29	29	93.0	67.8	46.0	20	17	17	82.0	40.5	51.0
下室田a	33	36	37	243.5	168.3	205.8	44	36	35	385.5	262.0	186.0

調 査 地 の 概 況

市町村名	高崎市（旧箕郷町）	地形図名	伊香保d	調 査 者	大島 孝之
調査範囲	4 k m（調査距離）× 50 m（幅）＝ 20 ha			調査地の標高	340 ～ 700 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース 

☐	広葉樹林（自然林・雑木林）	浦川に架かる上善地橋から音羽山林道を通り音羽山中腹までのコース。コースに沿って浦川が流れ水場は多い。集落付近には田畑や梅などの果樹園もあるが、コースのほとんどが樹齢50年以上と思われるスギやヒノキの人工林である。この人工林の低木層や林床には、ヤマグワやキイチゴ、エゴノキなどの食餌植物がみられる。 今回の調査で繁殖が確認された種はなかった。
☐	針葉樹林（自然林）	
☒	植林地（人工林）	
☐	草地・草原・ヨシ原	
☐	農耕地（田・畑・果樹園）	
☐	里山・疎らな民家	
☐	市街地・工業団地	
☐	河川湖沼・河川敷	

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

土砂崩れで通行不能な部分（地図の点線部分）があったため、コース北西端を約400m変更して実施したが、調査コース全体は前回とほぼ同じである。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

伊香保d

調査者

大島 孝之

調 査 年 月 日	R5. 5. 26	R5. 5. 26	R5. 6. 10	R5. 6. 10	R5. 12. 17	R5. 12. 17	繁殖期							越冬期	
	4 : 50 5 6 : 40 (110分)	6 : 50 5 8 : 30 (100分)	4 : 40 5 6 : 30 (110分)	6 : 40 5 8 : 20 (100分)	7 : 30 5 9 : 30 (120分)	9 : 40 5 11 : 30 (110分)	合 計	平 均	密度		種 優 占 度	相 対 出 現 頻 度	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均
調 査 時 間															
天 候	曇	曇	雨	曇	晴	晴	Σ①~④	⑦ / 4	1h当り	1ha当り	(%)	(%)		Σ⑤~⑥	⑧ / 2
種 類 / 結 果	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	⑦							⑧	
キジ	○						○								
キジバト	○	1	1	2	6		4	1.00	0.57	0.05	2.2	5.7	B	6	3.00
アオバト	1	○	○	○			1	0.25	0.14	0.01	0.5	1.4	B		
ホトトギス	○		○				○								
5 カッコウ				○			○								
ノスリ				○			○								
コゲラ		2		1		1	3	0.75	0.43	0.04	1.6	4.3		1	0.50
アカゲラ	1					○	1	0.25	0.14	0.01	0.5	1.4		○	
アオゲラ	○		○				○								
10 サンコウチョウ			2	1			3	0.75	0.43	0.04	1.6	4.3			
カケス	2	1	2	1	4		6	1.50	0.86	0.08	3.3	8.6		4	2.00
ハシブトガラス	○	1	○	○	○	○	1	0.25	0.14	0.01	0.5	1.4		○	
ヤマガラ	5	1		1	1	8	7	1.75	1.00	0.09	3.8	10.0	B	9	4.50
ヒガラ					4	7								11	5.50
15 シジュウカラ	2	2	3	2	12	12	9	2.25	1.29	0.11	4.9	12.9	B	24	12.00
ヒヨドリ	15	15	19	21	15	4	70	17.50	10.00	0.88	38.0	100.0		19	9.50
ウグイス	4	5	3	7	1		19	4.75	2.71	0.24	10.3	27.1	B	1	0.50
ヤブサメ	2						2	0.50	0.29	0.03	1.1	2.9			
エナガ						8								8	4.00
20 センダイムシクイ	1	2					3	0.75	0.43	0.04	1.6	4.3			
メジロ	2	2	○	6	2	2	10	2.50	1.43	0.13	5.4	14.3	B	4	2.00
トラツグミ			○				○								
クロツグミ	○	○	1	○			1	0.25	0.14	0.01	0.5	1.4	B		
ジョウビタキ						2								2	1.00
25 キビタキ	1	1	1	2			5	1.25	0.71	0.06	2.7	7.1	B		
オオルリ	1	1					2	0.50	0.29	0.03	1.1	2.9			
キセキレイ	1	1	1	6			9	2.25	1.29	0.11	4.9	12.9			
アトリ						5								5	2.50
カワラヒワ	3		2	4	2		9	2.25	1.29	0.11	4.9	12.9	B	2	1.00
30 イカル	2	1	1	2			6	1.50	0.86	0.08	3.3	8.6	B		
ホオジロ	1	○	1	1	2	2	3	0.75	0.43	0.04	1.6	4.3	B	4	2.00
コジュケイ	○	○					○								
ガビチョウ	3	2	3	2	2		10	2.50	1.43	0.13	5.4	14.3	B	2	1.00
35															
40															
45															
50															
計	範囲内	個体数	47	38	40	59	51	51	184	46.00	26.29	2.30		102	51.00
		種 数	17	15	13	15	11	10	22					15	
		全 種 数	24	19	19	20	12	12	29					17	

調 査 地 の 概 況

市町村名	高崎市（旧箕郷町）	地形図名	下室田a	調 査 者	和佐田 なつ江
調査範囲	4 k m（調査距離）×50 m（幅）=20ha			調査地の標高	190 ～ 250 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

- ☐ 広葉樹林（自然林・雑木林）
- ☐ 針葉樹林（自然林）
- ☐ 植林地（人工林）
- ☐ 草地・草原・ヨシ原
- ☐ 農耕地（田・畑・果樹園）
- ☒ 里山・疎らな民家
- ☐ 市街地・工業団地
- ☐ 河川湖沼・河川敷

鳴沢湖周辺と榛名白川沿いの調査コースであり、水場は豊富にある。白川沿いには農耕地があり、河川敷にはヨシ原が広がっている。鳴沢湖北部の丘陵部は、畑とスギの植林地や竹林、広葉樹の雑木林が混じり、豊かな里山の景観を保っている。

今回の調査では、営巣中のウグイスとスズメ、ホオジロが観察され、コゲラの雛の声が記録された。ツバメの巣立ち雛も観察され、これらの繁殖が確認された。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じである。繁殖期の1日目は梅雨時の曇天で早朝は暗く、観察しづらかった。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名	下室田a	調査者	和佐田 なつ江
------	------	-----	---------

調 査 年 月 日		R5. 6. 10	R5. 6. 10	R5. 6. 19	R5. 6. 19	R5. 12. 23	R5. 12. 23	繁殖期							越冬期	
調 査 時 間		5 : 00 〃 7 : 05 (125分)	7 : 15 〃 9 : 30 (135分)	4 : 50 〃 7 : 00 (130分)	7 : 15 〃 9 : 35 (140分)	7 : 50 〃 9 : 55 (125分)	10 : 00 〃 12 : 05 (125分)	合 計	平 均 (133分)	密度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均 (125分)
天 候		曇	曇	晴	晴	晴	晴	Σ①～④	⑦／4	1h当り	1ha当り				Σ⑤～⑥	⑧／2
種 類 / 結 果		羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	⑦							⑧	
5	キジ	5	2	5	2			14	3.50	1.58	0.18	1.7	9.7			
	マガモ					4	2								6	3.00
	カルガモ	4	8	5	27	20	17	44	11.00	4.98	0.55	5.3	30.6		37	18.50
	ホシハジロ					15	12								27	13.50
	キンクロハジロ					15									15	7.50
10	カイツブリ	3	2	1	1	2	2	7	1.75	0.79	0.09	0.9	4.9		4	2.00
	キジバト	12	3	10	5	2	2	30	7.50	3.40	0.38	3.6	20.8	B	4	2.00
	カワウ	3				2		3	0.75	0.34	0.04	0.4	2.1		2	1.00
	アオサギ	1	1	5	3		2	10	2.50	1.13	0.13	1.2	6.9		2	1.00
	ダイサギ	1	1	1	1	1		4	1.00	0.45	0.05	0.5	2.8		1	0.50
15	コサギ		1					1	0.25	0.11	0.01	0.1	0.7			
	オオバン					6									6	3.00
	トビ	1	2				1	3	0.75	0.34	0.04	0.4	2.1		1	0.50
	オオタカ		1		1			2	0.50	0.23	0.03	0.2	1.4	A		
	ノスリ		1				2	1	0.25	0.11	0.01	0.1	0.7		2	1.00
20	カワセミ						1								1	0.50
	コゲラ	2			1			3	0.75	0.34	0.04	0.4	2.1	A		
	サンコウチョウ	1						1	0.25	0.11	0.01	0.1	0.7			
	モズ	1			1	1	4	2	0.50	0.23	0.03	0.2	1.4		5	2.50
	カケス					5	1								6	3.00
25	オナガ				1			1	0.25	0.11	0.01	0.1	0.7			
	ハシボソガラス	1	5	6	4	6	9	16	4.00	1.81	0.20	1.9	11.1		15	7.50
	ハシブトガラス	8	3	3	2	3	6	16	4.00	1.81	0.20	1.9	11.1		9	4.50
	ヤマガラ				1			1	0.25	0.11	0.01	0.1	0.7			
	シジュウカラ	7	1	1			5	9	2.25	1.02	0.11	1.1	6.3		5	2.50
30	ツバメ	22	12	48	27			109	27.25	12.34	1.36	13.2	75.7	A		
	イワツバメ	3	7	15	9			34	8.50	3.85	0.43	4.1	23.6			
	ヒヨドリ	10	35	23	19	34	24	87	21.75	9.85	1.09	10.6	60.4		58	29.00
	ウグイス	9	4	11	6	1	2	30	7.50	3.40	0.38	3.6	20.8	A	3	1.50
	エナガ		10		12			22	5.50	2.49	0.28	2.7	15.3			
35	センダイムシクイ	1						1	0.25	0.11	0.01	0.1	0.7			
	メジロ			1	4	10	6	5	1.25	0.57	0.06	0.6	3.5		16	8.00
	ムクドリ	95	22	3	3	10		123	30.75	13.92	1.54	14.9	85.4		10	5.00
	ツグミ					25	2								27	13.50
	ジョウビタキ					2									2	1.00
40	キビタキ		1		3			4	1.00	0.45	0.05	0.5	2.8	B		
	スズメ	35	28	48	33	19	32	144	36.00	16.30	1.80	17.5	100.0	A	51	25.50
	ハクセキレイ	5	3	2	1		3	11	2.75	1.25	0.14	1.3	7.6		3	1.50
	セグロセキレイ	2	1		3		1	6	1.50	0.68	0.08	0.7	4.2		1	0.50
	カワラヒワ	3	4	2	11	28		20	5.00	2.26	0.25	2.4	13.9	B	28	14.00
45	ベニマシコ					4									4	2.00
	シメ					3	1								4	2.00
	ホオジロ	2		4	1	2	7	7	1.75	0.79	0.09	0.9	4.9	A	9	4.50
	カシラダカ						2								2	1.00
	コジュケイ			4	3	1		7	1.75	0.79	0.09	0.9	4.9		1	0.50
50	カワラバト (ドバト)				2			2	0.50	0.23	0.03	0.2	1.4			
	ガビチョウ	7	8	8	7	3		30	7.50	3.40	0.38	3.6	20.8	B	3	1.50
	カオジロガビチョウ		1	12		2		13	3.25	1.47	0.16	1.6	9.0		2	1.00
計	範囲内	個体数	244	167	218	194	226	146	823	205.75	93.17	10.29			372	186.00
		種 数	26	26	22	29	27	24	37						35	
		全 種 数	26	26	22	29	27	24	37						35	

高崎市（旧群馬町）鳥類生息密度調査結果

1. 調査地の環境

高崎市（旧群馬町）に含まれる調査地は下表の 1 メッシュで、標高からは低地帯丘陵部に属する。調査コースは農耕地と住宅地である。調査コース南端付近が国道によって分断されたため、前々回の調査から南端周辺のコースの一部を変更した。今回は変更後の調査コースと同じである。環境にも大きな変化はみられなかった。

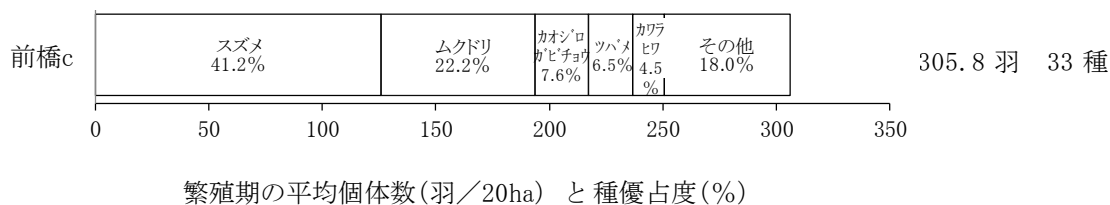
調査 メッシュ	標高	環境要素								調査コース
		広葉樹林	針葉樹林	植林地	草地草原	農耕地	里山集落	市街地	河川湖沼	
前橋c	130 ～ 140	—	—	—	—	◎	—	◎	○	前回と同じ

2. 調査結果と考察

今年度の調査では、繁殖期に 33 種、越冬期に 19 種、年間では 37 種が記録された。なお、前々回（平成 25 年度実施）は年間 39 種、前回（平成 30 年度実施）は年間 40 種が記録されている。

(1) 繁殖期

繁殖期の調査結果は下図のとおりである。調査コースの環境を反映して、スズメやムクドリ、ツバメといった人里に生息する種が優占した。今回の調査地域全体の平均と比較すると、種数は平均的であったが、個体数が多かった。スズメとムクドリが多数記録されたことが原因である。特筆すべき種として、群馬県版 RDB に掲載されているカッコウ、イカルチドリ、オナガと、環境省の特定外来生物に指定されているガビチョウ、カオジロガビチョウが記録された。このうち、準絶滅危惧に指定されているイカルチドリは、大きな河川の中流域に広がる砂礫の河川敷に生息し、河川環境の悪化に伴い生息数が減少していると考えられる。このような河川環境の指標として重要である。一方、ガビチョウ類は県内でも分布を拡大しており、在来種への影響が懸念されるが、当地では特にカオジロガビチョウの個体数が増加傾向にあるため、今後の動向に注目する必要がある。



(2) 越冬期

越冬期の優占種は次表のとおりである。今回の調査地域全体の平均と比較すると、種数はやや少ないが、個体数はやや多かった。繁殖期同様、市街地や農耕地が主要な環境要因であることを反映し、このような場所に多いスズメやムクドリ、ヒヨドリなどが優占した。RDB 掲載種はオナガが、外来種はカオジロガビチョウが記録された。

調査メッシュ	優占種（上位 5 種*）					平均個体数 (羽/20ha)	種数 (種)
	1位	2位	3位	4位	5位		
前橋c	ムクドリ	スズメ	ヒヨドリ	キジバト	オナガ	272.5	19

* 同率の場合は分類順に5種まで掲載

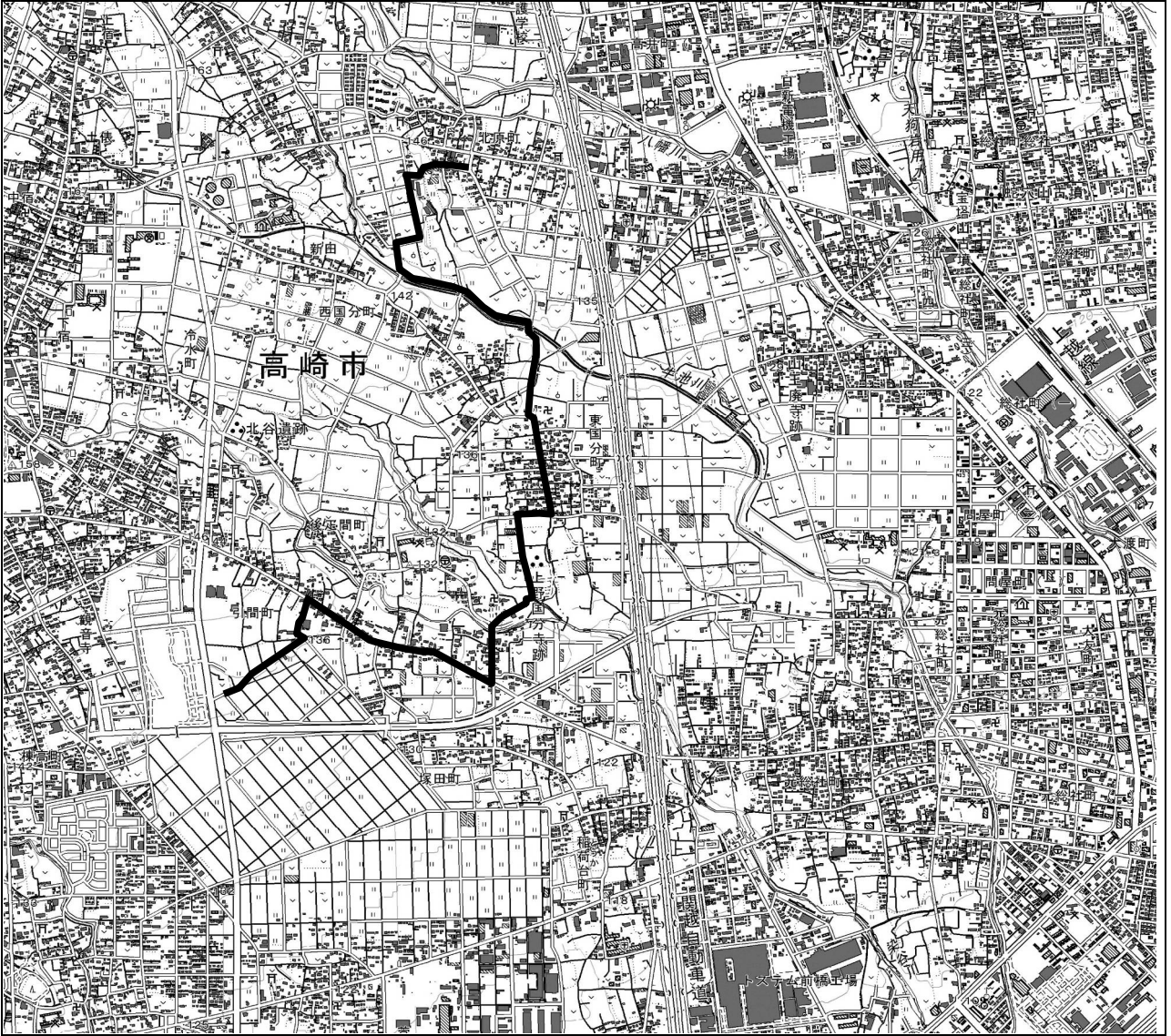
(3)過去の調査結果との比較

直近 3 回分の調査結果は下表のとおりである。種数は繁殖期がやや増加し、越冬期はやや減少した。個体数には大きな変化はなかった。繁殖期の種数が増加したのは、アオサギやイカルチドリ、カワセミなど、水辺の鳥の記録が増えたことによる。越冬期の種数が減少したのは、オオタカやノスリ、ハヤブサなどの猛禽類が記録されなかったことが一因である。

過去 2 回の調査で記録が無く今回新たに記録された種は、オオヨシキリの 1 種であった。一方、過去 2 回とも記録があるのに今回記録されなかった種は、ゴイサギ、コゲラ、キセキレイの 3 種であった。また、以前は毎回のよう記録されたていたものの、近年は記録が途絶えているコサギとイソシギは、今回も記録されなかった。これらの種については、今後もその動向に注目する必要がある。

調査メッシュ	繁殖期						越冬期					
	種数(種)			平均個体数(羽/20ha)			種数(種)			平均個体数(羽/20ha)		
	H25	H30	R5	H25	H30	R5	H25	H30	R5	H25	H30	R5
前橋c	28	33	33	259.5	280.5	305.8	28	23	19	542.5	211.0	272.5

市町村名	高崎市（旧群馬町）	地形図名	前橋c	調 査 者	神宮 義憲
調査範囲	4 k m（調査距離）×50m（幅）=20ha			調査地の標高	130 ～ 140 m

調査コース

—	広葉樹林（自然林・雑木林）	コースの大半は、上野国分寺史跡を通る、古くからの農業家屋を中心とした住宅地であり、コースの両端周辺は農耕地帯である。以前あった休耕地は住宅となっていた。南側半分の地域は、県道127号線や大型ショッピングモールなどの建設により、環境が都市化してきている。現在のところ、記録された鳥に大きな変化はなさそうである。 今回の調査では営巣中のスズメの雛の声が記録され、繁殖が確認された。
—	針葉樹林（自然林）	
—	植林地（人工林）	
—	草地・草原・ヨシ原	
◎	農耕地（田・畑・果樹園）	
—	里山・疎らな民家	
◎	市街地・工業団地	
○	河川湖沼・河川敷	← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

調査コースは前回と同じである。

生 息 調 査 集 計 表

生 息 調 査 集 計 表								地形図名		前橋c		調査者		神宮 義憲	
調 査 年 月 日	R5. 6. 5	R5. 6. 5	R5. 6. 19	R5. 6. 19	R5. 12. 24	R5. 12. 24	繁殖期							越冬期	
調 査 時 間	4 : 45 ＼ 6 : 35 (110分)	6 : 40 ＼ 8 : 40 (120分)	4 : 50 ＼ 6 : 50 (120分)	6 : 50 ＼ 8 : 50 (120分)	7 : 00 ＼ 8 : 45 (105分)	8 : 50 ＼ 10 : 45 (115分)	合 計	平 均 (118分)	密度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均 (110分)
	天 候	晴	晴	曇	曇	晴			晴	Σ①～④					
種 類 / 結 果	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	Σ①～④	⑦／4	1h当り	1ha当り	(%)	(%)		Σ⑤～⑥	⑧／2
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦							⑧	
キジ	2	○	○	○			2	0.50	0.26	0.03	0.2	0.4	B		
カルガモ	2		2	1			5	1.25	0.64	0.06	0.4	1.0			
キジバト	15	9	13	14	13	11	51	12.75	6.51	0.64	4.2	10.1	B	24	12.00
カワウ		○					○								
アオサギ	○	1	1	○			2	0.50	0.26	0.03	0.2	0.4			
ダイサギ			2				2	0.50	0.26	0.03	0.2	0.4			
カッコウ	○		○	○			○						B		
イカルチドリ		○					○								
トビ			1	1		1	2	0.50	0.26	0.03	0.2	0.4		1	0.50
ノスリ	1	2					3	0.75	0.38	0.04	0.2	0.6			
チョウゲンボウ			○				○								
モズ	2	○	○	2	2	3	4	1.00	0.51	0.05	0.3	0.8		5	2.50
オナガ	2	2	1	1	13	4	6	1.50	0.77	0.08	0.5	1.2		17	8.50
ハシボソガラス	15	6	5	4	4	6	30	7.50	3.83	0.38	2.5	6.0		10	5.00
ハシブトガラス	○		○	○	1	1	○							2	1.00
シジュウカラ		1	3	1			5	1.25	0.64	0.06	0.4	1.0	B		
ヒバリ	4	1	3	2			10	2.50	1.28	0.13	0.8	2.0	B		
ツバメ	20	22	13	24			79	19.75	10.09	0.99	6.5	15.7	B		
イワツバメ		1		2			3	0.75	0.38	0.04	0.2	0.6			
ヒヨドリ	10	6	13	9	57	59	38	9.50	4.85	0.48	3.1	7.5		116	58.00
ウグイス	1	○	1	1	1		3	0.75	0.38	0.04	0.2	0.6		1	0.50
メジロ					○	3								3	1.50
オオヨシキリ	1						1	0.25	0.13	0.01	0.1	0.2			
ムクドリ	67	69	93	42	41	124	271	67.75	34.60	3.39	22.2	53.8		165	82.50
ツグミ					8	5								13	6.50
スズメ	135	114	149	106	84	53	504	126.00	64.34	6.30	41.2	100.0	A	137	68.50
ハクセキレイ	4	7	3	4	4	4	18	4.50	2.30	0.23	1.5	3.6	B	8	4.00
セグロセキレイ	13	4	3	5	2		25	6.25	3.19	0.31	2.0	5.0		2	1.00
カワラヒワ	13	10	17	15		12	55	13.75	7.02	0.69	4.5	10.9		12	6.00
シメ					5	1								6	3.00
ホオジロ	2	1	○	○	4	6	3	0.75	0.38	0.04	0.2	0.6	B	10	5.00
アオジ						1								1	0.50
コジュケイ	○		○				○								
カワラバト (ドバト)	○	○	○				○								
ワカケホンセイインコ	2	2		4			8	2.00	1.02	0.10	0.7	1.6			
ガビチョウ			○				○								
カオジロガビチョウ	25	28	37	3	2	10	93	23.25	11.87	1.16	7.6	18.5		12	6.00
										</					

安中市（旧安中市）鳥類生息密度調査結果

1. 調査地の環境

安中市（旧安中市）に含まれる調査地は下表の 4 メッシュで、標高からは低地帯丘陵部から低山帯に属する。調査コースは河川周辺の農耕地を中心としたコース（富岡 c、松井田 a）と丘陵地を主体とするコース（三ノ倉 b・d）である。全メッシュとも調査コースは前回と同じであり、環境にも大きな変化はみられなかった。

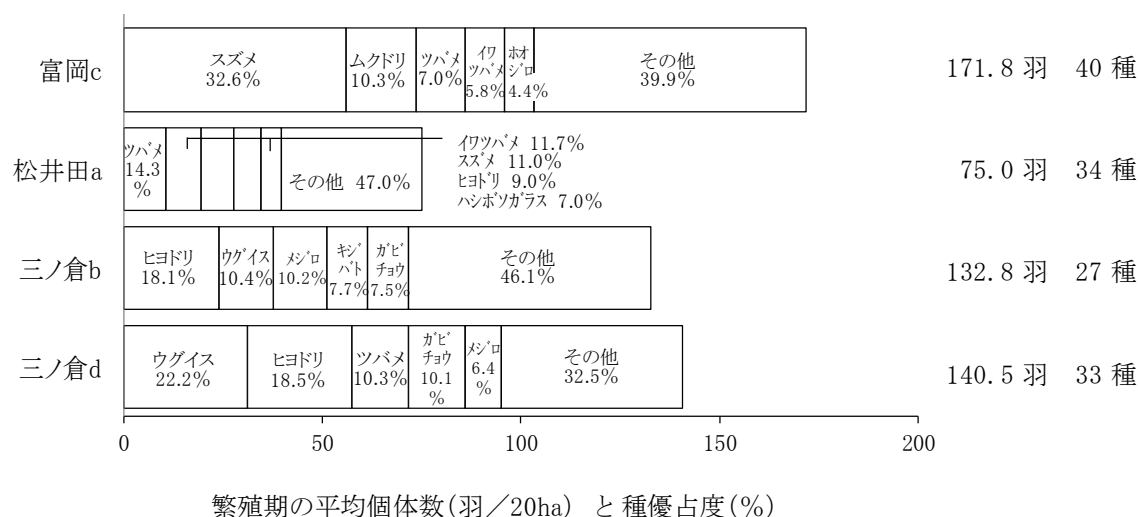
調査メッシュ	標高	環境要素								調査コース
		広葉樹林	針葉樹林	植林地	草地草原	農耕地	里山集落	市街地	河川湖沼	
富岡c	150 ～ 190	○	—	○	○	◎	○	—	○	前回と同じ
松井田a	199 ～ 270	○	—	○	—	○	○	◎	○	前回と同じ
三ノ倉b	190 ～ 480	◎	—	○	○	◎	○	○	—	前回と同じ
三ノ倉d	300 ～ 510	○	—	◎	—	○	○	—	○	前回と同じ

2. 調査結果と考察

今年度の調査では、繁殖期に 54 種、越冬期に 47 種、年間では 66 種が記録された。なお、前々回（平成 25 年度実施）は年間 67 種、前回（平成 30 年度実施）は年間 64 種が記録されている。

(1) 繁殖期

繁殖期の調査結果は下図のとおりである。今回の調査地域全体の平均と比較すると、富岡 c では種数・個体数ともにやや多く、三ノ倉 b で種数がやや少なかったが、その他は平均的な値であった。いずれのメッシュにも集落や農耕地が含まれるため、スズメやツバメ、ヒヨドリなどの人里に生息する種が大半を占めた。特筆すべき種として、群馬県版 RDB に掲載されているアオバト、ゴイサギ、ハイタカ、オオタカ、フクロウ、サンショウクイ、サンコウチョウ、オナガと、環境省の特定外来生物に指定されているガビチョウ、カオジロガビチョウが記録された。このうち、準絶滅危惧のハイタカ（三ノ倉 b）とオオタカ（富



岡 c)、フクロウ (三ノ倉 d) は、生態系の上位に位置する猛禽類で、良好な環境の指標としても重要である。一方、ガビチョウとカオジロガビチョウがどちらも全メッシュで記録され、個体数も増加傾向にある。両種とも県内で分布を拡大しており、今後は在来種への影響が危惧される。

(2) 越冬期

越冬期の優占種は下表のとおりである。繁殖期同様、スズメやヒヨドリが優占したほか、ホオジロやムクドリ、冬鳥のカシラダカやツグミも上位に入った。また、絶滅危惧Ⅱ類のコサギ (松井田 a) が記録されたほか、準絶滅危惧のオオタカ (富岡 c) とハイタカ (三ノ倉 b) が越冬期にも記録された。一方、特定外来生物はガビチョウとカオジロガビチョウに加え、ソウシチョウ (三ノ倉 b) も記録された。

調査メッシュ	優占種 (上位 5 種*)					平均個体数 (羽/20ha)	種数 (種)
	1位	2位	3位	4位	5位		
富岡c	ホオジロ	スズメ	イカル	ヒヨドリ	ツグミ	312.5	37
松井田a	スズメ	ヒヨドリ	カワラバト(ドバト)	ハシボソガラス	カワラヒワ	77.0	26
三ノ倉b	ヒヨドリ	エナガ	メジロ	カケス	シジュウカラ	68.5	21
三ノ倉d	ヒヨドリ	カケス	カシラダカ	スズメ	ウグイス	110.5	27

* 同率の場合は分類順に5種まで掲載

(3) 過去の調査結果との比較

直近 3 回の調査結果は下表のとおりである。松井田 a と三ノ倉 b で越冬期の個体数が減少傾向にあるようにみえる。前回の報告ではスズメやカシラダカなどの減少を指摘した。松井田 a の今回の調査ではスズメの記録が前回よりやや増えているが、安中市 (旧安中市) 全体でみると、越冬期のスズメとカシラダカは継続的な減少傾向にある。スズメとカシラダカは全国的に減少しているとされる種であるが、減少の原因はよくわかっていない。

過去 2 回の調査で記録が無く今回新たに記録された種は、コガモ、コサギ、フクロウ、トラツグミ、ソウシチョウの 5 種であった。過去 2 回とも記録があるのに今回記録されなかった種はなかった。記録が途絶えていた絶滅危惧Ⅱ類のコサギが久しぶりに記録されたのは貴重であるが、本調査では旧安中市で初めて記録された特定外来生物のソウシチョウは、今後の動向に注意する必要がある。

調査メッシュ	繁殖期						越冬期					
	種数(種)			平均個体数(羽/20ha)			種数(種)			平均個体数(羽/20ha)		
	H25	H30	R5	H25	H30	R5	H25	H30	R5	H25	H30	R5
富岡c	36	38	40	140.3	182.8	171.8	35	30	37	350.0	264.0	312.5
松井田a	33	32	34	103.3	93.0	75.0	28	27	26	127.5	149.5	77.0
三ノ倉b	28	33	27	131.5	130.8	132.8	29	23	21	152.0	131.0	68.5
三ノ倉d	34	37	33	138.0	121.3	140.5	27	25	27	112.0	77.0	110.5

調 査 地 の 概 況

市町村名	安中市（旧安中市）	地形図名	富岡c	調 査 者	阪本 俊英
調査範囲	4 k m（調査距離）×50 m（幅）=20ha			調査地の標高	150 ～ 190 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース ☐ 広葉樹林（自然林・雑木林）☐ 針葉樹林（自然林）☐ 植林地（人工林）☐ 草地・草原・ヨシ原☒ 農耕地（田・畑・果樹園）☐ 里山・疎らな民家☐ 市街地・工業団地☐ 河川湖沼・河川敷

碓氷川右岸の平地と、丘陵地の縁を含む調査コースである。平地は主に水田であるが、一部に畑と休耕地、民家が散在する。丘陵地の北斜面は、林床にササ藪が広がる落葉広葉樹林になっており、一部にスギ林と竹林がある。水場としては碓氷川と柳瀬川、水田、冬季でも水が流れる水路がある。越冬期に記録されたツグミとイカルの群れは、渡りの移動途中かどうかは不明である。今回の調査では、営巣・育雛中のモズとスズメ、ホオジロが観察され、繁殖が確認された。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じである。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

富岡c

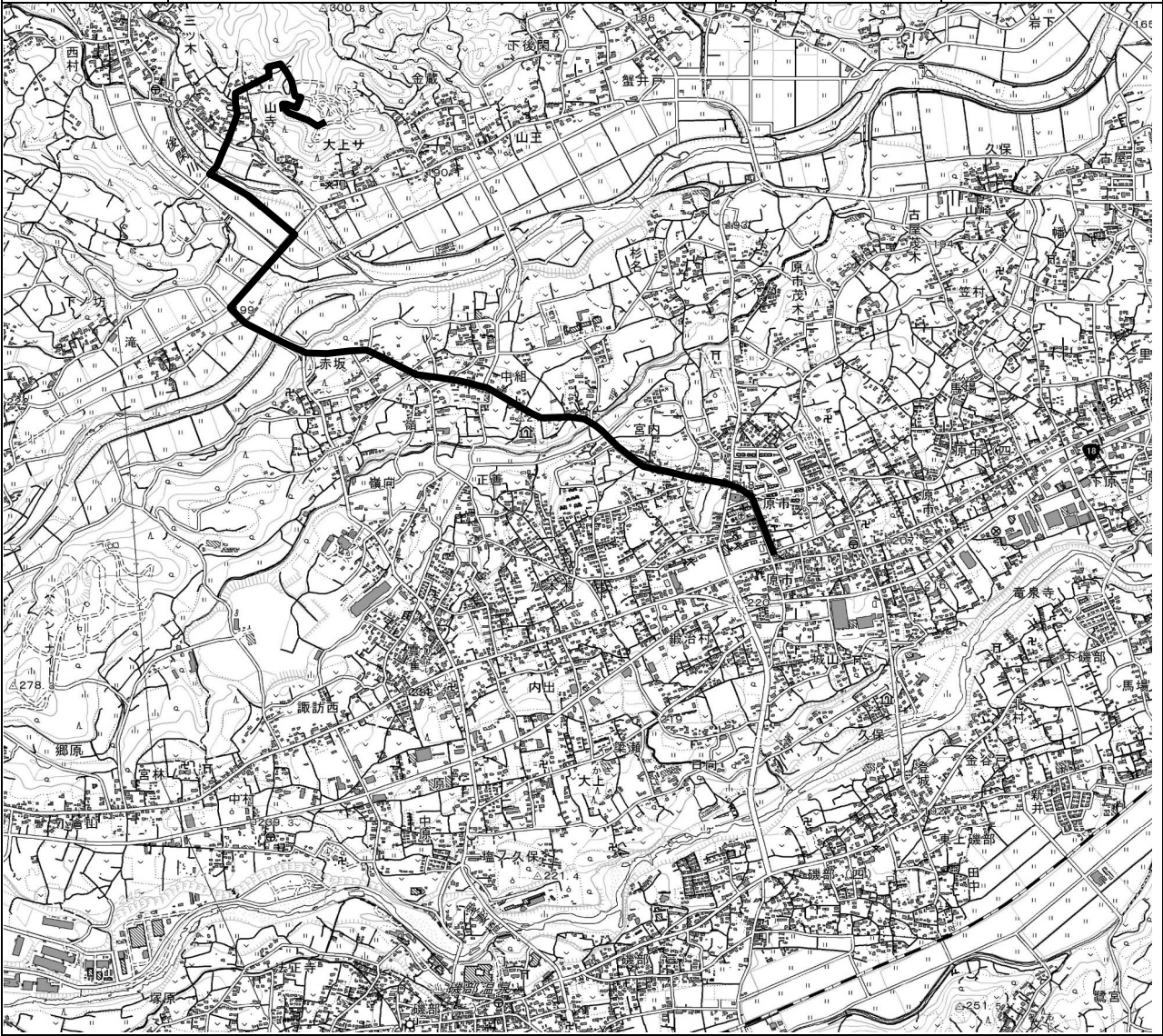
調査者

阪本 俊英

調 査 年 月 日			R5. 5. 28	R5. 5. 28	R5. 6. 4	R5. 6. 4	R5. 12. 10	R5. 12. 10	繁殖期							越冬期		
調 査 時 間			6 : 30 ＼ 8 : 20 (110分)	8 : 30 ＼ 10 : 20 (110分)	5 : 40 ＼ 7 : 30 (110分)	7 : 40 ＼ 9 : 30 (110分)	8 : 00 ＼ 9 : 55 (115分)	10 : 05 ＼ 12 : 00 (115分)	合 計	平 均	密度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均	
天 候			曇	曇	晴	晴	晴	晴	Σ①～④	⑦／4	1h当り	1ha当り				Σ⑤～⑥	⑧／2	
種 類 / 結 果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数			⑧	⑧／2						
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦							⑧		
5	キジ			○	1	○	○	○		1	0.25	0.14	0.01	0.1	0.4	B	○	
	カルガモ			7	5	13	4	2	○	29	7.25	3.95	0.36	4.2	12.9		2	1.00
	コガモ							2								2	1.00	
	キジバト			2	1	2	1	1	1	6	1.50	0.82	0.08	0.9	2.7	B	2	1.00
	カワウ			1		1	1			3	0.75	0.41	0.04	0.4	1.3			
10	ゴイサギ					○				○								
	アオサギ			5	4	5	4	1	2	18	4.50	2.45	0.23	2.6	8.0		3	1.50
	ダイサギ			5	3	4	3	○		15	3.75	2.05	0.19	2.2	6.7		○	
	ホトトギス			1		○				1	0.25	0.14	0.01	0.1	0.4	B		
	アマツバメ					○				○								
15	トビ			1	2	1	○	○	1	4	1.00	0.55	0.05	0.6	1.8		1	0.50
	オオタカ			1				○		1	0.25	0.14	0.01	0.1	0.4		○	
	ノスリ								1							1	0.50	
	カワセミ					○				○								
	コゲラ			2	3	○	2	1	2	7	1.75	0.95	0.09	1.0	3.1		3	1.50
20	チョウゲンボウ			○						○								
	モズ			○	2	7	4	7	10	13	3.25	1.77	0.16	1.9	5.8	A	17	8.50
	カケス							2	○							2	1.00	
	オナガ					○	○		○	○						○		
	ハシボソガラス			5	8	8	7	4	15	28	7.00	3.82	0.35	4.1	12.5	B	19	9.50
25	ハシブトガラス			○	○	○	○	○	○	○							○	
	ヤマガラ			2	3				1	5	1.25	0.68	0.06	0.7	2.2		1	0.50
	シジュウカラ			2	○	10	2	2	5	14	3.50	1.91	0.18	2.0	6.3	B	7	3.50
	ヒバリ			2	1	4	2	○		9	2.25	1.23	0.11	1.3	4.0	B	○	
	ツバメ			11	8	14	15			48	12.00	6.55	0.60	7.0	21.4	B		
30	イワツバメ			14	18	5	3			40	10.00	5.45	0.50	5.8	17.9			
	ヒヨドリ			1	7	7	4	31	44	19	4.75	2.59	0.24	2.8	8.5	B	75	37.50
	ウグイス			3	1	1	4	2	2	9	2.25	1.23	0.11	1.3	4.0	B	4	2.00
	エナガ					10		2		10	2.50	1.36	0.13	1.5	4.5		2	1.00
	メジロ			10	1	6	1	○	4	18	4.50	2.45	0.23	2.6	8.0	B	4	2.00
35	オオヨシキリ				○	○	○			○						B		
	セッカ			○	1	○	○			1	0.25	0.14	0.01	0.1	0.4	B		
	ムクドリ			42	10	2	17	18	○	71	17.75	9.68	0.89	10.3	31.7	B	18	9.00
	ツグミ							67	2								69	34.50
	キビタキ			○	1	○				1	0.25	0.14	0.01	0.1	0.4	B		
40	スズメ			120	42	35	27	67	42	224	56.00	30.55	2.80	32.6	100.0	A	109	54.50
	キセキレイ			2	2					4	1.00	0.55	0.05	0.6	1.8			
	ハクセキレイ			5	1	4	3	8	3	13	3.25	1.77	0.16	1.9	5.8	B	11	5.50
	セグロセキレイ			1	4	5	2	3	4	12	3.00	1.64	0.15	1.7	5.4	B	7	3.50
	カワラヒワ			3	1	○	2	6	12	6	1.50	0.82	0.08	0.9	2.7	B	18	9.00
45	シメ							1	2								3	1.50
	イカル							100									100	50.00
	ホオジロ			7	12	3	8	100	21	30	7.50	4.09	0.38	4.4	13.4	A	121	60.50
	カシラダカ							2	6								8	4.00
	アオジ							3	2								5	2.50
50	コジュケイ			2	○	○	1	○		3	0.75	0.41	0.04	0.4	1.3	B	○	
	カワラバト (ドバト)								○								○	
	ガビチョウ			5	2	3	2	1		12	3.00	1.64	0.15	1.7	5.4	B	1	0.50
	カオジロガビチョウ			2	4	6	○	5	5	12	3.00	1.64	0.15	1.7	5.4		10	5.00
計	範囲内	個体数	264	148	156	119	438	187	687	171.75	93.68	8.59				625	312.50	
		種 数	28	27	23	23	25	22	33							29		
		全 種 数	34	31	36	30	33	28	40							37		

調 査 地 の 概 況

市町村名	安中市（旧安中市）	地形図名	松井田a	調 査 者	木村 紀久
調査範囲	4 k m（調査距離）×50 m（幅）=20ha			調査地の標高	199 ～ 270 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

○	広葉樹林（自然林・雑木林）	原市小学校東から八咫川、九十九川、後閑川を渡って、後閑城址公園までのコースである。市街地を通る部分が多いが、田畑や里山的環境の部分もあり、変化に富んだ環境を有する。川が3本あるため水場は豊富で、周辺には多くの樹種がみられ、食餌植物や昆虫類なども多い。なお 遊休耕作地や八咫川河川敷の一部には、大型の太陽光発電パネルが設置されている。 今回の調査で、営巣中のツバメとイワツバメ、スズメが記録され、ヒヨドリの巣立ち雛が観察され、繁殖が確認された。
－	針葉樹林（自然林）	
○	植林地（人工林）	
－	草地・草原・ヨシ原	
○	農耕地（田・畑・果樹園）	
○	里山・疎らな民家	
◎	市街地・工業団地	
○	河川湖沼・河川敷	
		← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

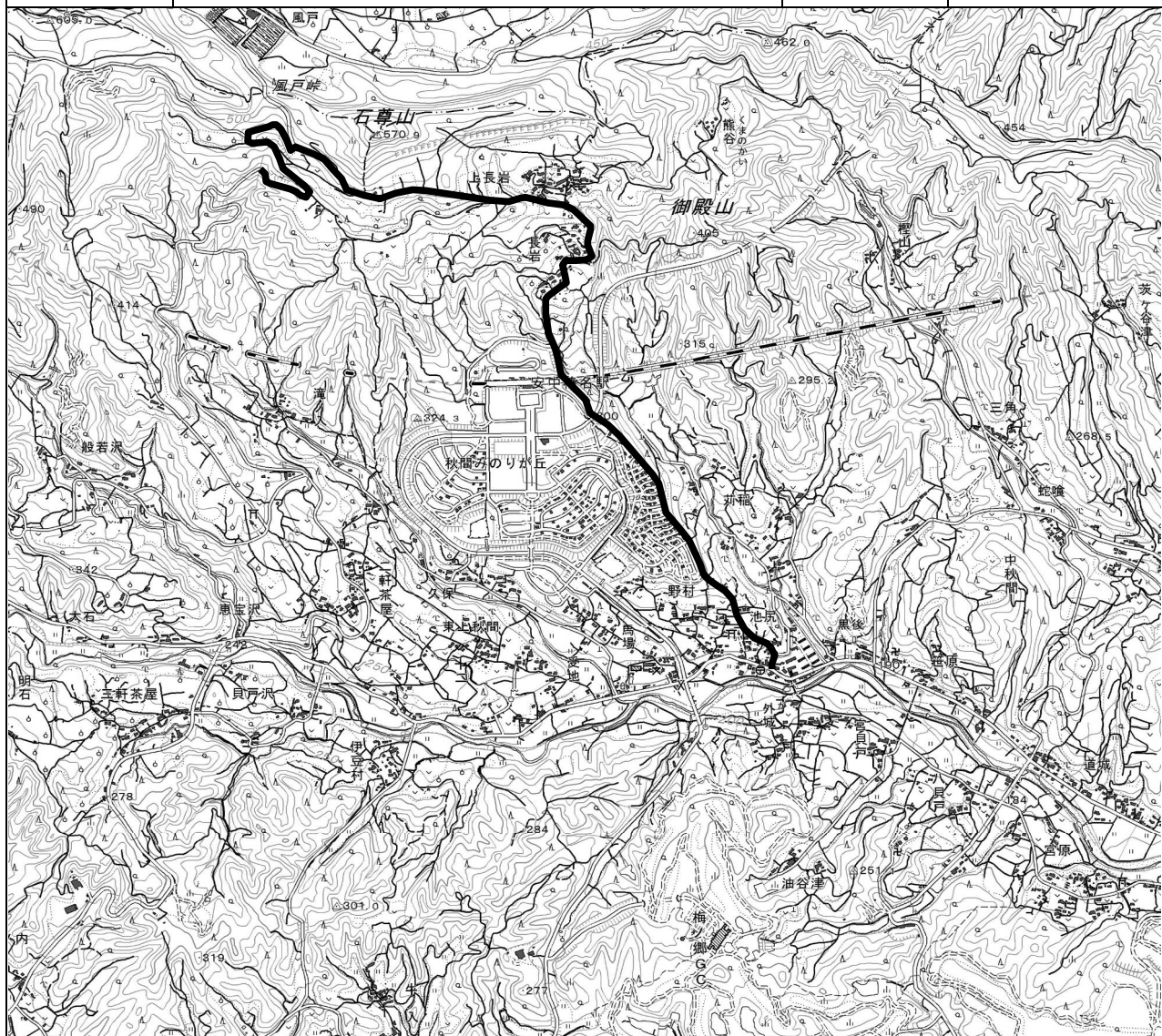
調査コースは前回と同じである。繁殖期2回目に範囲外で記録されたキツツキ類は、鳴き声からアオゲラであると思われた。

地形図名	松井田a	調査者	木村 紀久
------	------	-----	-------

-103-

調 査 地 の 概 況

市町村名	安中市（旧安中市）	地形図名	三ノ倉b	調 査 者	清水 英明
調査範囲	4 k m（調査距離）× 50 m（幅）＝ 20 ha			調査地の標高	190 ～ 480 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース 

◎	広葉樹林（自然林・雑木林）	池尻地区から長岩を通り、風戸峠までのコースである。コースの北側は広葉樹林が目立ち、全体的に農耕地が点在する。また、廃農した農地にはソーラーパネルが目立つ。今回の調査ではガビチョウほど多くはないが、カオジロガビチョウがよく見られ、冬はソウシチョウも記録された。 今回の調査では、繁殖が確認された種はなかった。
—	針葉樹林（自然林）	
○	植林地（人工林）	
○	草地・草原・ヨシ原	
◎	農耕地（田・畑・果樹園）	
○	里山・疎らな民家	
○	市街地・工業団地	
—	河川湖沼・河川敷	

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

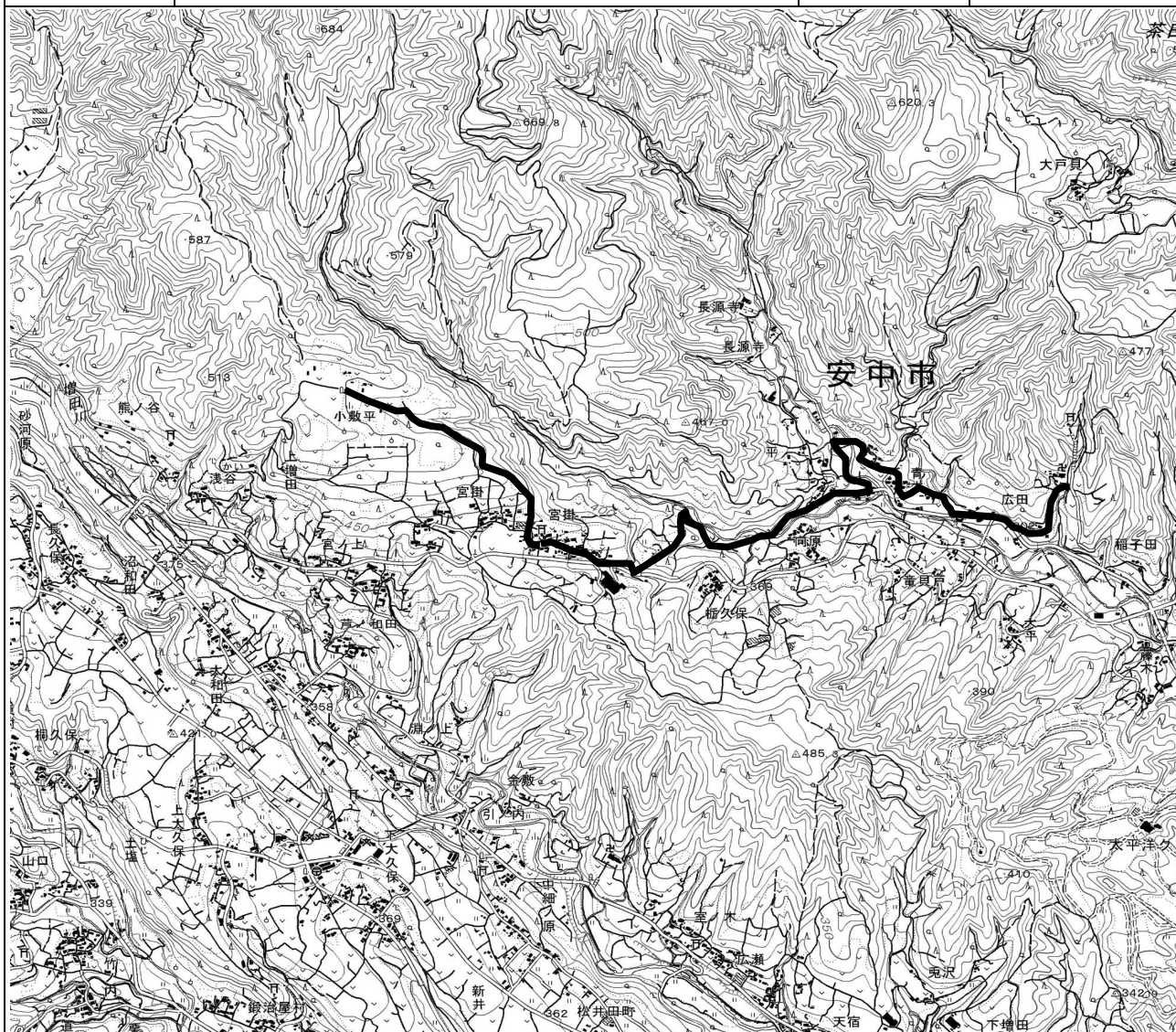
調査コースは前回と同じである。

地形図名	三ノ倉b	調査者	清水 英明
------	------	-----	-------

-105-

調査地の概況

市町村名	安中市（旧安中市）	地形図名	三ノ倉d	調 査 者	田澤 一郎
調査範囲	4 k m（調査距離）×50m（幅）=20ha			調査地の標高	300 ～ 510 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）		調査コース
○	広葉樹林（自然林・雑木林）	集落周辺には棚田や畑地があり、雑木林や竹林も多い。小さな沢が数本あるため、冬季でも水場には困らない。 今回の調査では、営巢中のツバメとホオジロおよび、キセキレイとセグロセキレイの幼鳥が観察され、繁殖が確認された。また、冬期にもガビチョウとコジュケイの囀りを記録した。 冬期の調査で、宮掛地内の耕作地にソーラーパネルが設置されており、今後の鳥類への影響に注目したい。
—	針葉樹林（自然林）	
◎	植林地（人工林）	
—	草地・草原・ヨシ原	
○	農耕地（田・畑・果樹園）	
○	里山・疎らな民家	
—	市街地・工業団地	
○	河川湖沼・河川敷	← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。
<備考> 調査コースは前回と同じである。越冬期の往路で、民家の前を通過する時に飼犬にいつまでも吠えられた。繁殖期2日目に、路上でヒミズの死体を観察し、シカの声聞こえた。越冬期には、宮掛地内の耕作地にソーラーパネルが設置されていた。		

生 息 調 査 集 計 表

地形図名	三ノ倉d	調査者	田澤 一郎
------	------	-----	-------

調 査 年 月 日	R5. 6. 5	R5. 6. 5	R5. 6. 20	R5. 6. 20	R5. 12. 14	R5. 12. 14	繁殖期							越冬期	
	4 : 45 6 : 40 (115分)	7 : 10 9 : 05 (115分)	4 : 45 6 : 55 (130分)	7 : 20 9 : 25 (125分)	6 : 40 8 : 25 (105分)	8 : 35 10 : 20 (105分)	合 計	平 均	密度		種 優 占 度	相 対 出 現 頻 度	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均
天 候	晴	曇	曇	曇	晴	晴	Σ①~④	⑦/4	1h当り	1ha当り	(%)	(%)		Σ⑤~⑥	⑧/2
種 類 / 結 果	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	⑦							⑧	
ヤマドリ		1					1	0.25	0.12	0.01	0.2	0.8			
キジ	1	2	2	1	1		6	1.50	0.74	0.08	1.1	4.8		1	0.50
カルガモ	2						2	0.50	0.25	0.03	0.4	1.6			
キジバト	10	4	11	6	8	1	31	7.75	3.84	0.39	5.5	24.8		9	4.50
5 アオバト	1	2		1			4	1.00	0.49	0.05	0.7	3.2	B		
ダイサギ			1				1	0.25	0.12	0.01	0.2	0.8			
ホトトギス	2	1	1	2			6	1.50	0.74	0.08	1.1	4.8	B		
トビ						○								○	
ノスリ	1	○	1	○			2	0.50	0.25	0.03	0.4	1.6			
10 フクロウ	1						1	0.25	0.12	0.01	0.2	0.8			
アカゲラ	1				2		1	0.25	0.12	0.01	0.2	0.8		2	1.00
アオゲラ	1	2	4	3	2	2	10	2.50	1.24	0.13	1.8	8.0	B	4	2.00
サンコウチョウ			○				○								
モズ						1								1	0.50
15 カケス					19	18								37	18.50
ハシボソガラス	○	○	1	3	1	1	4	1.00	0.49	0.05	0.7	3.2		2	1.00
ハシブトガラス	2	1	4	2	1	2	9	2.25	1.11	0.11	1.6	7.2		3	1.50
ヤマガラ			1				1	0.25	0.12	0.01	0.2	0.8			
シジュウカラ	2	3	1	2	6	4	8	2.00	0.99	0.10	1.4	6.4	B	10	5.00
20 ツバメ	10	7	17	24			58	14.50	7.18	0.73	10.3	46.4	A		
ヒヨドリ	24	25	31	24	19	27	104	26.00	12.87	1.30	18.5	83.2		46	23.00
ウグイス	24	33	37	31	2	10	125	31.25	15.46	1.56	22.2	100.0	B	12	6.00
ヤブサメ	3	3	2	1			9	2.25	1.11	0.11	1.6	7.2	B		
メジロ	2	6	12	16	4	6	36	9.00	4.45	0.45	6.4	28.8	B	10	5.00
25 ミソサザイ					1									1	0.50
トラツグミ		○	○	1			1	0.25	0.12	0.01	0.2	0.8	B		
クロツグミ	1	3	1	2			7	1.75	0.87	0.09	1.2	5.6	B		
ツグミ					2	1								3	1.50
ルリビタキ						1								1	0.50
30 ジョウビタキ					1	4								5	2.50
キビタキ	6	5	2	1			14	3.50	1.73	0.18	2.5	11.2	B		
スズメ		2	1	6	15	3	9	2.25	1.11	0.11	1.6	7.2		18	9.00
キセキレイ	3	2	4	7		2	16	4.00	1.98	0.20	2.8	12.8	A	2	1.00
セグロセキレイ				1			1	0.25	0.12	0.01	0.2	0.8	A		
35 カワラヒワ	2	4	1	1	6	5	8	2.00	0.99	0.10	1.4	6.4	B	11	5.50
ベニマシコ					3	1								4	2.00
シメ					1	1								2	1.00
イカル	1			1			2	0.50	0.25	0.03	0.4	1.6			
ホオジロ	4	5	5	6	1	1	20	5.00	2.47	0.25	3.6	16.0	A	2	1.00
40 カシラダカ						30								30	15.00
アオジ					1									1	0.50
コジュケイ	2		2	1	○	2	5	1.25	0.62	0.06	0.9	4.0	B	2	1.00
ガビチョウ	12	12	23	10	1	1	57	14.25	7.05	0.71	10.1	45.6	B	2	1.00
カオジロガビチョウ		3					3	0.75	0.37	0.04	0.5	2.4			
45															
50															
計	範囲内	個体数	118	126	165	153	97	124	562	140.50	69.53	7.03		221	110.50
		種 数	24	21	23	24	21	22	32					26	
		全 種 数	25	24	25	25	22	23	33					27	

安中市（旧松井田町）鳥類生息密度調査結果

1. 調査地の環境

安中市（旧松井田町）に含まれる調査地は下表の 5 メッシュで、標高からは軽井沢 a・b と松井田 c が低山帯に、軽井沢 c・d が山地帯に属する。調査コースは山間の林道や登山道を中心とするコース（軽井沢 a～d）と里山環境を中心とするコース（松井田 c）である。全メッシュとも調査コースは前回と同じであり、環境にも大きな変化はみられなかった。

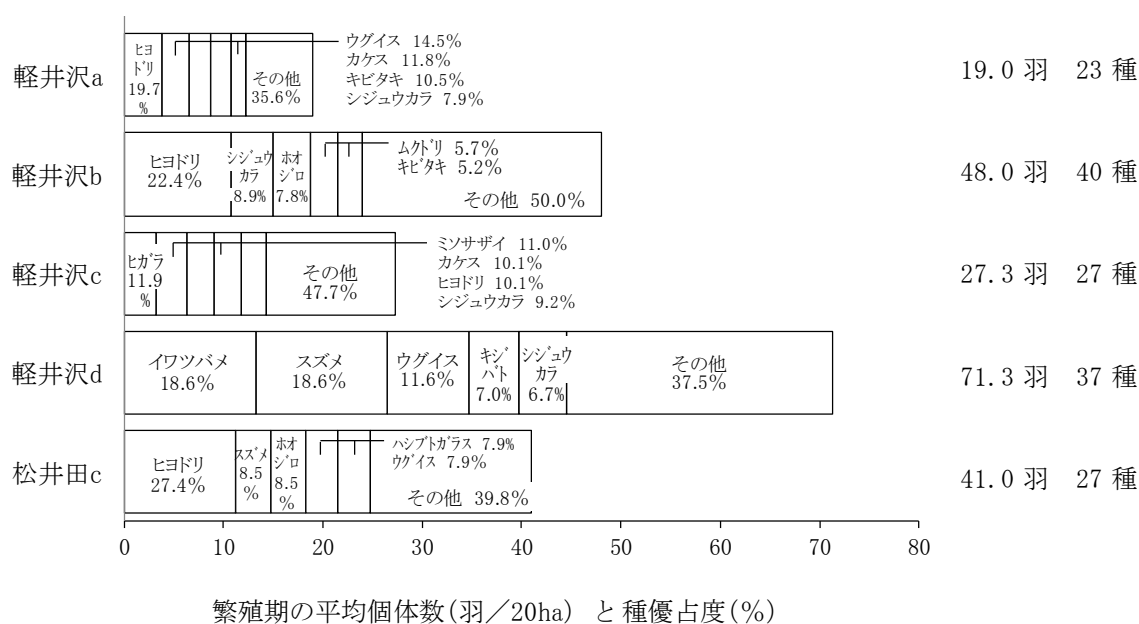
調査 メッシュ	標高	環境要素								調査コース
		広葉樹林	針葉樹林	植林地	草地草原	農耕地	里山集落	市街地	河川湖沼	
軽井沢a	520 ～ 840	○	—	◎	—	—	—	—	◎	前回と同じ
軽井沢b	465 ～ 720	○	—	◎	○	○	○	—	○	前回と同じ
軽井沢c	840 ～ 1270	◎	—	○	—	—	—	—	○	前回と同じ
軽井沢d	920 ～ 1190	○	—	◎	○	—	○	—	—	前回と同じ
松井田c	340 ～ 400	○	—	○	○	◎	◎	—	—	前回と同じ

2. 調査結果と考察

今年度の調査では、繁殖期に 57 種、越冬期に 50 種、年間では 73 種が記録された。なお、前々回（平成 25 年度実施）は年間 79 種、前回（平成 30 年度実施）は年間 69 種が記録されている。

(1) 繁殖期

繁殖期の調査結果は下図のとおりである。集落が含まれる軽井沢 d と松井田 c ではスズメが優占種に入ったが、その他はヒヨドリやウグイス、シジュウカラといった森林性の種が優占した。今回の調査地域全体の平均と比較すると、種数が軽井沢 b・d でやや多く、軽



井沢 a・c と松井田 c でやや少なかった。個体数は軽井沢 d が平均的だが、他のメッシュでは少なかった。植林地を中心とした山間部の調査コースであることから、環境が比較的単純であることが一因と考えられる。特筆すべき種として、群馬県版 RDB に掲載されているカッコウ、ジュウイチ、ヨタカ、オオタカ、アオバズク、サンショウクイ、オナガ、ノジコなど合計 11 種と、環境省の特定外来生物に指定されているガビチョウが記録された。このうち、準絶滅危惧のオオタカ（軽井沢 d）は生態系の頂点付近に位置する猛禽類である。また、絶滅危惧Ⅱ類のヨタカ（軽井沢 b）とアオバズク（軽井沢 b）は県内での個体数が著しく減少しており、どちらも良好な環境の指標として重要である。

(2) 越冬期

越冬期の優占種は下表のとおりである。今回の調査地域全体の平均と比較すると、軽井沢 b の種数が多く、他はやや少なかった。環境が比較的単調な植林地が多いことと標高が高いことが一因と考えられる。繁殖期同様、集落があるメッシュではスズメが優占種に入ったが、全体的にはヒヨドリやカラ類など森林性の種が優占し、冬鳥のマヒワやシメ、ツグミが優占種に入った。

調査メッシュ	優占種（上位 5 種*）					平均個体数 (羽/20ha)	種数 (種)
	1位	2位	3位	4位	5位		
軽井沢a	マヒワ	シジュウカラ	ヒガラ	カワラヒワ	ミソサザイ	46.0	17
軽井沢b	シジュウカラ	シメ	カシラダカ	ヒヨドリ	ホオジロ	117.0	39
軽井沢c	カワラヒワ	シジュウカラ	ヤマガラ	ヒヨドリ	エナガ	41.0	19
軽井沢d	スズメ	ツグミ	シジュウカラ	キジバト	ヒヨドリ	44.0	26
松井田c	ヒヨドリ	カワラヒワ	スズメ	ハシブトガラス	アオジ	49.5	20

* 同率の場合は分類順に5種まで掲載

(3)過去の調査結果との比較

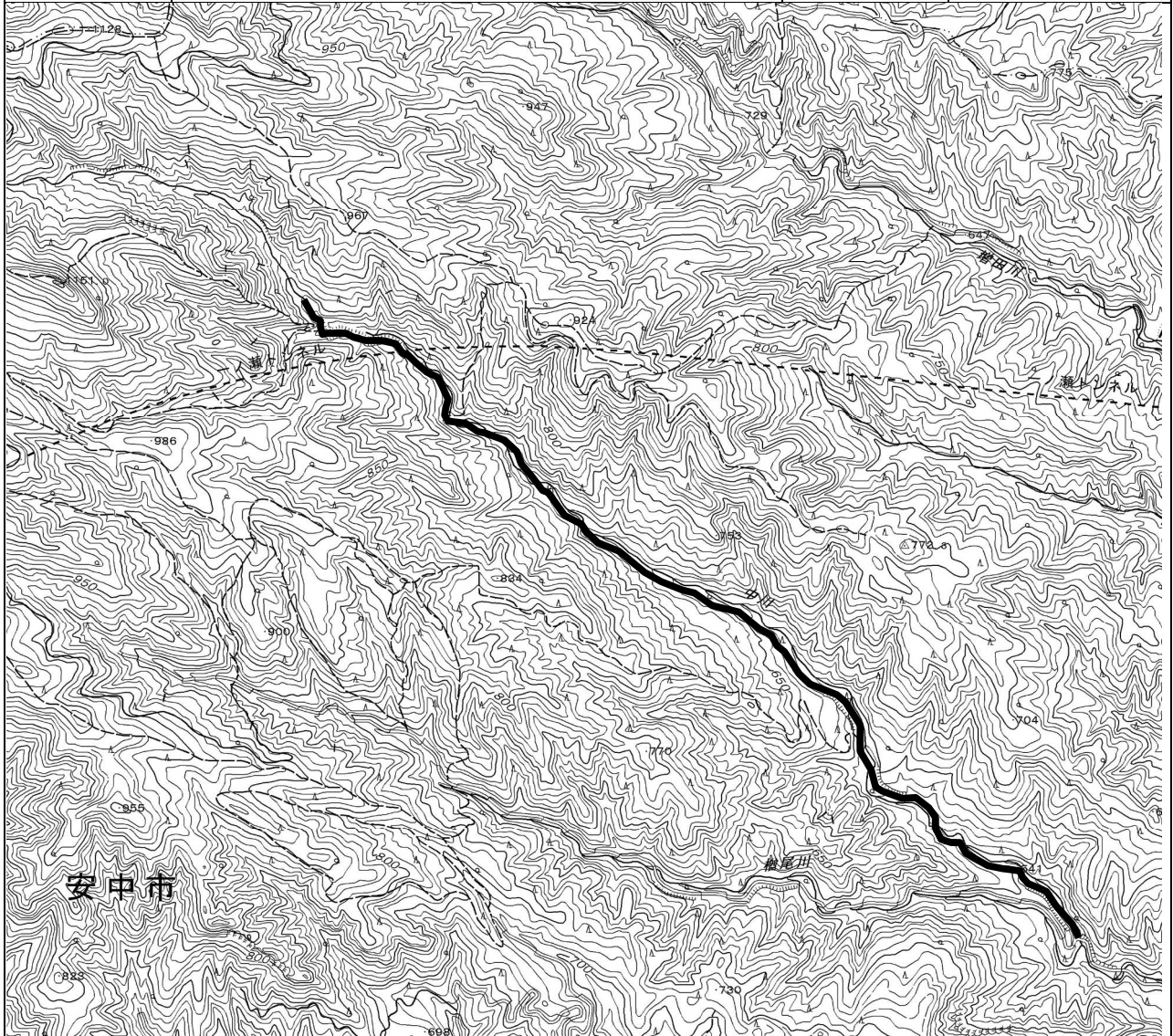
直近 3 回分の調査結果は下表のとおりである。軽井沢 a では繁殖期の個体数が減少しており、他のメッシュの種数や個体数には変動がみられるが、旧松井田町全体では著しい増加や減少はみられなかった。

過去 2 回の調査で記録が無く今回新たに記録された種は、アオバズク、オオアカゲラ、イスカ、シメ、カワラバト（ドバト）の 5 種であった。一方、過去 2 回とも記録があるのに今回記録されなかったのはクマタカ、コムクドリ、コサメビタキの 3 種であった。

調査メッシュ	繁殖期						越冬期					
	種数(種)			平均個体数(羽/20ha)			種数(種)			平均個体数(羽/20ha)		
	H25	H30	R5	H25	H30	R5	H25	H30	R5	H25	H30	R5
軽井沢a	26	21	23	61.0	27.5	19.0	23	9	17	63.0	23.0	46.0
軽井沢b	43	37	40	85.8	51.5	48.0	25	27	39	97.0	122.0	117.0
軽井沢c	33	34	27	51.0	36.8	27.3	19	17	19	48.0	158.0	41.0
軽井沢d	41	42	37	130.3	80.3	71.3	27	22	26	69.5	67.5	44.0
松井田c	32	26	27	114.0	56.5	41.0	25	19	20	98.0	34.5	49.5

調 査 地 の 概 況

市町村名	安中市（旧松井田町）	地形図名	軽井沢a	調 査 者	瀧川 二士男
調査範囲	4 k m（調査距離）× 50 m（幅）＝ 20 ha			調査地の標高	520 ～ 840 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース 

○ 広葉樹林（自然林・雑木林）

— 針葉樹林（自然林）

◎ 植林地（人工林）

— 草地・草原・ヨシ原

— 農耕地（田・畑・果樹園）

— 里山・疎らな民家

— 市街地・工業団地

◎ 河川湖沼・河川敷

中川林道起点の大島橋から中川沿いの林道を進む調査コースである。スギの植林地が主だが、河川に沿って一部に広葉樹の雑木林がある。コースが深い谷筋であり、木が茂っていることから見通しの悪い場所があり、上空の鳥は確認しづらい。
今回の調査で繁殖が確認された種はなかった。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じである。沢沿いのコースのため、沢の音が気になった。繁殖期1日目往路でリスを、復路で子連れのイノシシを観察した。

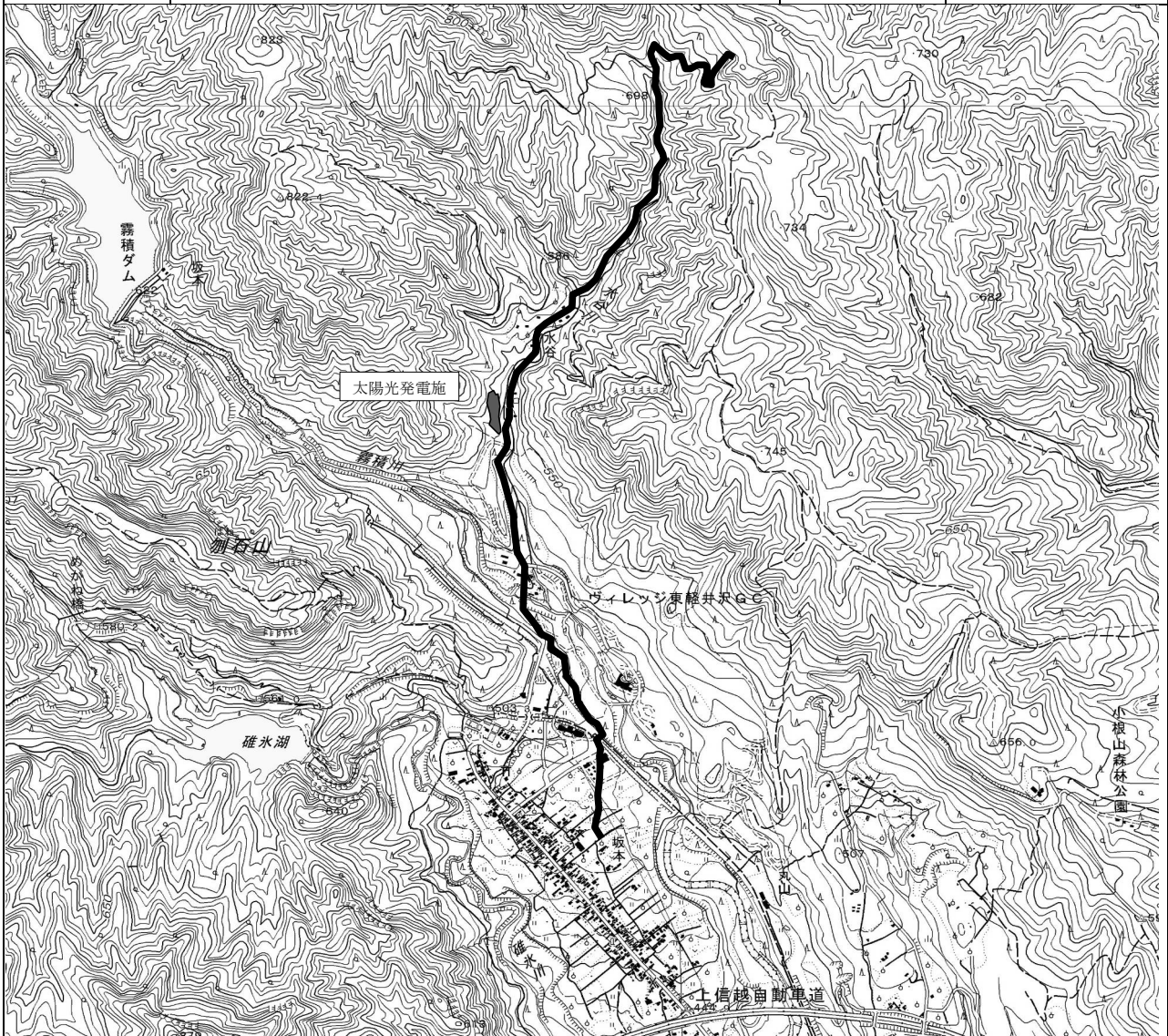
生 息 調 査 集 計 表

地形図名	軽井沢a	調査者	瀧川 二士男
------	------	-----	--------

調 査 年 月 日		R5. 5. 30	R5. 5. 30	R5. 6. 17	R5. 6. 17	R5. 12. 8	R5. 12. 8	繁殖期						越冬期		
調 査 時 間		5 : 50 〃 7 : 30 (100分)	7 : 40 〃 9 : 10 (90分)	4 : 45 〃 6 : 20 (95分)	6 : 30 〃 8 : 00 (90分)	8 : 15 〃 9 : 55 (100分)	10 : 10 〃 11 : 40 (90分)	合 計	平 均	密 度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均
天 候		晴	晴	晴	晴	晴	晴	Σ①～④	⑦／4	1h当り	1ha当り				Σ⑤～⑥	⑧／2
種 類 / 結 果		羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数			⑧						
5		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦								
	ヤマドリ				○			○								
	キジバト			1				1	0.25	0.16	0.01	1.3	6.7			
	アオバト		○	○	○			○						B		
	ツツドリ		○					○								
	コゲラ	2						2	0.50	0.32	0.03	2.6	13.3			
	サンショウクイ			1				1	0.25	0.16	0.01	1.3	6.7			
	カケス	3	○	2	4		1	9	2.25	1.44	0.11	11.8	60.0		1	0.50
	ハシブトガラス	○		○		2	○	○							2	1.00
	コガラ					4									4	2.00
10	ヤマガラ	1	2			3	1	3	0.75	0.48	0.04	3.9	20.0		4	2.00
	ヒガラ			1	○	5	8	1	0.25	0.16	0.01	1.3	6.7		13	6.50
	シジュウカラ	1	1	1	3	5	9	6	1.50	0.96	0.08	7.9	40.0	B	14	7.00
	ヒヨドリ	2	4	4	5	○	○	15	3.75	2.40	0.19	19.7	100.0		○	
15	ウグイス	4	5	○	2			11	2.75	1.76	0.14	14.5	73.3	B		
	メジロ	2		○				2	0.50	0.32	0.03	2.6	13.3			
	ミソサザイ	1	1	1	1	4	1	4	1.00	0.64	0.05	5.3	26.7	B	5	2.50
	カワガラス	1	1	1	1			4	1.00	0.64	0.05	5.3	26.7			
	トラツグミ				○			○								
20	クロツグミ		○	○	○			○						B		
	ルリビタキ					1	2								3	1.50
	キビタキ	3	2	2	1			8	2.00	1.28	0.10	10.5	53.3	B		
	オオルリ	1	1		2			4	1.00	0.64	0.05	5.3	26.7	B		
25	カヤクグリ					○									○	
	キセキレイ						2								2	1.00
	アトリ					1	○								1	0.50
	カワラヒワ	○				7		○							7	3.50
	マヒワ					17	12								29	14.50
30	ウソ					5	○								5	2.50
	イカル					1									1	0.50
	ホオジロ	1		2	2	1		5	1.25	0.80	0.06	6.6	33.3	B	1	0.50
	ガビチョウ	○		○	○			○						B		
35																
40																
45																
50																
計	個 体 数	22	17	16	21	56	36	76	19.00	12.16	0.95				92	46.00
	種 数	12	8	10	9	13	8	15							15	
	全 種 数	15	12	16	15	15	12	23							17	

調 査 地 の 概 況

市町村名	安中市（旧松井田町）	地形図名	軽井沢b	調 査 者	深井 宣男
調査範囲	4 k m（調査距離）× 50 m（幅）＝ 20 ha			調査地の標高	465 ～ 720 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

○	広葉樹林（自然林・雑木林）	コース南端は旧中山道坂本宿で人家があり、途中に耕作地やゴルフ場に隣接する部分もあるが、大半はスギを主とする植林地の中を進む、沢沿いの林道である。沢の水は冬でも枯れず、周辺には草地や広葉樹の雑木がある。マス釣り場の西の太陽光発電施設は増設工事中であった。 今回の調査では営巢中のムクドリが記録され、繁殖が確認された。。
－	針葉樹林（自然林）	
◎	植林地（人工林）	
○	草地・草原・ヨシ原	
○	農耕地（田・畑・果樹園）	
○	里山・疎らな民家	
－	市街地・工業団地	
○	河川湖沼・河川敷	
		← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じである。繁殖期にはカモシカ、サル、シカを観察した。水谷川ではカジカガエルの声を聞いた。マス釣り場の西側斜面では太陽光発電施設を増設工事中。ゴルフ場脇の町道は草刈りがされておらず、踏み跡も不明瞭となっている。次回は廃線軌道に変更したほうがよい。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

軽井沢b

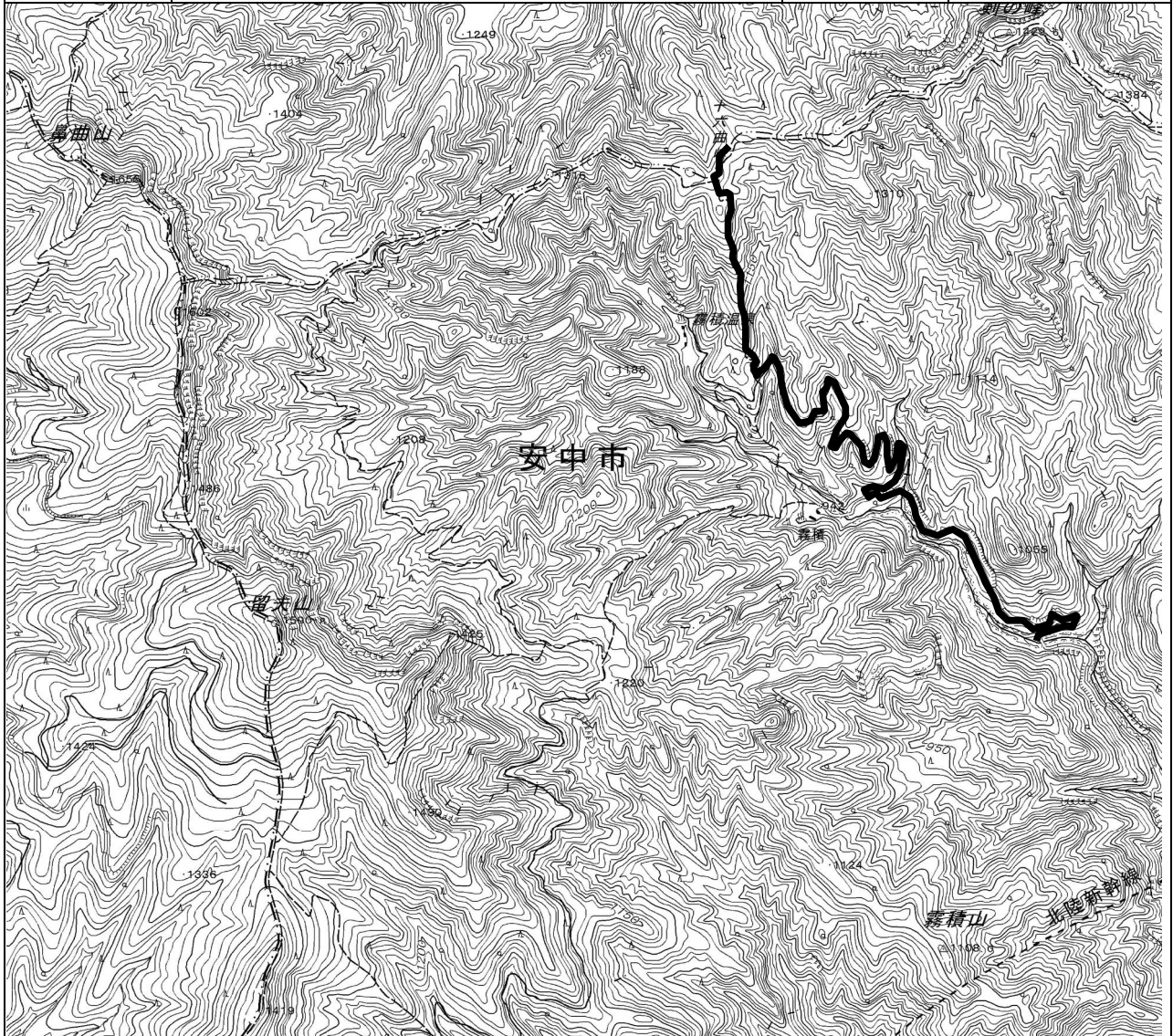
調査者

深井 宣男

調 査 年 月 日		R5. 5. 25	R5. 5. 25	R5. 6. 29	R5. 6. 29	R5. 12. 31	R5. 12. 31	繁殖期						越冬期	
調 査 時 間		4 : 10 5 : 40 (90分)	5 : 50 7 : 20 (90分)	3 : 55 5 : 25 (90分)	5 : 30 7 : 00 (90分)	8 : 50 10 : 50 (120分)	11 : 00 12 : 30 (90分)	合 計	平 均 (90分)	密 度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計 (105分)
天 候		曇	曇	晴	晴	曇	晴	Σ①~④	⑦ / 4	1h当り	1ha当り				Σ⑤~⑥
種 類 / 結 果		羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	⑦							⑧ / 2
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦							⑧
5	キジ	○	○		1	2		1	0.25	0.17	0.01	0.5	2.3	B	2
	カルガモ	4	○					4	1.00	0.67	0.05	2.1	9.3		
	キジバト	○	2	○	2	4	1	4	1.00	0.67	0.05	2.1	9.3	B	5
	アオバト	1		○	○			1	0.25	0.17	0.01	0.5	2.3	B	
	アオサギ	1			1	○		2	0.50	0.33	0.03	1.0	4.7		○
10	ツツドリ				○			○							
	ヨタカ	○						○							
	トビ					1									1
	アオバズク			○				○							0.50
	コゲラ		1		1	1	3	2	0.50	0.33	0.03	1.0	4.7		4
15	アカゲラ	1		○		○	1	1	0.25	0.17	0.01	0.5	2.3		1
	アオゲラ	○						○							0.50
	サンショウクイ		2		1			3	0.75	0.50	0.04	1.6	7.0	B	
	モズ		2		2	○		4	1.00	0.67	0.05	2.1	9.3		○
	カケス	5		○	○	4	1	5	1.25	0.83	0.06	2.6	11.6	B	5
20	オナガ				2			2	0.50	0.33	0.03	1.0	4.7		
	ハシボソガラス	3	1		3	○		7	1.75	1.17	0.09	3.6	16.3		○
	ハシブトガラス	1			2	○	○	3	0.75	0.50	0.04	1.6	7.0		○
	キクイタダキ						1								1
	ヤマガラ	4	○			3	3	4	1.00	0.67	0.05	2.1	9.3		0.50
25	ヒガラ			○	○	3		○							3
	シジュウカラ	9	1	2	5	15	11	17	4.25	2.83	0.21	8.9	39.5	B	26
	ツバメ	1	○		4			5	1.25	0.83	0.06	2.6	11.6		13.00
	イワツバメ				4			4	1.00	0.67	0.05	2.1	9.3		
	ヒヨドリ	10	10	11	12	11	11	43	10.75	7.17	0.54	22.4	100.0		
30	ウグイス	1	○	2	3			6	1.50	1.00	0.08	3.1	14.0	B	22
	ヤブサメ	1	1	2	1			5	1.25	0.83	0.06	2.6	11.6	B	11.00
	エナガ						20								20
	センダイムシクイ		1					1	0.25	0.17	0.01	0.5	2.3		10.00
	メジロ	○	1	4	2	○		7	1.75	1.17	0.09	3.6	16.3	B	○
35	ミツサザイ					4	2								6
	ムクドリ	○	6		5	○		11	2.75	1.83	0.14	5.7	25.6	A	3.00
	カワガラス					1	2								○
	トラツグミ		○	1	1			2	0.50	0.33	0.03	1.0	4.7	B	3
	クロツグミ			○	○			○							1.50
40	ツグミ					○									○
	ルリビタキ						1								1
	ジョウビタキ					1	1								0.50
	キビタキ	1	2	5	2			10	2.50	1.67	0.13	5.2	23.3	B	2
	オオルリ	3	2	2	1			8	2.00	1.33	0.10	4.2	18.6	B	1.00
45	スズメ		1					1	0.25	0.17	0.01	0.5	2.3		
	キセキレイ	1	1		1	1		3	0.75	0.50	0.04	1.6	7.0		1
	ハクセキレイ		1			1		1	0.25	0.17	0.01	0.5	2.3		0.50
	セグロセキレイ					1	2								3
	ビンズイ					2									1.50
50	カワラヒワ				○	12		○							2
	マヒワ					10									1.00
	ベニマシコ						○								12
	イスカ						○								6.00
	ウソ					5									○
55	シメ					25	1								5
	イカル				2			2	0.50	0.33	0.03	1.0	4.7		2.50
	ホオジロ	1	6	3	5	10	12	15	3.75	2.50	0.19	7.8	34.9	B	26
	カシラダカ					23	1								13.00
	アオジ					13	3								24
	クロジ						○								16
	コジュケイ	○	1		○	2		1	0.25	0.17	0.01	0.5	2.3	B	○
	ガビチョウ	2	2	○	3	○	2	7	1.75	1.17	0.09	3.6	16.3	B	2
															1.00
計	個体数	50	44	32	66	155	79	192	48.00	32.00	2.40				234
	種 数	18	19	9	24	24	19	33							29
	全 種 数	25	25	17	31	33	23	40							39

調 査 地 の 概 況

市町村名	安中市（旧松井田町）	地形図名	軽井沢c	調 査 者	浅川 千佳夫
調査範囲	4 k m（調査距離）×50m（幅）=20ha			調査地の標高	840 ～ 1270 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

◎	広葉樹林（自然林・雑木林）	水量の豊富な沢に沿った林道を霧積まで行き、霧積温泉から鼻曲山、剣の峰に向かう登山道を十六曲峠まで上がる調査コースである。霧積までは舗装されているが、その先は霧積温泉金湯館までが未舗装の林道、さらにその先は登山道である。コース全体が、林床にササが生える落葉広葉樹林で、一部に小面積のスギの植林地がある。 今回の調査では繁殖が確認された種はなかった。
—	針葉樹林（自然林）	
○	植林地（人工林）	
—	草地・草原・ヨシ原	
—	農耕地（田・畑・果樹園）	
—	里山・疎らな民家	
—	市街地・工業団地	
○	河川湖沼・河川敷	← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じである。エゾハルゼミの鳴き声、沢の音、登山道の落ち葉を踏む音で鳥の声が聞き取りにくい箇所があった。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

軽井沢c

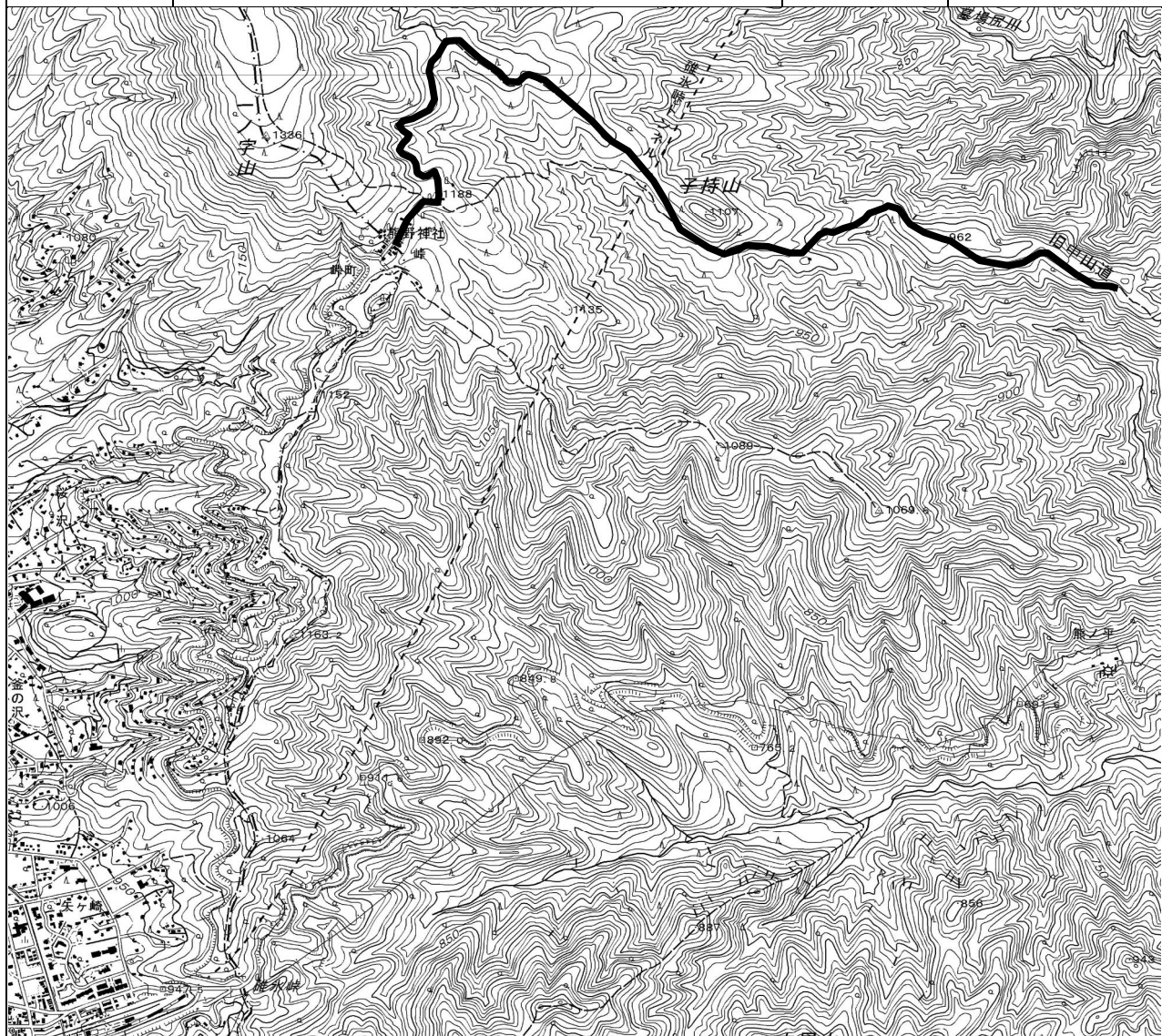
調査者

浅川 千佳夫

調 査 年 月 日			R5. 5. 27	R5. 5. 27	R5. 6. 18	R5. 6. 18	R5. 12. 1	R5. 12. 1	繁殖期								越冬期	
調 査 時 間			6 : 35 〃 8 : 30 (115分)	8 : 40 〃 10 : 40 (120分)	6 : 15 〃 8 : 05 (110分)	8 : 20 〃 10 : 20 (120分)	8 : 20 〃 10 : 20 (120分)	10 : 30 〃 12 : 10 (100分)	合 計	平 均	密度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均	
天 候			晴	晴	晴	曇	晴	晴	Σ①～④	⑦／ 4	1h当り	1ha当り				Σ⑤～⑥	⑧／ 2	
種 類 / 結 果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	⑦							⑧		
5				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦						1	0.50	
	ヤマドリ							1										
	キジバト			3	○	2				5	1.25	0.65	0.06	4.6	38.5			
	アオバト			○		○	○			○					B			
	ジュウイチ			○			○			○					B			
10	ツツドリ			○	○					○								
	トビ								○							○		
	コゲラ			1	1			1	1	2	0.50	0.26	0.03	1.8	15.4	2	1.00	
	アオゲラ			○	○	○				○								
	カケス			7	1		3	1	2	11	2.75	1.42	0.14	10.1	84.6	3	1.50	
15	ハシブトガラス			○		○	2		1	2	0.50	0.26	0.03	1.8	15.4	1	0.50	
	コガラ					3		○		3	0.75	0.39	0.04	2.8	23.1	○		
	ヤマガラ			3	4		○	5	4	7	1.75	0.90	0.09	6.4	53.8	B	9	4.50
	ヒガラ			2	5	2	4		1	13	3.25	1.68	0.16	11.9	100.0	B	1	0.50
	シジュウカラ				4	○	6	7	4	10	2.50	1.29	0.13	9.2	76.9	B	11	5.50
20	ヒヨドリ			7	1	1	2	2	4	11	2.75	1.42	0.14	10.1	84.6		6	3.00
	エナガ					1		4	2	1	0.25	0.13	0.01	0.9	7.7		6	3.00
	センダイムシクイ			○			1			1	0.25	0.13	0.01	0.9	7.7	B		
	メジロ					1				1	0.25	0.13	0.01	0.9	7.7			
	ゴジュウカラ						2	1		2	0.50	0.26	0.03	1.8	15.4		1	0.50
25	ミソサザイ			2	3	4	3		2	12	3.00	1.55	0.15	11.0	92.3	B	2	1.00
	カワガラス			1						1	0.25	0.13	0.01	0.9	7.7			
	トラツグミ						○			○								
	アカハラ			2	1	1	○			4	1.00	0.52	0.05	3.7	30.8	B		
	ツグミ								5								5	2.50
30	コルリ					1				1	0.25	0.13	0.01	0.9	7.7			
	キビタキ			3	1	3	2			9	2.25	1.16	0.11	8.3	69.2	B		
	オオルリ			3	1	3	○			7	1.75	0.90	0.09	6.4	53.8	B		
	カヤクグリ								1								1	0.50
	キセキレイ			1		1	1	○		3	0.75	0.39	0.04	2.8	23.1		○	
35	アトリ								○								○	
	カワラヒワ							23	4								27	13.50
	マヒワ							1	5								6	3.00
	イカル			1						1	0.25	0.13	0.01	0.9	7.7			
	ホオジロ					1	1			2	0.50	0.26	0.03	1.8	15.4			
40																		
45																		
50																		
計	範 囲 内	個 体 数	36	22	24	27	46	36	109	27.25	14.06	1.36				82	41.00	
		種 数	13	10	13	11	10	13	22							15		
		全 種 数	19	13	17	17	12	15	27							19		

調 査 地 の 概 況

市町村名	安中市（旧松井田町）	地形図名	軽井沢d	調 査 者	卯木 達朗
調査範囲	4 k m（調査距離）×50 m（幅）=20ha			調査地の標高	920 ～ 1190 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

○	広葉樹林（自然林・雑木林）	旧中山道、碓氷峠の最上部に位置するコース。碓氷川源流部の西側にあたる。現在でも登山者が多く、山道は整備されている。スギ、ヒノキ、カラマツの植林地が多いが、広葉樹の雑木林もあり、ニシキギ、ウメモドリ、サンショウ、マコモなどの食餌植物も多い。小沢があり、水量は少ないが冬も涸れない。 今回の調査では、営巢中のキジバトとコゲラ、シジュウカラ、イワツバメ、キビタキ、オオルリ、スズメが記録され、繁殖が確認された。
—	針葉樹林（自然林）	
◎	植林地（人工林）	
○	草地・草原・ヨシ原	
—	農耕地（田・畑・果樹園）	
○	里山・疎らな民家	
—	市街地・工業団地	
—	河川湖沼・河川敷	← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じである。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

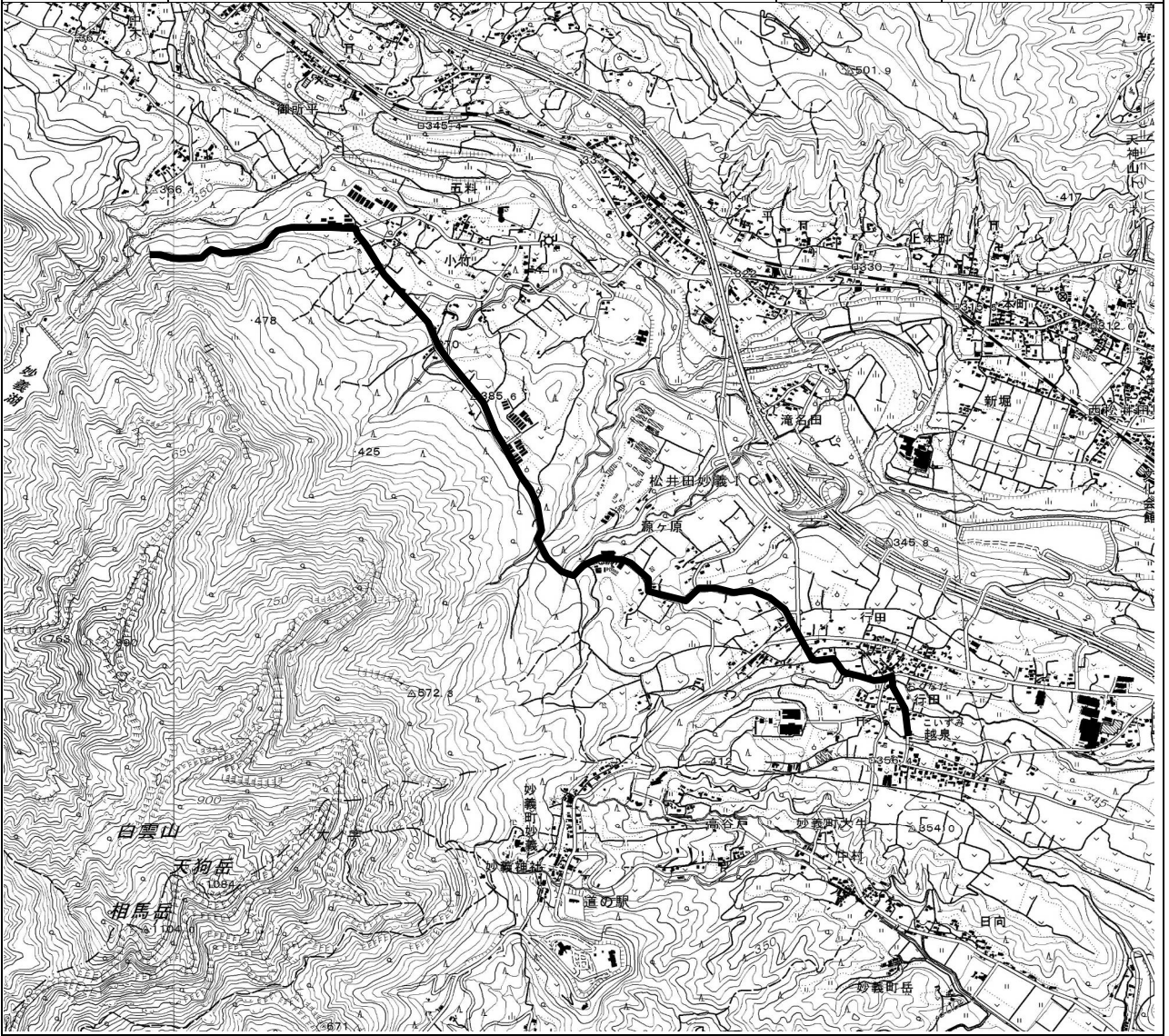
軽井沢d

調査者

卯木 達朗

調 査 年 月 日		R5. 5. 26	R5. 5. 26	R5. 6. 24	R5. 6. 24	R5. 12. 10	R5. 12. 10	繁殖期							越冬期	
調 査 時 間		4 : 00 5 6 : 10 (130分)	6 : 30 5 8 : 40 (130分)	4 : 00 5 6 : 10 (130分)	6 : 30 5 8 : 40 (130分)	7 : 00 5 9 : 10 (130分)	9 : 30 5 11 : 35 (125分)	合 計	平 均 (130分)	密度		種 優 占 度	相 対 出 現 頻 度	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均 (128分)
天 候		晴	晴	晴	晴	晴	晴	Σ①~④	⑦ / 4	1h当り	1ha当り	(%)	(%)		Σ⑤~⑥	⑧ / 2
種 類 / 結 果		羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	⑦							⑧	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦								
ヤマドリ						○									○	
キジバト		4	5	8	3	3	4	20	5.00	2.31	0.25	7.0	37.7	A	7	3.50
ジュウイチ				○				○								
ホトトギス		○	○	○	○			○								
5 ツツドリ		○	○					○								
カッコウ		○	○	○	○			○						B		
トビ		○				○		○							○	
オオタカ				○				○								
ノスリ			○				○	○							○	
10 コゲラ		2		2		1	1	4	1.00	0.46	0.05	1.4	7.5	A	2	1.00
オオアカゲラ							1								1	0.50
アカゲラ		1				○	1	1	0.25	0.12	0.01	0.4	1.9		1	0.50
アオゲラ				1				1	0.25	0.12	0.01	0.4	1.9			
サンショウクイ		2	2					4	1.00	0.46	0.05	1.4	7.5			
15 モズ				1		1	1	1	0.25	0.12	0.01	0.4	1.9		2	1.00
カケス		○	○	2				2	0.50	0.23	0.03	0.7	3.8			
ハシボソガラス		2	○	3	2	○	○	7	1.75	0.81	0.09	2.5	13.2		○	
ハシブトガラス		○		2				2	0.50	0.23	0.03	0.7	3.8			
キクイタダキ						1									1	0.50
20 ヤマガラ		1						1	0.25	0.12	0.01	0.4	1.9			
ヒガラ						3	3								6	3.00
シジュウカラ		7	3	6	3	4	5	19	4.75	2.19	0.24	6.7	35.8	A	9	4.50
イワツバメ		13	9	17	14			53	13.25	6.12	0.66	18.6	100.0	A		
ヒヨドリ		3	4	4	3	2	4	14	3.50	1.62	0.18	4.9	26.4	B	6	3.00
25 ウグイス		8	3	13	9	2	3	33	8.25	3.81	0.41	11.6	62.3	B	5	2.50
ヤブサメ			1					1	0.25	0.12	0.01	0.4	1.9			
エナガ		3		4	2			9	2.25	1.04	0.11	3.2	17.0	B		
センダイムシクイ		1	1	1				3	0.75	0.35	0.04	1.1	5.7	B		
メジロ					2			2	0.50	0.23	0.03	0.7	3.8			
30 ゴジュウカラ			1	1		1		2	0.50	0.23	0.03	0.7	3.8	B	1	0.50
ミソサザイ		2	2	3	2	1	1	9	2.25	1.04	0.11	3.2	17.0	B	2	1.00
クロツグミ		1	1	1				3	0.75	0.35	0.04	1.1	5.7	B		
アカハラ		2	2	2				6	1.50	0.69	0.08	2.1	11.3	B		
ツグミ						6	4								10	5.00
35 コルリ		2	1	2	1			6	1.50	0.69	0.08	2.1	11.3	B		
ルリビタキ						1	1								2	1.00
ジョウビタキ						2									2	1.00
キビタキ		2	1	4	1			8	2.00	0.92	0.10	2.8	15.1	A		
オオルリ		1	2	2	1			6	1.50	0.69	0.08	2.1	11.3	A		
40 カヤクグリ							1								1	0.50
スズメ		9	9	18	17	9	7	53	13.25	6.12	0.66	18.6	100.0	A	16	8.00
ベニマシコ						2	2								4	2.00
ウソ						2									2	1.00
シメ						1	2								3	1.50
45 イカル			1		1			2	0.50	0.23	0.03	0.7	3.8	B		
ホオジロ		2	2	3	2	2	2	9	2.25	1.04	0.11	3.2	17.0	B	4	2.00
ノジコ					1			1	0.25	0.12	0.01	0.4	1.9			
アオジ		1		1	1			3	0.75	0.35	0.04	1.1	5.7	B		
クロジ						1									1	0.50
50																
計	範囲内	個体数	69	50	101	65	45	43	285	71.25	32.88	3.56			88	44.00
		種 数	21	18	23	17	19	17	30						22	
		全 種 数	27	24	27	19	23	19	37						26	

市町村名	安中市（旧松井田町）	地形図名	松井田c	調 査 者	黒澤 正明
調査範囲	4 k m（調査距離）×50m（幅）＝20ha			調査地の標高	340 ～ 400 m

調査コース

- 妙義山の北東面で、碓氷川と並行して進む調査コースである。スギの植林地と広葉樹の雑木林の間に、畑と人家が点在する、里山的環境が主となっている。
- 今回の調査では、シジウカラの雛の声が記録され、繁殖が確認された。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

調査コースは前回と同じである。

里澤 正明

-121-